

人権問題に関する意識調査

報告書

2026年（令和8年）3月

和歌山市

はじめに

人権とは、人間が生まれながらにして持っている権利であり、すべての人が幸福な生活を営むために欠かすことのできない権利です。

和歌山市では、市民一人ひとりの人権が尊重される社会を実現するために、1994年（平成6年）12月に「和歌山市部落差別をはじめあらゆる差別をなくする条例」を制定し、2000年（平成12年）11月には本市の人権施策の基本的な方向性を示す「和歌山市人権施策推進指針」を策定しました。また、この指針に基づき、施策を計画的かつ効果的に推進することを目的とした「人権施策推進行動計画」を2003年（平成15年）3月に策定し、以降、社会情勢の変化を踏まえた見直しを行いながら、人権意識の高揚と人権尊重の社会環境づくりに努めてまいりました。

このたび、本市がこれまで取り組んできた人権教育・啓発活動等の成果を検証するとともに、市民の皆様の人権に対する意識の変化や動向を把握し、今後の人権に関する施策推進の参考とするため、「人権問題に関する意識調査」を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

今回の調査結果を、本市の人権施策を総合的かつ計画的に推進するための「和歌山市人権施策推進指針」及び「和歌山市人権施策推進行動計画」に反映し、市行政のあらゆる分野で人権尊重の視点に立った幅広い取組を進めてまいります。

最後になりましたが、この調査の実施にあたり、調査にご協力いただきました市民の皆様に厚くお礼申し上げます。

2026年（令和8年）3月

和歌山市長 尾花正啓

目 次

I 調査の概要	1
II 調査回答者の基本的な属性	3
III 調査の結果	4
1. 人権について	5
○人権の擁護について (問1)	5
○人権についての関心度 (問2)	7
○関心のある人権問題 (問3)	9
○自分が受けた人権侵害の有無 (問4)	13
○自分が受けた人権侵害の内容 (問4-2)	15
○人権侵害を受けたときの対応 (問4-3)	19
○講演会や研修会への参加の有無 (問5)	23
○参加したい講演会や研修会の啓発活動 (問5-2)	25
2. 公権力と人権について	28
○公権力に関する人権上の問題点 (問6)	28
3. 市民相互の人権について	31
○近隣の人との人間関係に対する満足感 (問7)	31
4. 同和問題(部落差別)について	33
○差別に関する意識 (問8)	33
○結婚に対する姿勢 (問9)	35
○同和問題(部落差別)に対する人権上の問題点 (問10)	37
5. 女性の人権について	39
○女性に関する人権上の問題点 (問11)	39
6. 子どもの人権について	43
○子どもに関する人権上の問題点 (問12)	43
7. 高齢者の人権について	47
○高齢者に関する人権上の問題点 (問13)	47
8. 障害のある人の人権について	51
○障害のある人に関する人権上の問題点 (問14)	51

9. 外国人の人権について	55
○外国人に関する人権上の問題点（問15）	55
10. 感染症（ハンセン病、HIV等）・難病患者等の人権について.....	59
○感染症（ハンセン病、HIV等）・難病患者等に関する人権上の問題点（問16）	59
11. 犯罪被害者及びその家族の人権について	63
○犯罪被害者とその家族に関する人権上の問題点（問17）	63
12. 刑事手続きに関わりをもった人の人権について.....	67
○刑事手続きに関わりをもった人に関する人権上の問題点（問18）	67
13. インターネット等における人権について	71
○情報化社会（インターネット等）における人権上の問題点（問19）	71
14. 性的マイノリティの人の人権について	75
○性的マイノリティの人に関する人権上の問題点（問20）	75
15. 働く人の人権について	79
○働く人に関する人権上の問題点（問21）	79
16. 拉致問題について	83
○拉致問題に関する人権上の問題点（問22）	83
17. さまざまな人権問題について	87
○ホームレス、自死（自殺）、プライバシーの保護に関する人権上の問題点（問23） ...	87
18. 今後の取組について	89
○人権が尊重される社会を実現するための方策（問24）	89
19. 人権について感じていること（自由意見）	93
 参考資料 意識調査票	 100

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、市民のさまざまな人権問題に関する意識の現状を把握し、今後の人権教育及び人権啓発に関する取組をはじめ、今後の人権施策を推進していく上での基礎資料を得るために実施した。

2. 調査項目

- | | |
|-------------------------|---|
| (1) 人権について | (2) 公権力と人権について |
| (3) 市民相互の人権について | (4) 同和問題（部落差別）について |
| (5) 女性の人権について | (6) 子どもの人権について |
| (7) 高齢者の人権について | (8) 障害のある人の人権について |
| (9) 外国人の人権について | (10) 感染症（ハンセン病、H I V等）
・難病患者等の人権について |
| (11) 犯罪被害者及びその家族の人権について | (12) 刑事手続きに関わりをもった人の人権
について |
| (13) インターネット等における人権について | (14) 性的マイノリティの人の人権について |
| (15) 働く人の人権について | (16) 拉致問題について |
| (17) さまざまな人権問題について | (18) 今後の取組について |
| (19) 人権について感じていること | |

3. 調査の実施方法

- | | |
|----------------|---|
| (1) 調査の対象者 | 18歳以上の和歌山市民 |
| (2) 調査の対象者数 | 3,000人 |
| (3) 調査対象者の抽出方法 | 住民基本台帳より無作為抽出 |
| (4) 調査票の配布方法 | 宅配メール便による送付 |
| (5) 調査票の回収方法 | 郵送及びインターネットにより回答（調査票、返信用封筒及び
インターネットによる回答は無記名） |
| (6) 調査期間 | 令和7年5月27日から同年6月30日まで |

4. 調査票の回収結果

- | | |
|------------|-------------------------|
| (1) 調査票発送数 | 3,000人（令和元年度実施時は5,000人） |
| (2) 回収数 | 964人（令和元年度実施時は1,415人） |
| (3) 回収率 | 32.1%（令和元年度実施時は28.3%） |

5. 集計結果についての留意点

- (1) 本文や図表中で比率を表す数値（単位：％）については、小数点第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記載している。
- (2) 各選択肢の回答者の割合として示している数値は、回答総数に対する比率ではなく、回答者数に対する比率である。従って、複数回答（一人の回答者が複数の選択肢を回答する）形式の設問においては、各選択肢の回答率の合計は、原則として100%を超える。
- (3) 上記（1）の処理がなされているために、単一回答（複数選択肢から1つだけ選んで回答する）形式において、図表中に示された各種選択肢の回答率を合計しても100%にならないことがある。

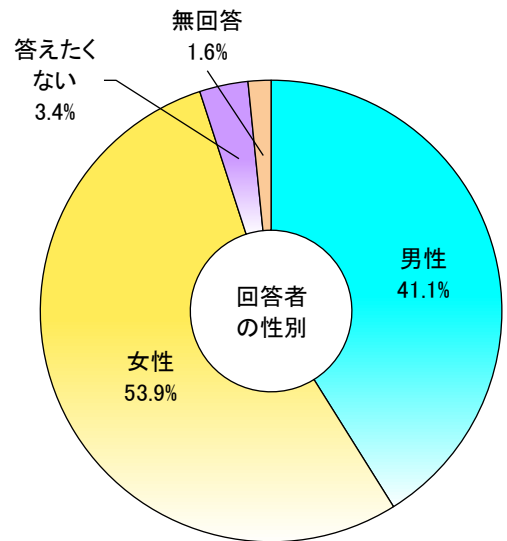
II 調査回答者の基本的な属性

1. 回答者の性別

	回収数	割合 (%)
男性	396	41.1%
女性	520	53.9%
答えたくない	33	3.4%
無回答	15	1.6%
全体	964	100.0%

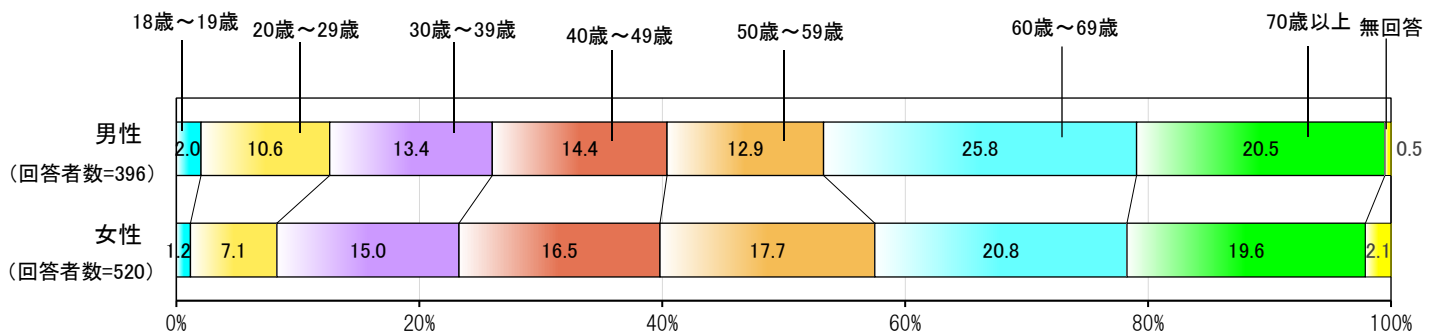
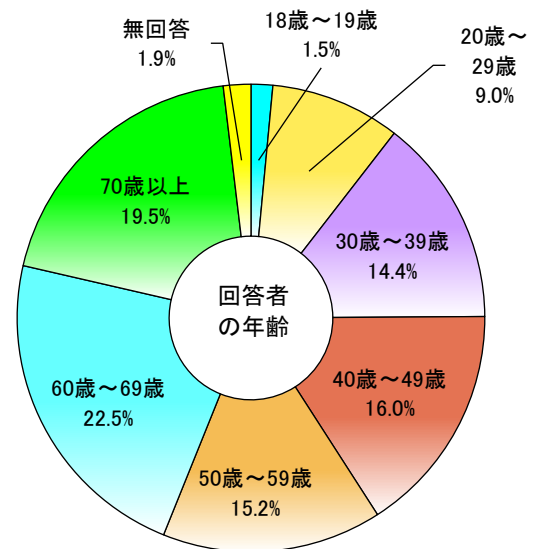
回答者総数は 964 人で、「女性」が 53.9%、「男性」が 41.1%と「女性」の回答が 12.8 ポイント高くなっている。

前回の調査は、「女性」が 57.1%、「男性」が 40.8%であった。



2. 回答者の年代

	回収数	割合 (%)
18歳～19歳	14	1.5%
20歳～29歳	87	9.0%
30歳～39歳	139	14.4%
40歳～49歳	154	16.0%
50歳～59歳	147	15.2%
60歳～69歳	217	22.5%
70歳以上	188	19.5%
無回答	18	1.9%
全体	964	100.0%



回答者の割合を年代別で見ると、「60歳代」が 22.5%と最も高く、次いで「70歳以上」が 19.5%、「40歳代」が 16.0%となっている。

性別・年代別で見ると、男性は 60歳代が最も高く、次いで 70歳以上、40歳代となっている。女性は 60歳代が最も高く、次いで 70歳以上、50歳代となっている。

Ⅲ 調査の結果

1. 人権について

○人権の擁護について

問 1 あなたの身の回りで人権が守られていると思いますか。(○は1つだけ)

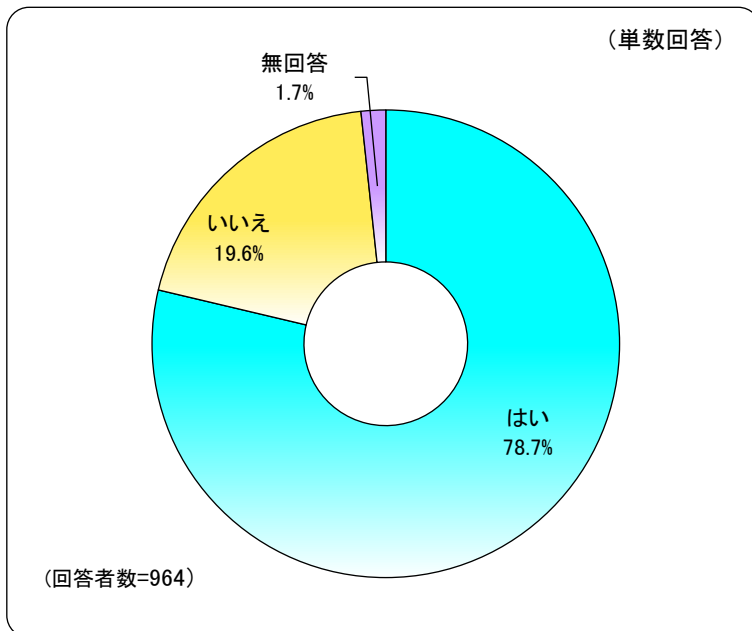
1. はい

2. いいえ

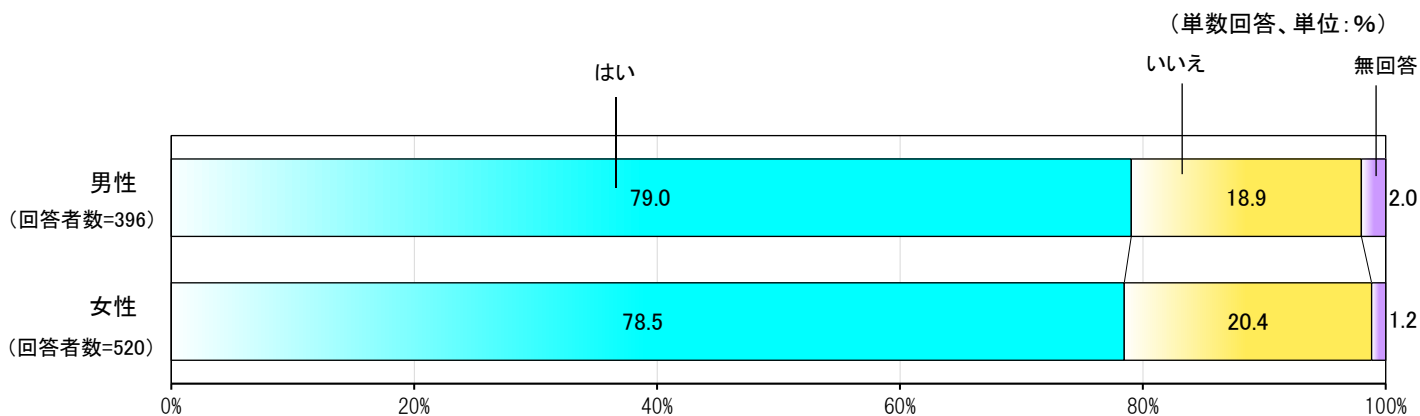
全体集計

人権が守られていると思うかの質問に対しては「はい」の割合が78.7%と8割近くを占めている。

一方、「いいえ」と答えた人の割合は19.6%となっている。



性別集計

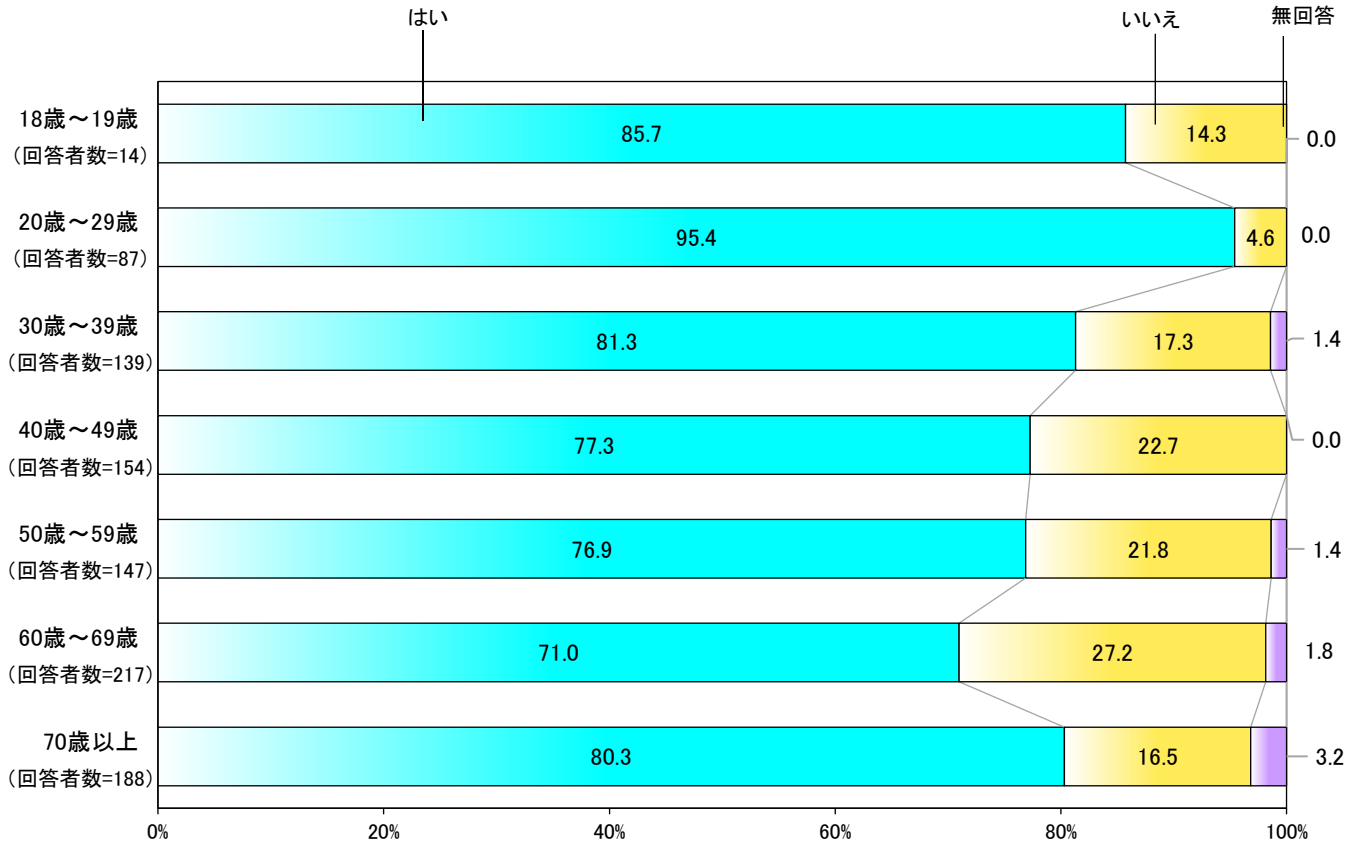


性別でみると、女性、男性ともに約8割の方が「はい」と回答し、人権は守られていると感じていることがわかる。

また、「いいえ」と答えた割合は、男性 (18.9%) よりも女性 (20.4%) の方が 1.5 ポイント高くなっている。

年代別集計

(単数回答、単位：%)



年代別で見ると、「はい」と答えた人で、最も高かった割合は20歳代で95.4%であり、最も低かったのは60歳代で71.0%となっている。

○人権についての関心度

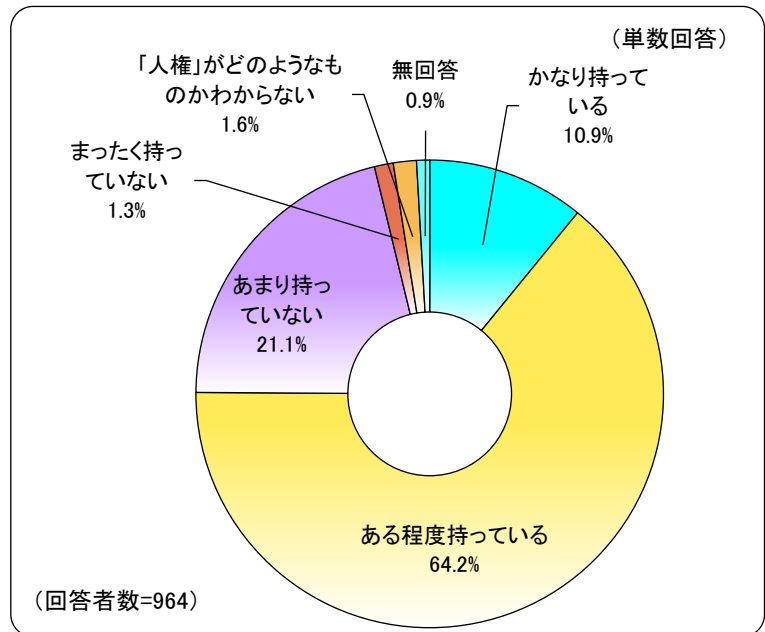
問 2 あなたは、「人権」に関心を持っていますか。次の中から選んでください。(○は1つだけ)

1. かなり持っている
2. ある程度持っている
3. あまり持っていない
4. まったく持っていない
5. 「人権」がどのようなものかわからない

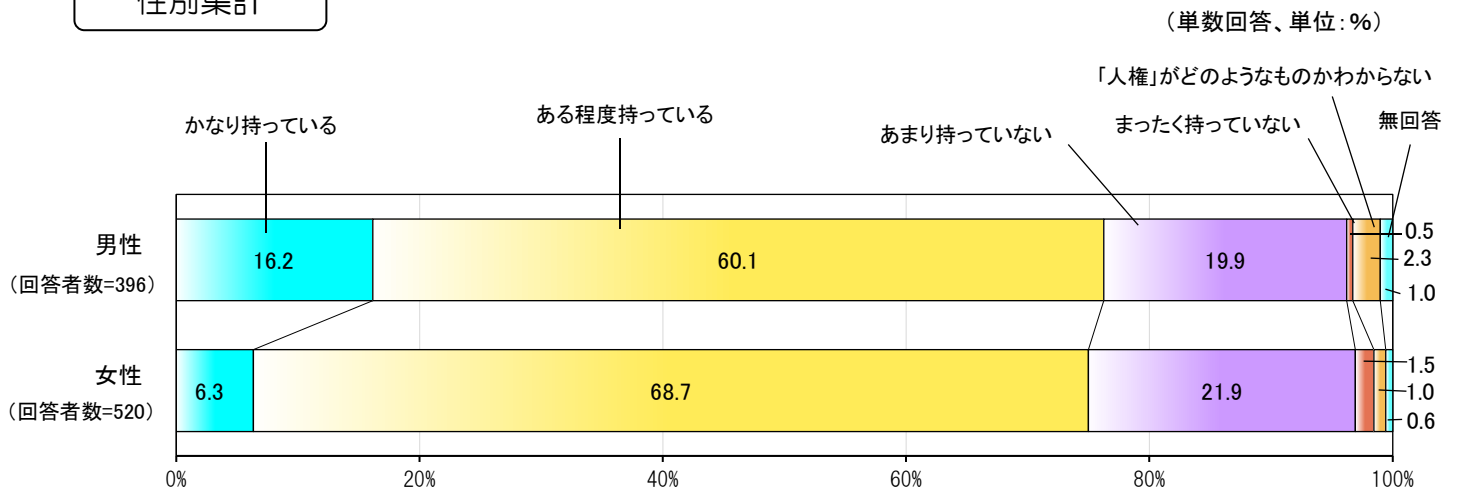
全体集計

「ある程度持っている」の割合が64.2%と最も高く、「かなり持っている」の10.9%と合わせると75.1%が「人権に関心を持っている」としている。

一方、「あまり持っていない」の21.1%と「まったく持っていない」の1.3%を合わせた22.4%が「人権に関心を持っていない」としている。



性別集計

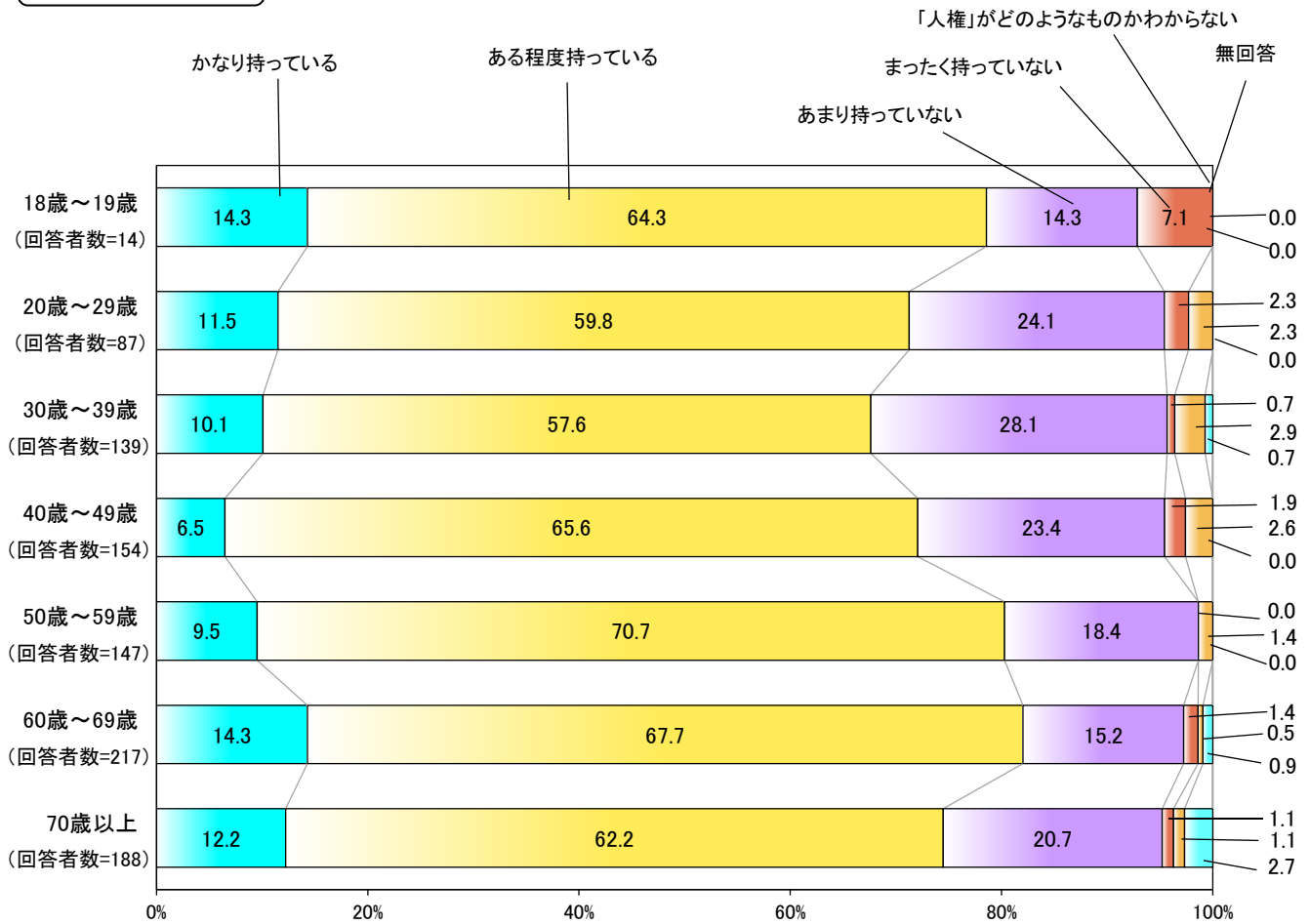


性別で見ると、男女ともに「かなり持っている」と「ある程度持っている」を合わせた割合は7割以上であり、「人権に関心を持っている」ことがうかがえる。

また、「あまり持っていない」と「まったく持っていない」を合わせた「人権に関心を持っていない」割合は、男性(20.4%)よりも女性(23.4%)の方が3.0ポイント高くなっている。

年代別集計

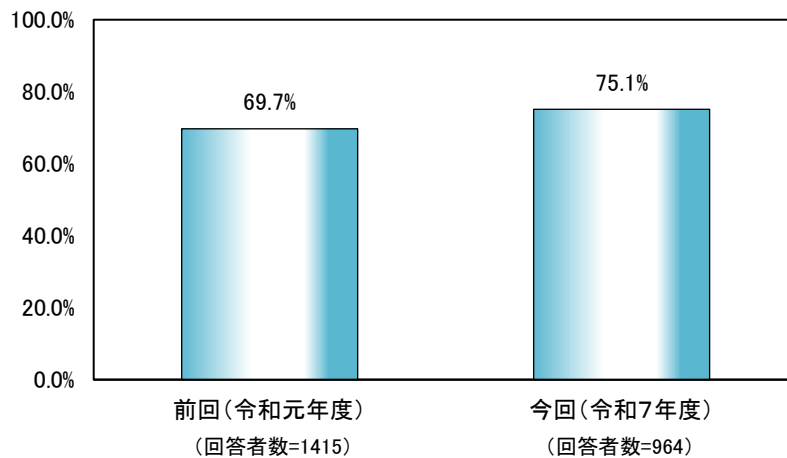
(単数回答、単位：%)



年代別で見ると、「かなり持っている」と「ある程度持っている」を合わせた割合は、60歳代で最も高く、次いで50歳代、10歳代となり、30歳代が最も低くなっている。

過去の調査との比較

「人権に関心を持っている」割合について、前回調査と比較した。

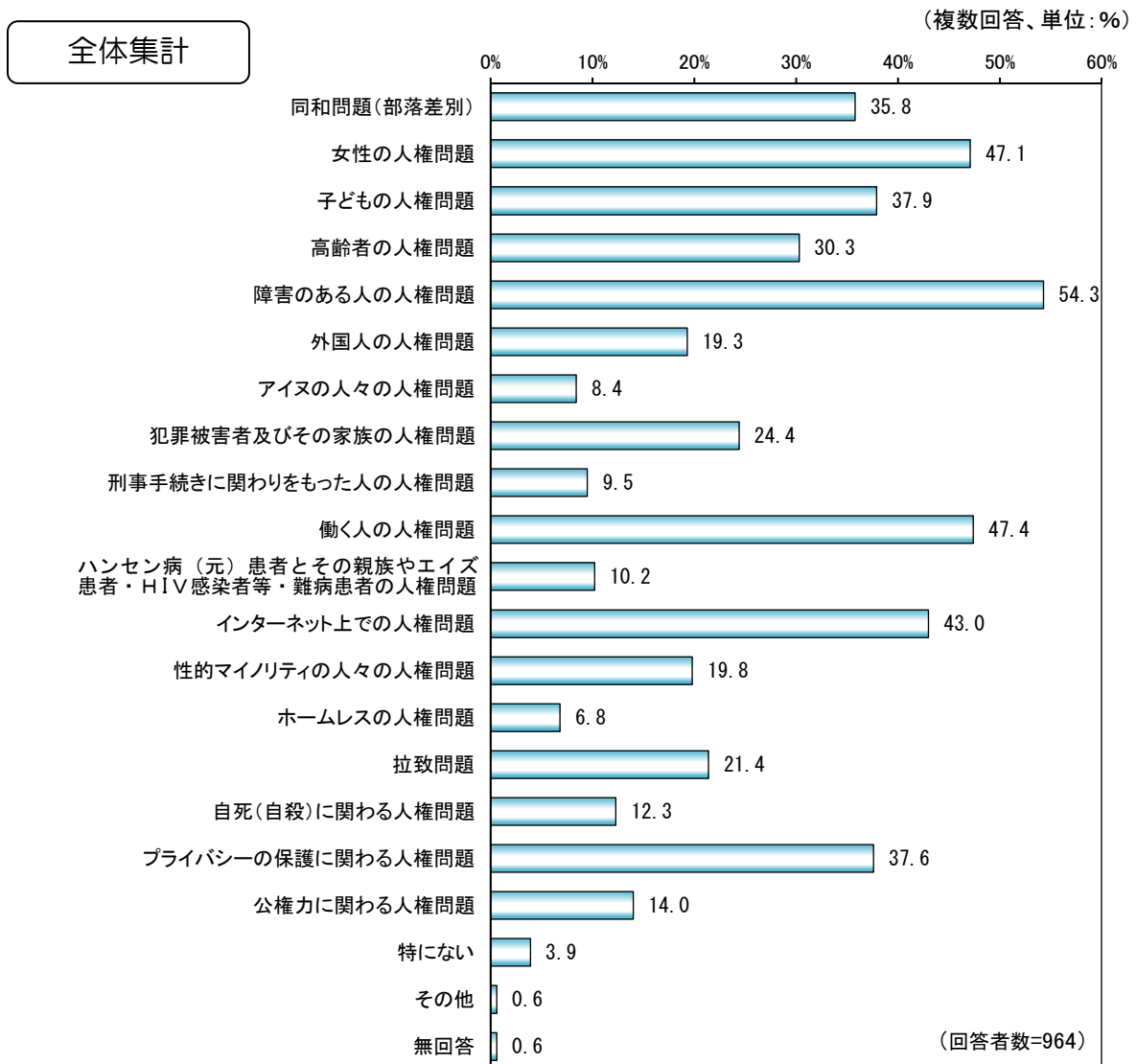


今回の調査において、「かなり持っている」と「ある程度持っている」を合わせた「人権に関心を持っている」割合は前回に比べて5.4ポイント増加している。

○関心のある人権問題

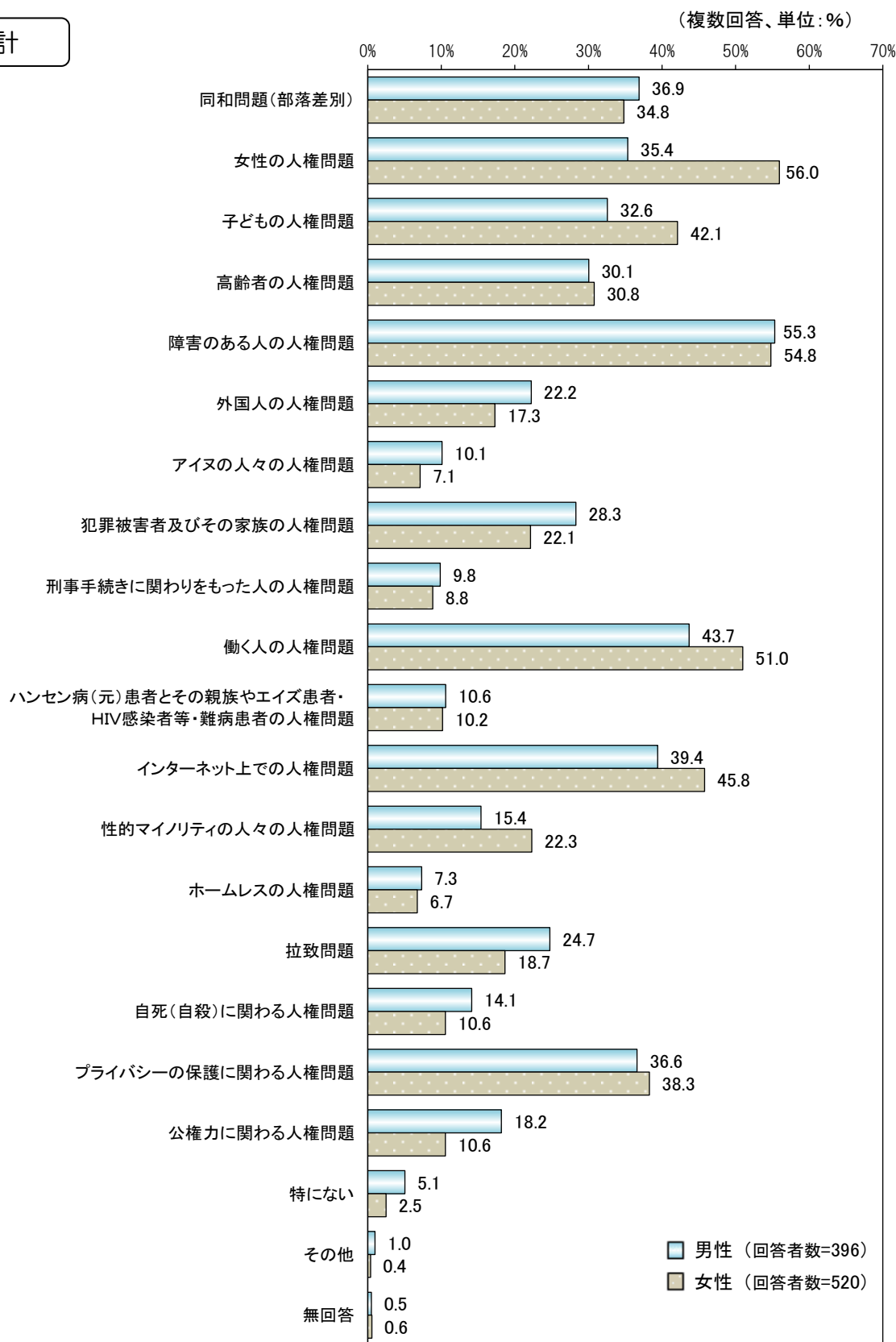
問 3 あなたは、「人権問題」というと、特にどのような問題に関心がありますか。
次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. 同和問題（部落差別）
2. 女性の人権問題
3. 子どもの人権問題
4. 高齢者の人権問題
5. 障害のある人の人権問題
6. 外国人の人権問題（ヘイトスピーチなど）
7. アイヌの人々の人権問題
8. 犯罪被害者及びその家族の人権問題
9. 刑事手続きに関わりをもった人（刑務所などを出所した人や被疑者、被告人）の人権問題
10. 働く人の人権問題（職場におけるハラスメントの問題や長時間労働など）
11. ハンセン病（元）患者とその親族やエイズ患者・HIV感染者等・難病患者の人権問題
12. インターネット上での人権問題
13. 性的マイノリティの人々（同性愛者、性同一性障害、自分の性に違和感があるなどの人々）の人権問題
14. ホームレスの人権問題
15. 拉致問題
16. 自死（自殺）に関わる人権問題
17. プライバシーの保護に関わる人権問題
18. 公権力に関わる人権問題
19. 特にない
20. その他（ ）



「障害のある人の人権問題」の割合が 54.3% と最も多く、次いで「働く人の人権問題」が 47.4%、「女性の人権問題」が 47.1%となっている。

性別集計

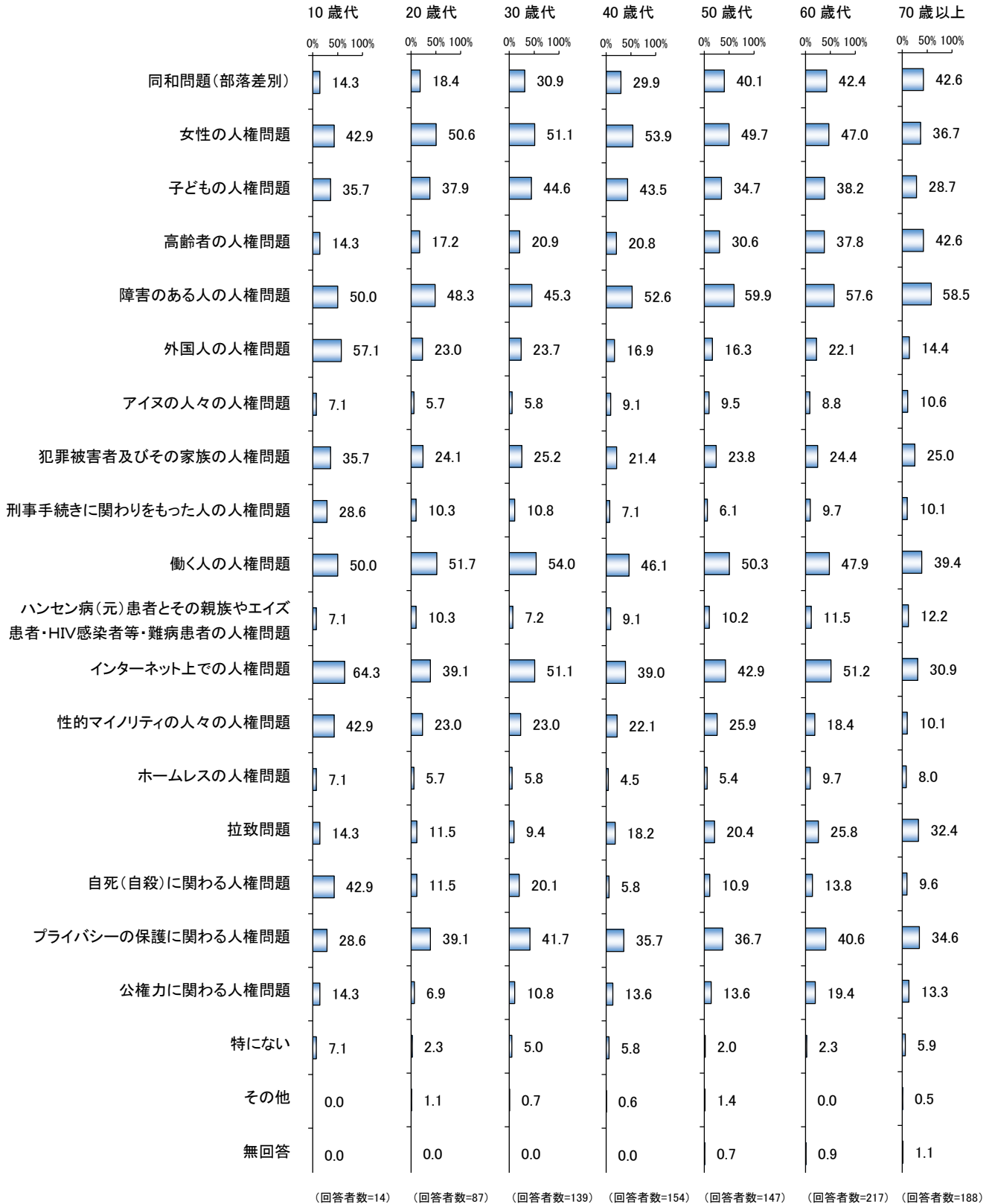


性別で見ると、男性は「障害のある人の人権問題」の割合が最も高く（55.3%）、次いで「働く人の人権」（43.7%）、「インターネット上での人権問題」（39.4%）となっている。女性は「女性の人権問題」の割合が最も高く（56.0%）、次いで「障害のある人の人権問題」（54.8%）、「働く人の人権問題」（51.0%）となっている。

「女性の人権問題」が最も男女差が大きく、女性（56.0%）の方が男性（35.4%）より20.6ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位:%)



年代別で見ると、10 歳代では「インターネット上での人権問題」、20 歳代・30 歳代では「働く人の人権問題」、40 歳代では「女性の人権問題」、50 歳代以上では「障害のある人の人権問題」の割合が最も高くなっている。

過去の調査との比較

割合が高い順に比較

	前回（令和元年度）		今回（令和7年度）	
	問題	割合	問題	割合
1	障害のある人の人権問題	53.1%	障害のある人の人権問題	54.3%
2	同和問題（部落差別）	43.6%	働く人の人権問題	47.4%
3	働く人の人権問題	43.6%	女性の人権問題	47.1%
4	女性の人権問題	43.0%	インターネット上での人権問題	43.0%
5	子どもの人権問題	39.4%	子どもの人権問題	37.9%
6	インターネット上での人権問題	29.9%	プライバシーの保護に関わる人権問題	37.6%
7	プライバシーの保護に関わる人権問題	29.5%	同和問題（部落差別）	35.8%
8	高齢者の人権問題	27.6%	高齢者の人権問題	30.3%
9	犯罪被害者及びその家族の人権問題	26.7%	犯罪被害者及びその家族の人権問題	24.4%
10	拉致問題	23.7%	拉致問題	21.4%
11	性的マイノリティの人々の人権問題	20.1%	性的マイノリティの人々の人権問題	19.8%
12	外国人の人権問題	18.9%	外国人の人権問題	19.3%
13	ハンセン病（元）患者とその親族やエイズ患者・HIV感染者等・難病患者の人権問題	10.3%	公権力に関わる人権問題	14.0%
14	刑事手続きに関わりをもった人の人権問題	9.8%	自死（自殺）に関わる人権問題	12.3%
15	公権力に関わる人権問題	9.1%	ハンセン病（元）患者とその親族やエイズ患者・HIV感染者等・難病患者の人権問題	10.2%
16	自死（自殺）に関わる人権問題	7.8%	刑事手続きに関わりをもった人の人権問題	9.5%
17	ホームレスの人権問題	7.0%	アイヌの人々の人権問題	8.4%
18	アイヌの人々の人権問題	6.3%	ホームレスの人権問題	6.8%
19	特になし	4.7%	特になし	3.9%
20	無回答	0.9%	その他	0.6%
21	その他	0.8%	無回答	0.6%

今回の調査において、「障害のある人の人権問題」の割合が前回と同じく最も高く、次いで「働く人の人権問題」、「女性の人権問題」、「インターネット上での人権問題」が高い割合になっている。

また、前回より「インターネット上での人権問題」は13.1ポイント、「プライバシーの保護にかかわる人権問題」は8.1ポイント増加し、「同和問題（部落差別）」は7.8ポイント減少している。

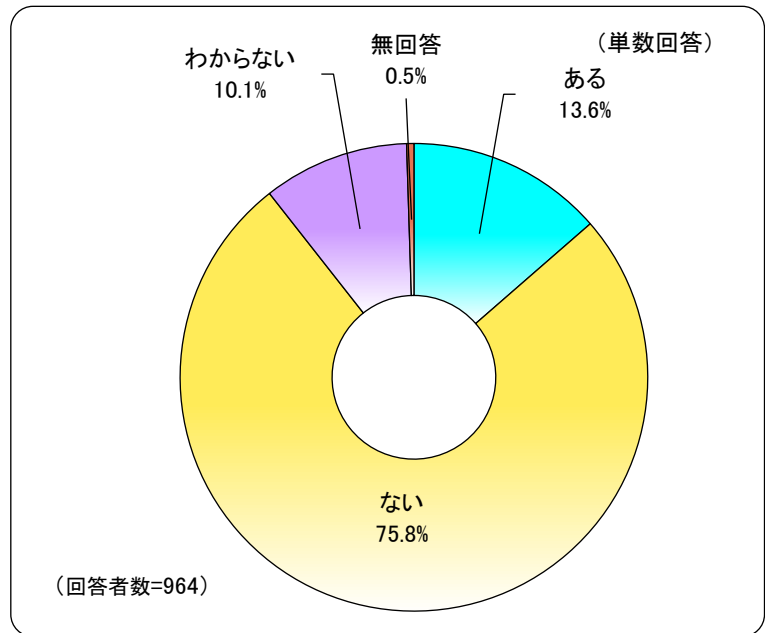
○自分が受けた人権侵害の有無

問 4 あなたは、過去約5年の間に、自分が差別や人権侵害を受けたと感じたことがありますか。
次の中から選んでください。(○は1つだけ)

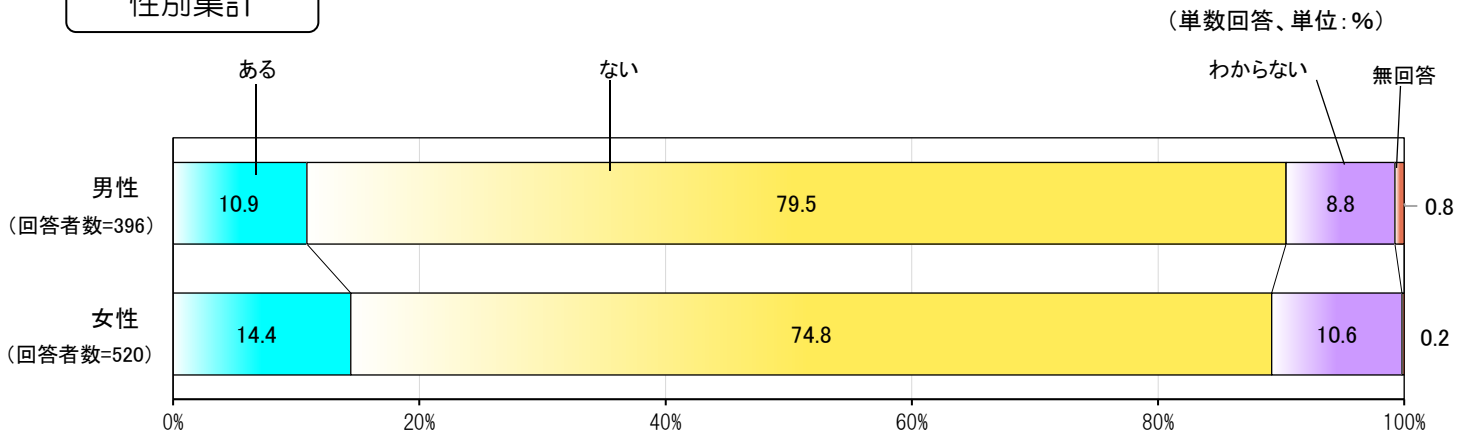
- | | | |
|----------|---|-------------------|
| 1. ある | → | 問4-2、問4-3をお答えください |
| 2. ない | → | 問5にお進みください |
| 3. わからない | → | |

全体集計

差別や人権侵害を受けたと感じたことが「ない」割合が75.8%と高くみられるものの、受けたと感じたことが「ある」は13.6%となっている。



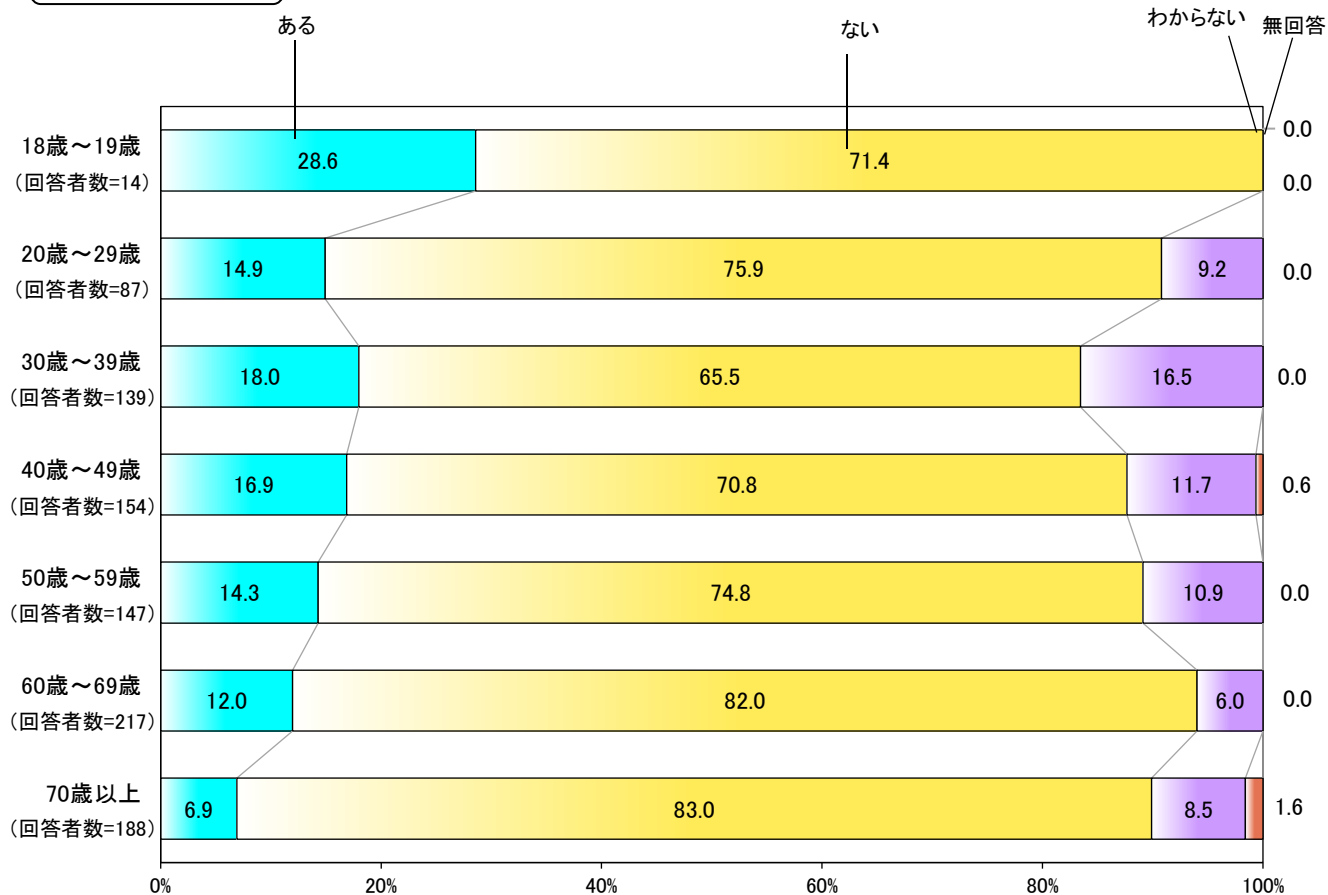
性別集計



性別でみると、人権侵害を受けたと感じたことが「ある」割合は、男性（10.9%）よりも女性（14.4%）の方が3.5ポイント高くなっている。

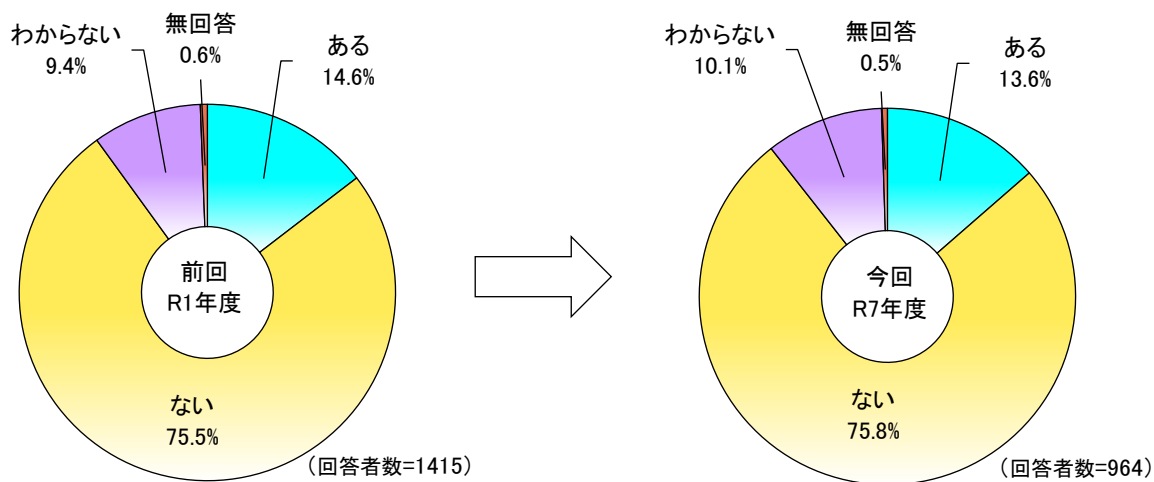
年代別集計

(単数回答、単位：%)



年代別で見ると、「ある」の割合は10歳代が28.6%と最も高く、次いで30歳代が18.0%、40歳代が16.9%となり、それ以降、年代が高くなるにつれ、「ある」の割合は減少する傾向がみられる。

過去の調査との比較



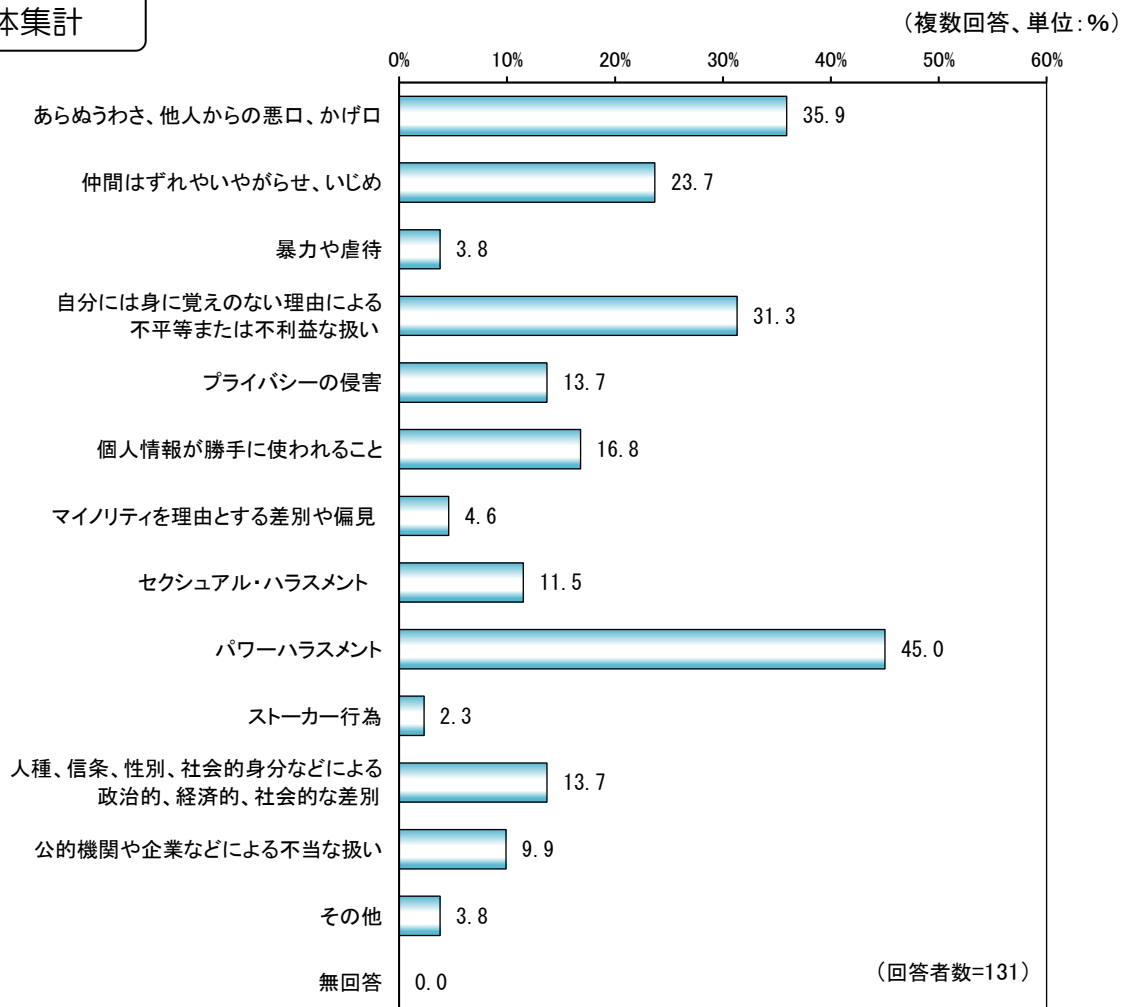
今回の調査において、人権侵害を受けたと感じたことが「ある」割合は前回に比べて1.0ポイント減少し、「ない」は0.3ポイント増加している。

○自分が受けた人権侵害の内容

問4-2 問4で「ある」と答えた方におたずねします。それはどのような場合ですか。
次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口
2. 仲間はずれやいやがらせ、いじめ
3. 暴力や虐待
4. 自分には身に覚えのない理由による不平等または不利益な扱い
5. プライバシーの侵害
6. 個人情報勝手に使われること
7. マイノリティを理由とする差別や偏見
8. セクシュアル・ハラスメント
9. パワーハラスメント
10. ストーカー行為
11. 人種、信条、性別、社会的身分などによる政治的、経済的、社会的な差別
12. 公的機関や企業などによる不当な扱い
13. その他 ()

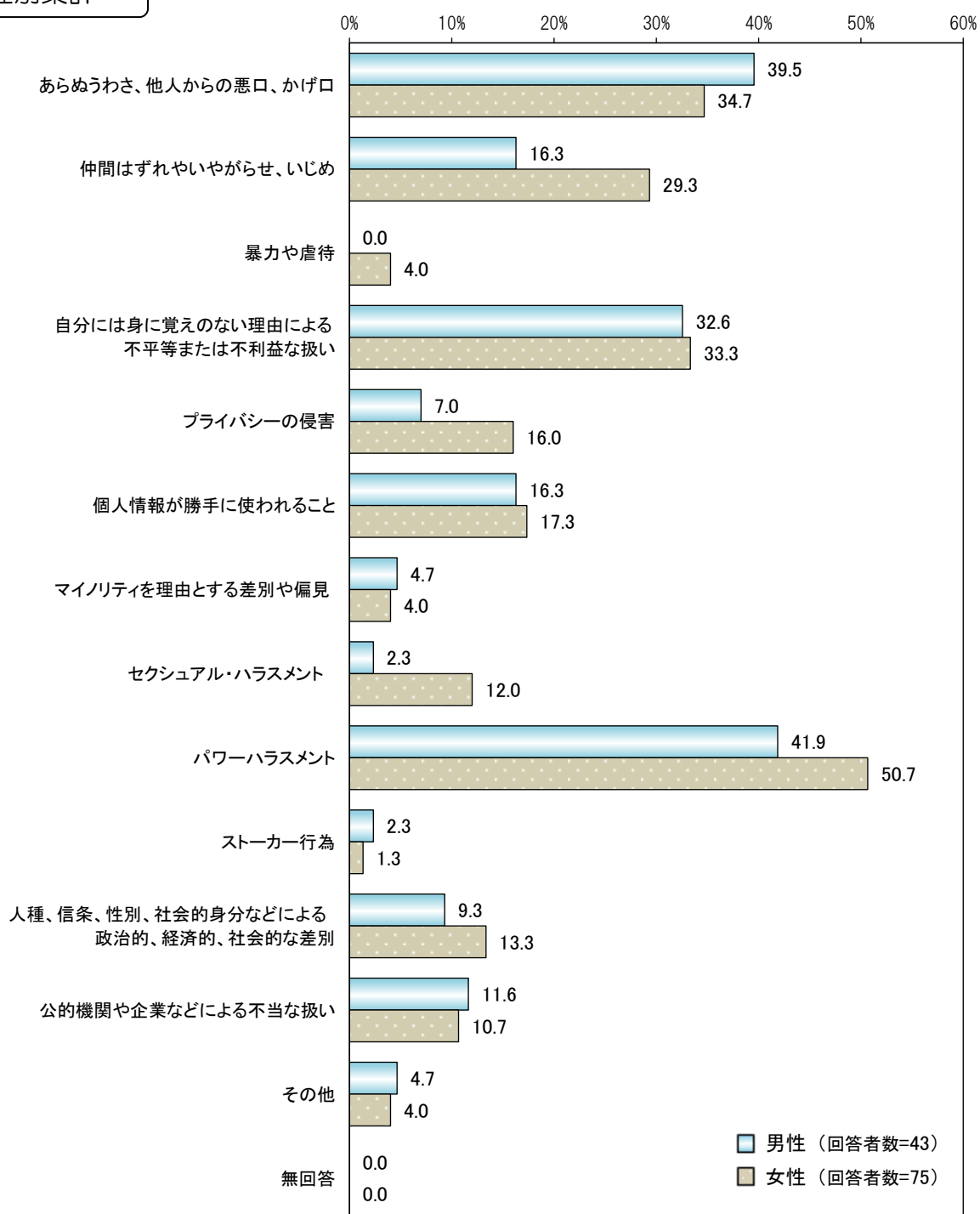
全体集計



「パワーハラスメント」の割合が 45.0%と最も高く、次いで「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」が 35.9%、「自分には身に覚えのない理由による不平等または不利益な扱い」が 31.3%となっている。

性別集計

(複数回答、単位：%)

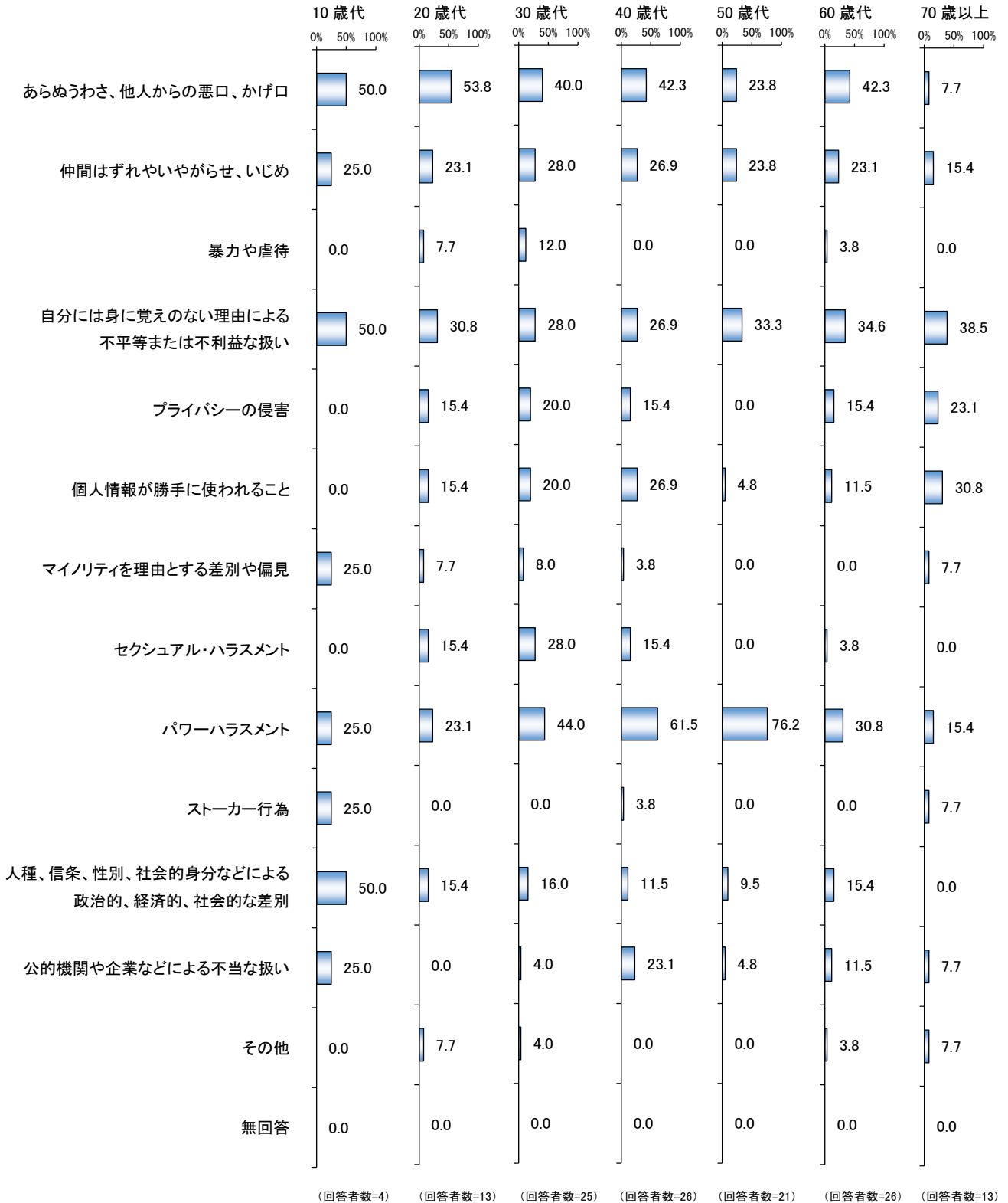


性別で見ると、男女ともに「パワーハラスメント」の割合が最も高く（男性は 41.9%、女性は 50.7%）、次いで「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」（男性は 39.5%、女性は 34.7%）、「自分には身に覚えのない理由による不平等または不利益な扱い」（男性は 32.6%、女性は 33.3%）となっている。

「仲間はずれやいやがらせ、いじめ」が最も男女差が大きく、女性（29.3%）の方が男性（16.3%）より 13.0 ポイント高くなっている。

年代別集計

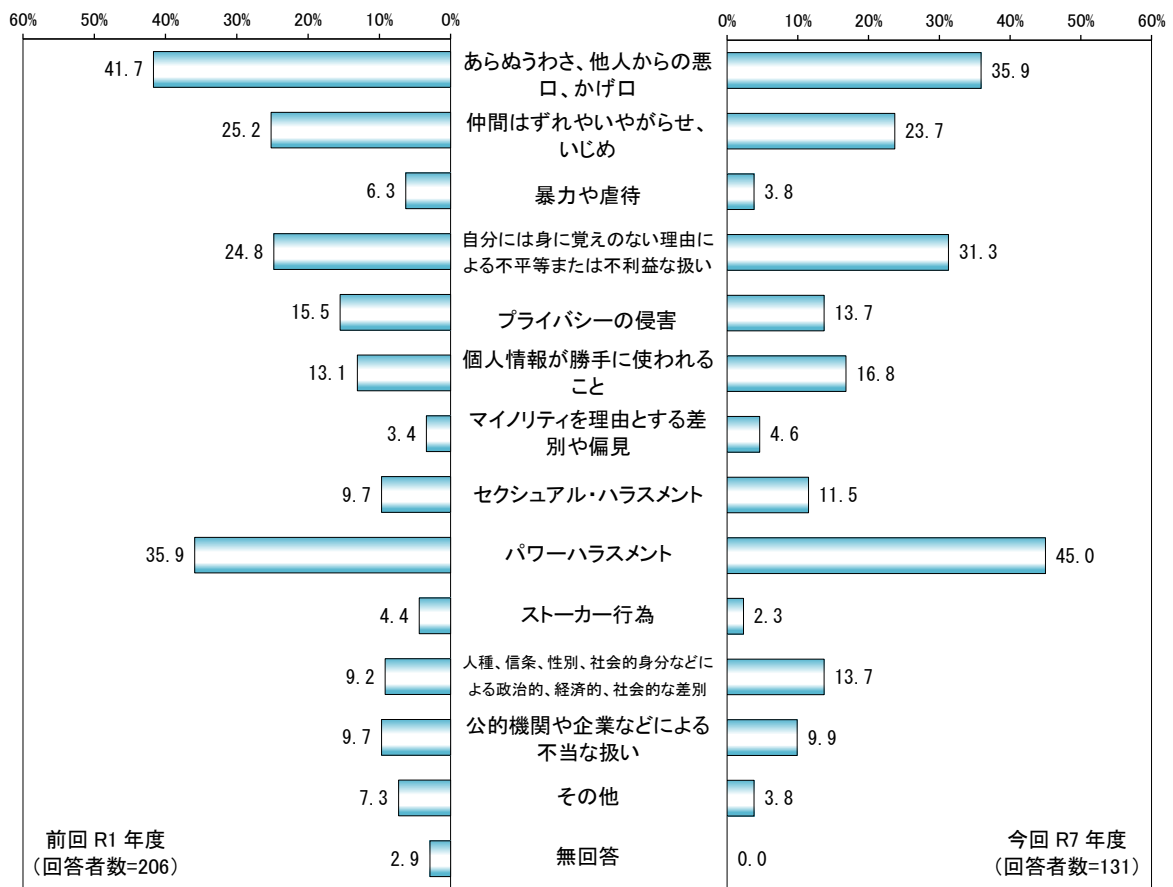
(複数回答、単位：%)



年代別でみると、10 歳代・20 歳代・60 歳代では「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」、30～50 歳代では「パワー・ハラスメント」、10 歳代・70 歳以上では「自分には身に覚えのない理由による不平等または不利益な扱い」の割合が高くなっている。

また、10 歳代では「人種、信条、性別、社会的身分などによる政治的、経済的、社会的な差別」の割合も高くなっている。

過去調査との比較



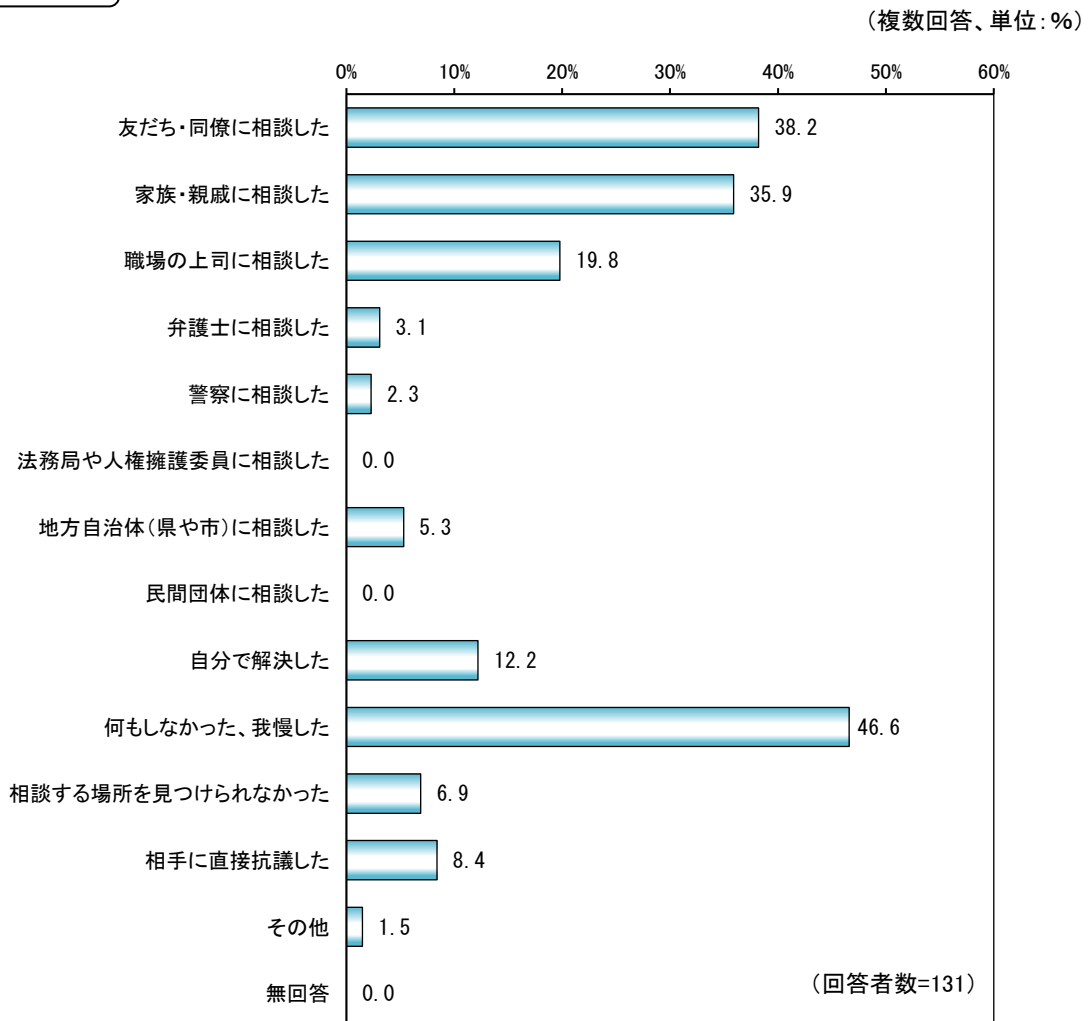
今回の調査において、「パワーハラスメント」の割合が前回に比べて 9.1 ポイント増加し、「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」（前回に比べて 5.8 ポイント減）に代わって、最も高くなった。

○人権侵害を受けたときの対応

問4-3 問4で「ある」と答えた方におたずねします。その時どうされましたか。
次の中から選んでください。(○はいくつでも)

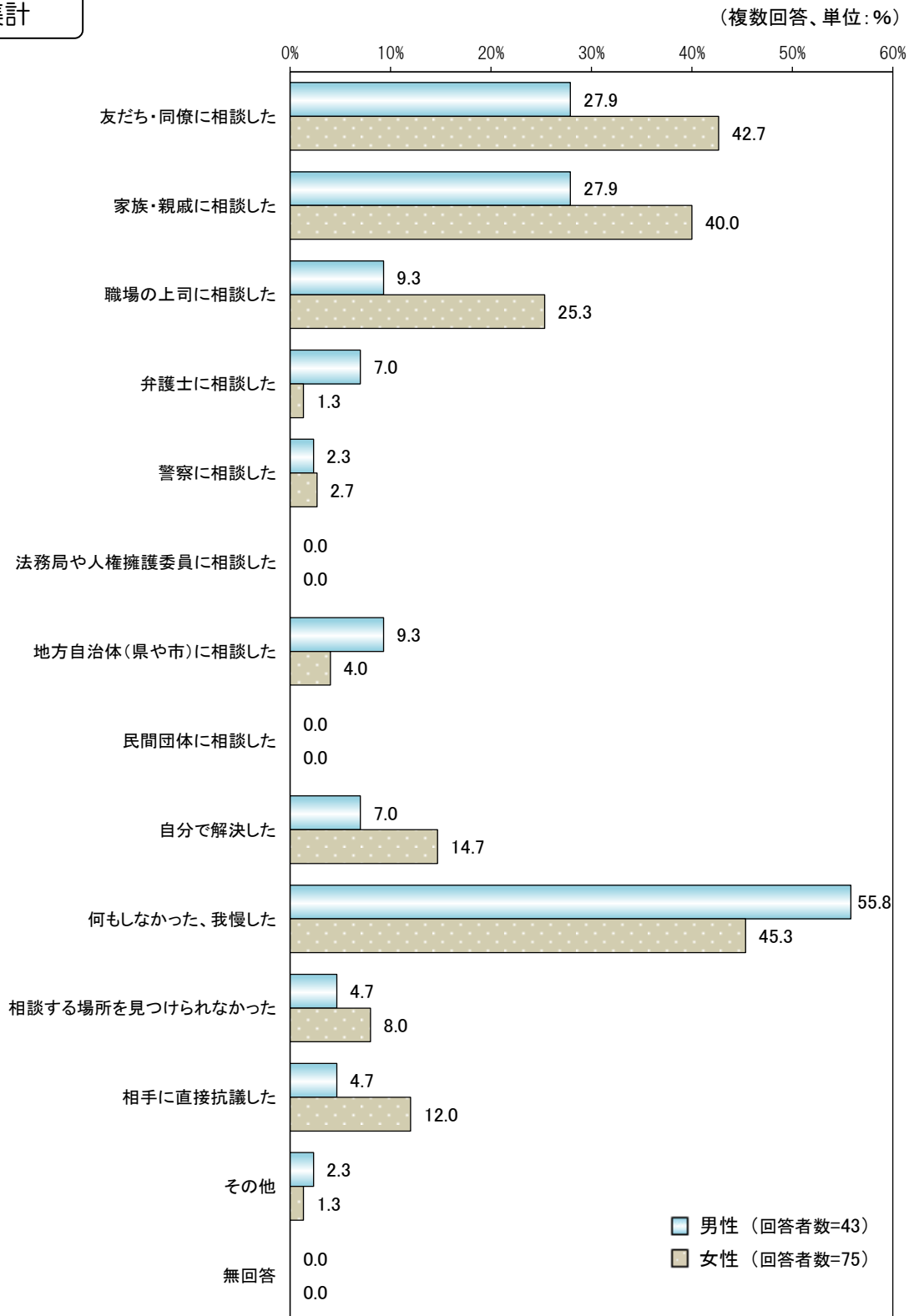
1. 友だち・同僚に相談した
2. 家族・親戚に相談した
3. 職場の上司に相談した
4. 弁護士に相談した
5. 警察に相談した
6. 法務局や人権擁護委員に相談した
7. 地方自治体(県や市)に相談した
8. 民間団体に相談した
9. 自分で解決した
10. 何もしなかった、我慢した
11. 相談する場所を見つけられなかった
12. 相手に直接抗議した
13. その他()

全体集計



「何もしなかった、我慢した」の割合が 46.6%と最も高く、次いで「友だち・同僚に相談した」が 38.2%、「家族・親戚に相談した」が 35.9%となっている。

性別集計



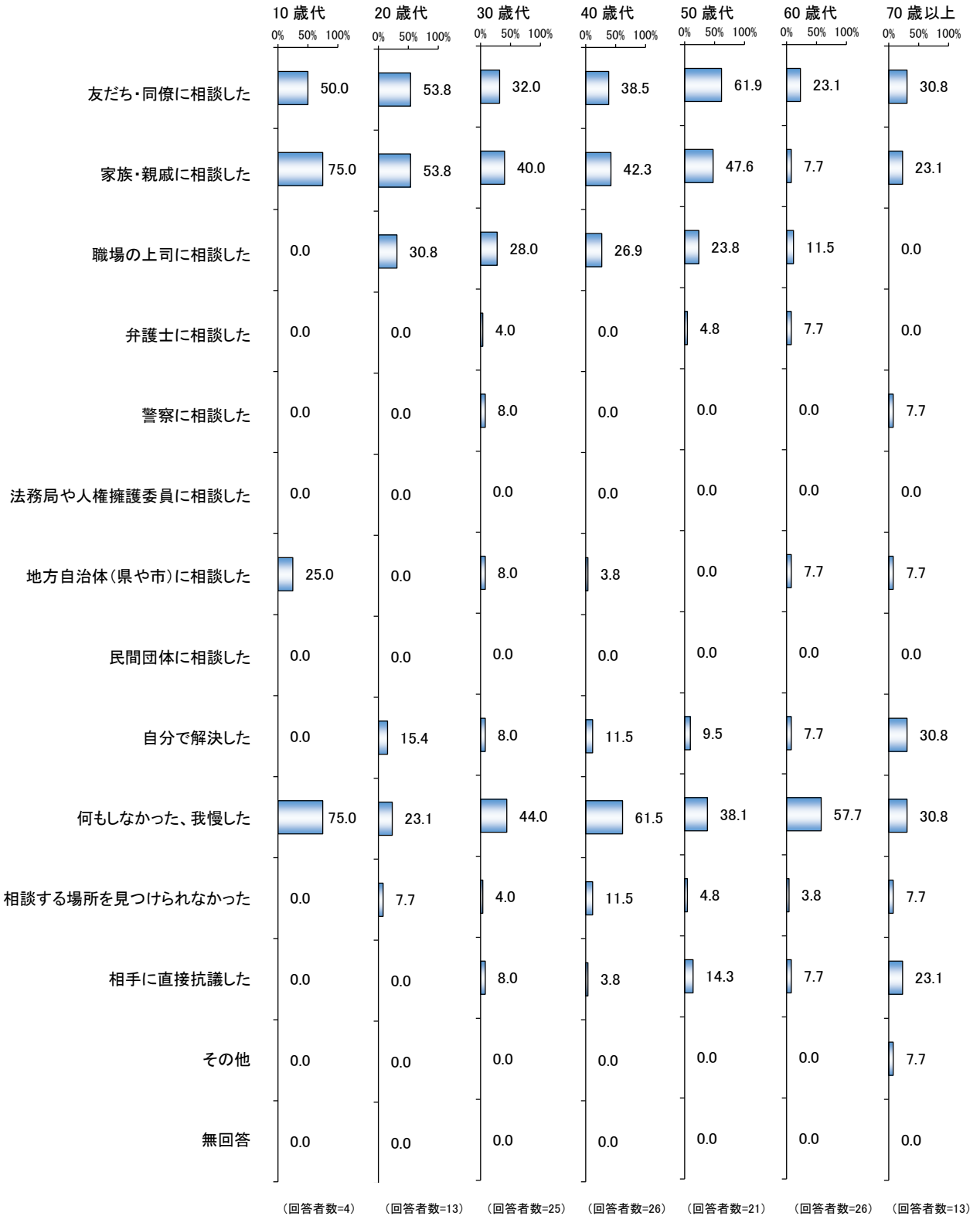
性別で見ると、「何もしなかった、我慢した」の割合が男女ともに最も高く（男性は 55.8%、女性は 45.3%）、次いで「友だち・同僚に相談した」（男性は 27.9%、女性は 42.7%）、「家族・親戚に相談した」（男性は 27.9%、女性は 40.0%）となっている。

「職場の上司に相談した」が最も男女差が大きく、男性（9.3%）よりも女性（25.3%）の方が 16.0 ポイント高くなっている。

また、「法務局や人権擁護委員に相談した」や「民間団体に相談した」は男女ともに回答なしとなっている。

年代別集計

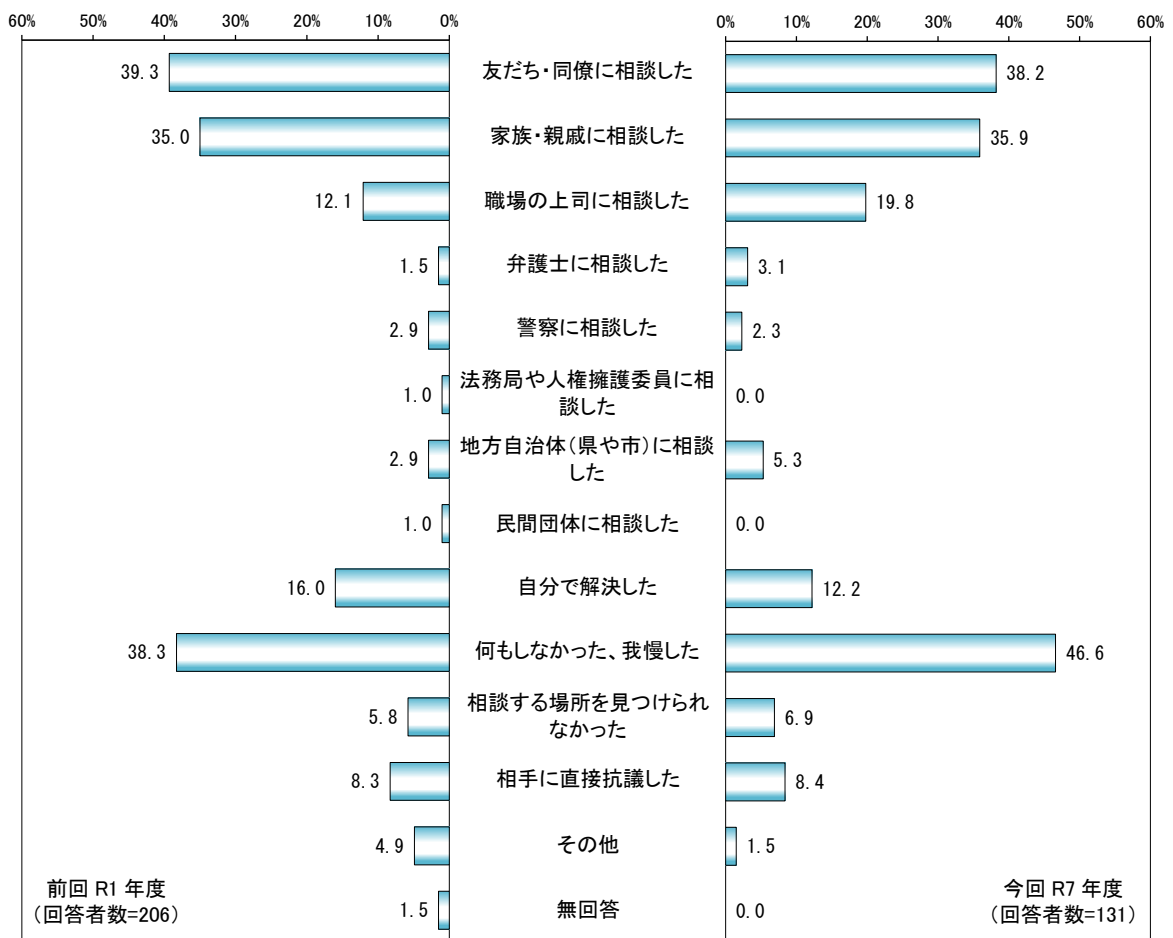
(複数回答、単位：%)



年代別で見ると、20歳代・50歳代、70歳以上は「友だち・同僚に相談した」、10歳代・20歳代は「家族・親戚に相談した」、10歳代・30歳代・40歳代、60歳以上は「何もしなかった、我慢した」が最も高くなっている。

その他の項目では、20～50歳代で「職場の上司に相談した」の割合が高かった。

過去調査との比較



今回の調査において、「何もしなかった、我慢した」の割合が前回から 8.3 ポイント増加し、「友だち・同僚に相談した」（前回から 1.1 ポイント減）に代わって、最も高くなった。また、「職場の上司に相談した」の割合も前回から 7.7 ポイント増加した。

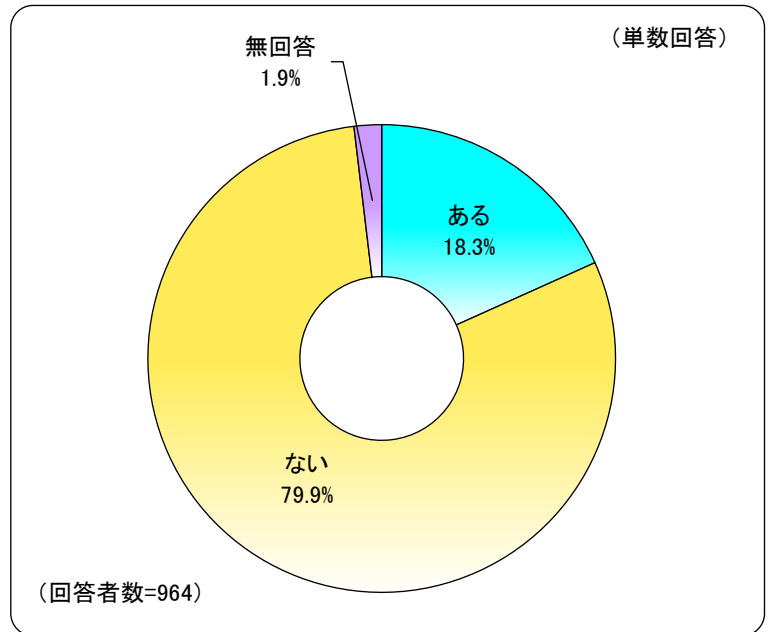
○講演会や研修会への参加の有無

問 5 あなたは、過去約5年の間に「人権問題」に関する講演会や研修会に参加したことがありますか。
次の中から選んでください。(○は1つだけ)

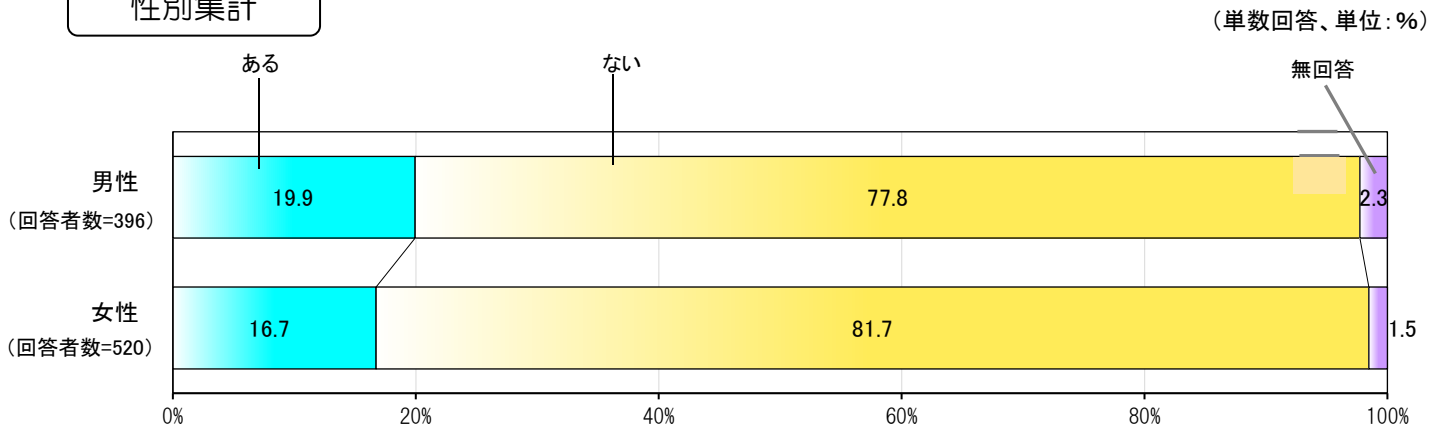
- 1. ある
- 2. ない

全体集計

「人権問題」に関する講演会や研修会への参加について、「ある」の割合が18.3%、「ない」が79.9%となっている。



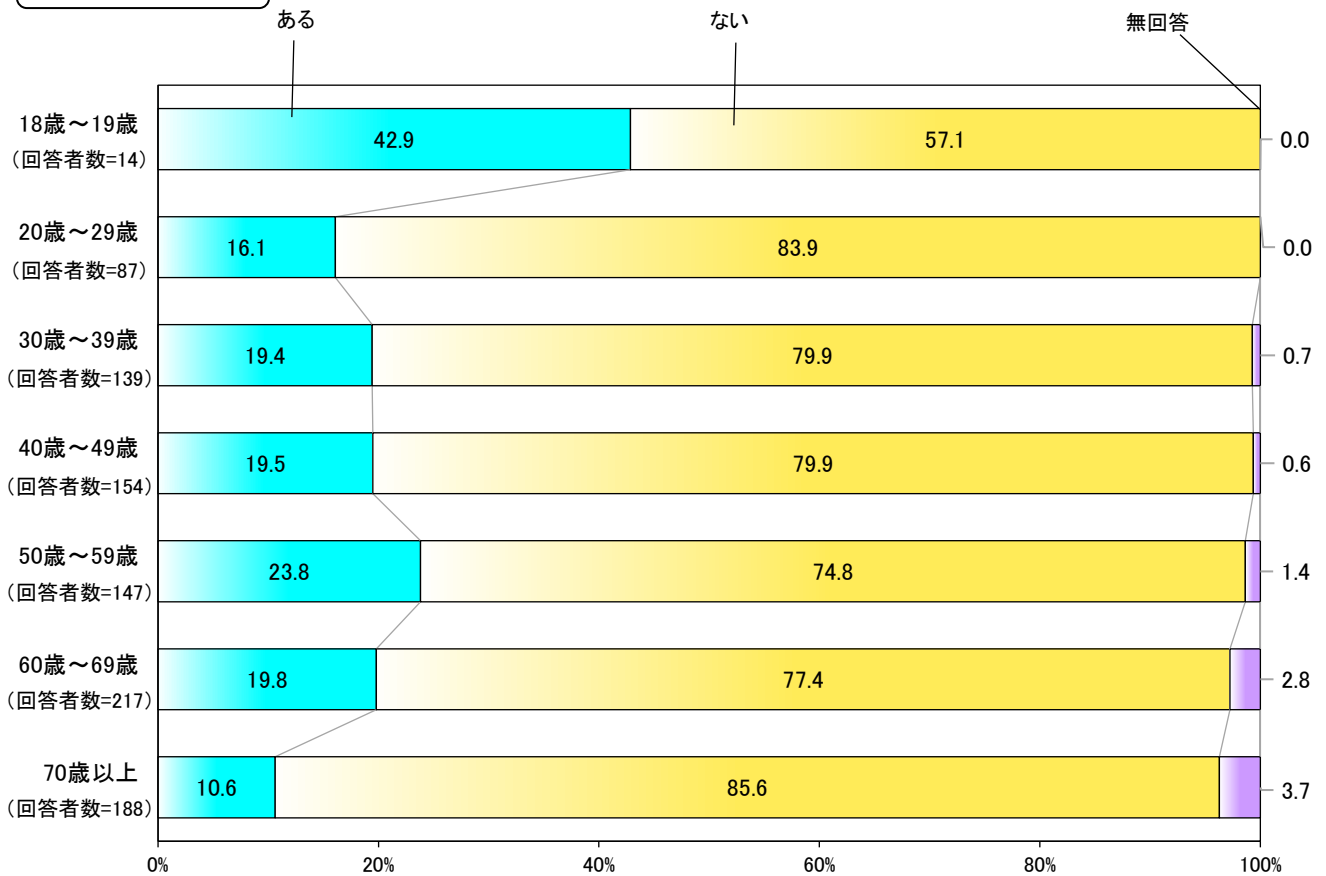
性別集計



性別で見ると、参加したことが「ある」割合は、女性(16.7%)よりも男性(19.9%)の方が3.2ポイント高くなっている。

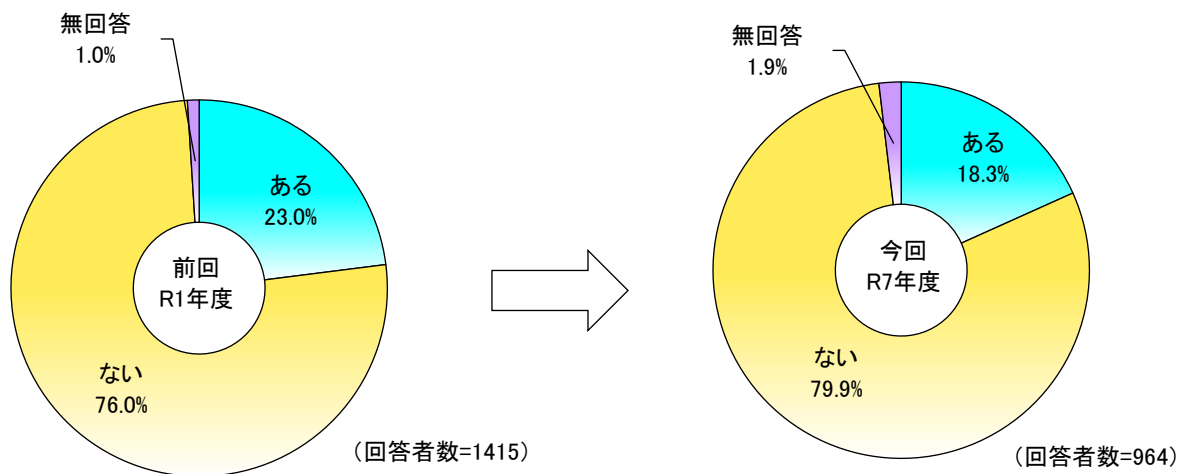
年代別集計

(単数回答、単位：%)



年代別で見ると、参加したことが「ある」割合は、10歳代が最も高く、次いで50歳代、60歳代となっている。

過去の調査との比較



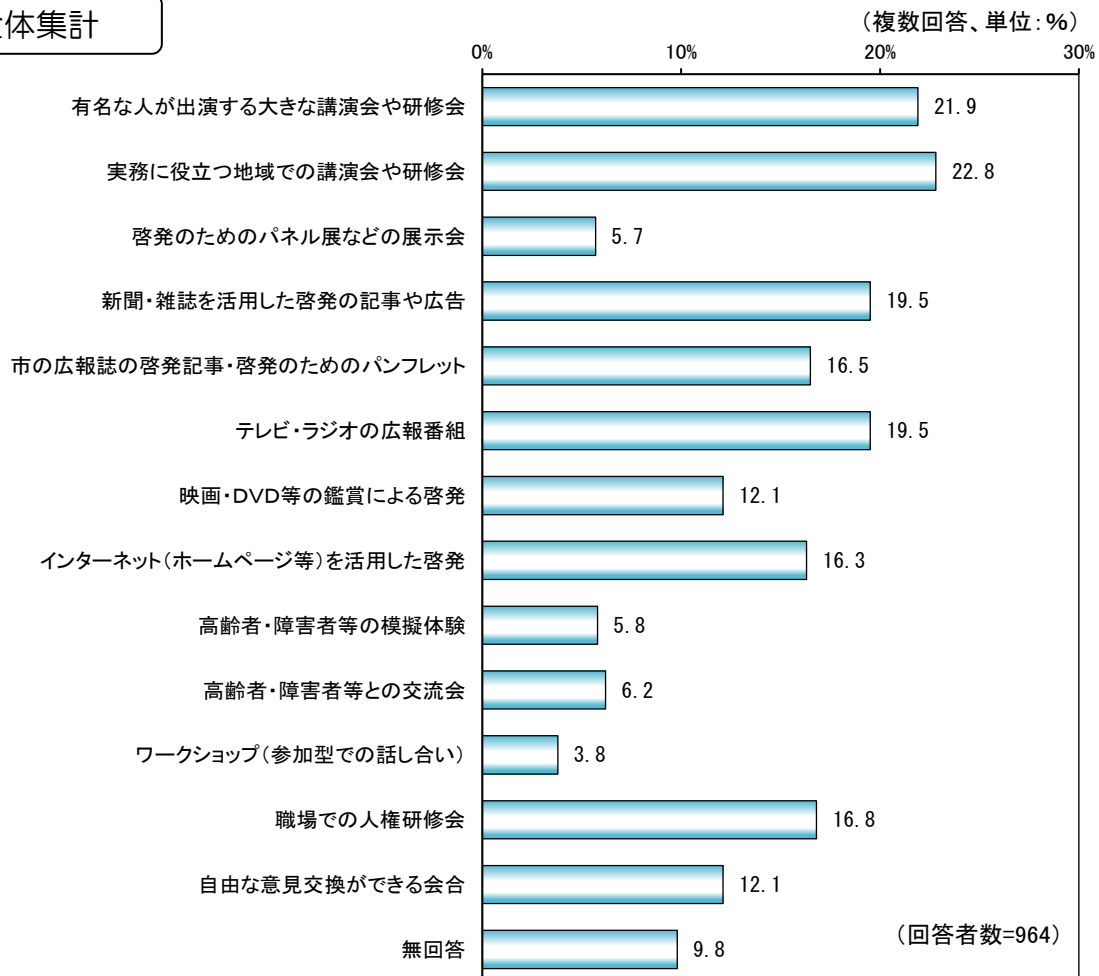
今回の調査において、参加したことが「ある」割合は前回に比べて4.7ポイント低くなっている。

○参加したい講演会や研修会の啓発活動

問5-2 あなたは、人権に関するどのような啓発活動があれば参加したい(読みたい、見たい)と思いますか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

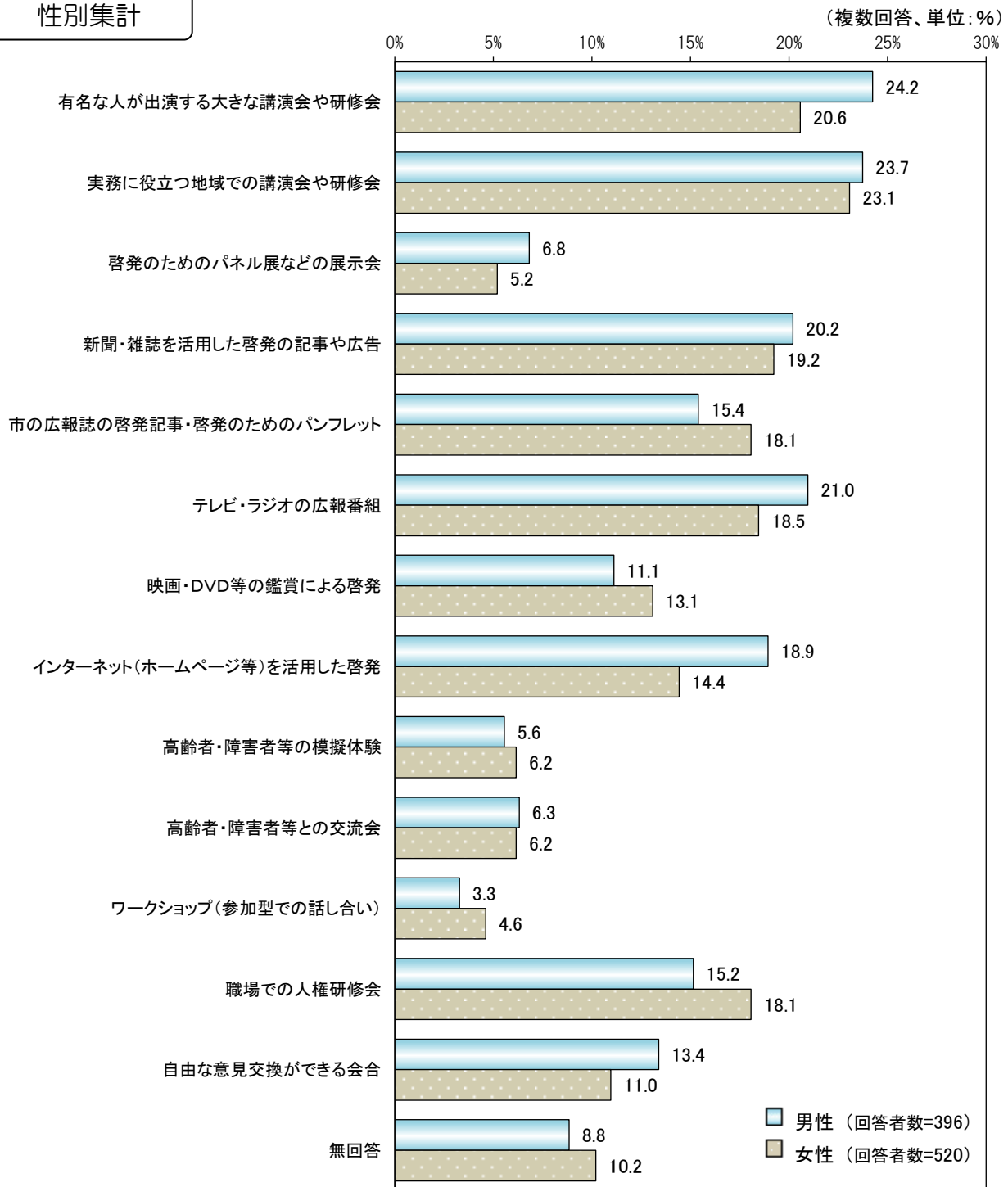
1. 有名な人が出演する大きな講演会や研修会
2. 実務に役立つ地域での講演会や研修会
3. 啓発のためのパネル展などの展示会
4. 新聞・雑誌を活用した啓発の記事や広告
5. 市の広報誌の啓発記事・啓発のためのパンフレット
6. テレビ・ラジオの広報番組
7. 映画・DVD等の鑑賞による啓発
8. インターネット(ホームページ等)を活用した啓発
9. 高齢者・障害者等の模擬体験
10. 高齢者・障害者等との交流会
11. ワークショップ(参加型での話し合い)
12. 職場での人権研修会
13. 自由な意見交換ができる会合

全体集計



「実務に役立つ地域での講演会や研修会」の割合が22.8%と最も高く、次いで「有名な人が出演する大きな講演会や研修会」が21.9%、「新聞・雑誌を活用した啓発の記事や広告」と「テレビ・ラジオの広報番組」が19.5%となっている。

性別集計



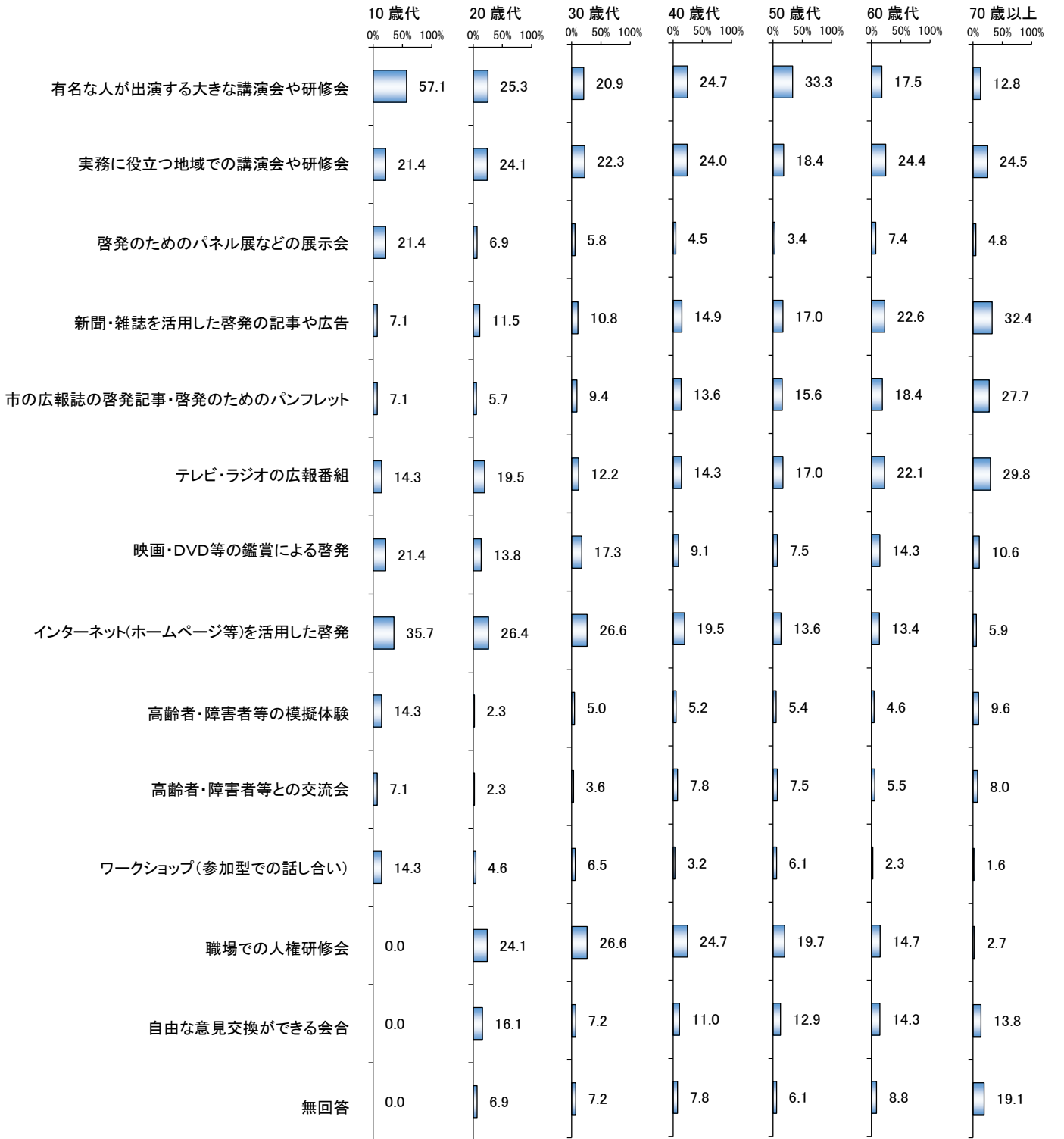
性別で見ると、男性は「有名な人が出演する大きな講演会や研修会」(24.2%)の割合が最も高く、次いで「実務に役立つ地域での講演会や研修会」(23.7%)、「テレビ・ラジオの広報番組」(21.0%)となっている。

女性は「実務に役立つ地域での講演会や研修会」(23.1%)の割合が最も高く、次いで「有名な人が出演する大きな講演会や研修会」(20.6%)、「新聞・雑誌を活用した啓発の記事や広告」(19.2%)となっている。

「インターネット(ホームページ等)を活用した啓発」が最も男女差が大きく、女性(14.4%)よりも男性(18.9%)の方が4.5ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位：%)



(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別でみると、10歳代・40歳代・50歳代は「有名な人が出演する大きな講演会や研修会」、20歳代・30歳代は「インターネット(ホームページ等)を活用した啓発」、60歳代は「実務に役立つ地域での講演会や研修会」、70歳以上は「新聞・雑誌を活用した啓発の記事や広告」の割合が最も高くなっている。

その他の項目では、20～40歳代で「職場での人権研修会」の割合が高くなっている。

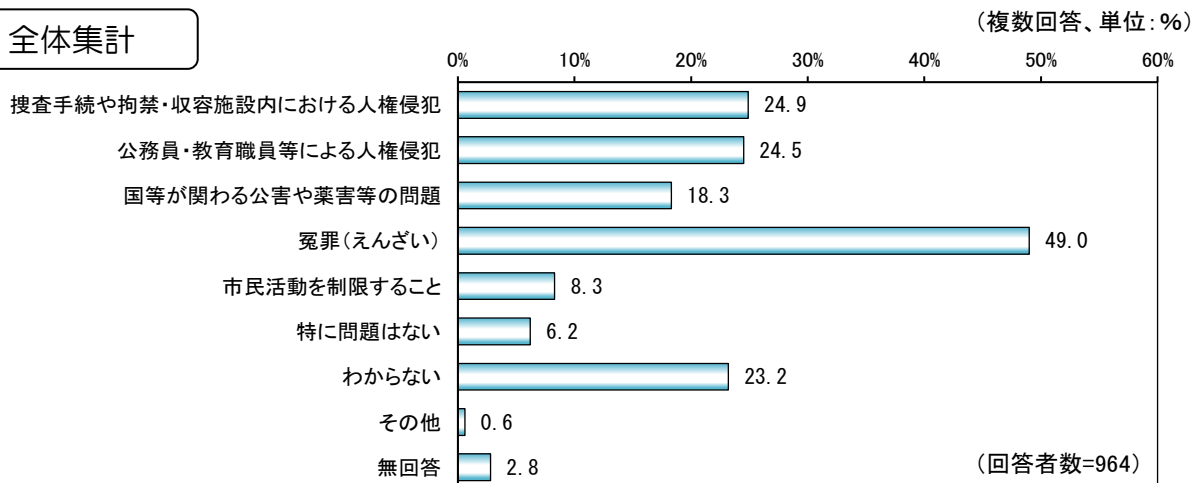
2. 公権力と人権について

○公権力に関する人権上の問題点

問 6 あなたは、公権力の行使にあたり、現在、人権上特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

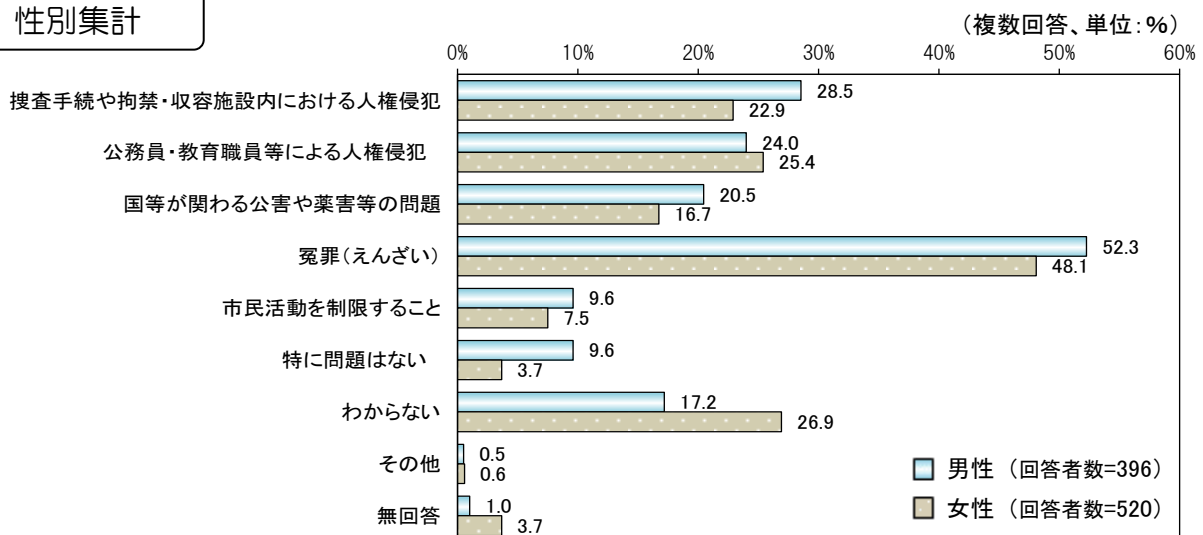
1. 捜査手続や拘禁・収容施設内における人権侵犯
2. 公務員・教育職員等による人権侵犯
3. 国等が関わる公害や薬害等の問題
4. 冤罪（えんざい）
5. 市民活動を制限すること
6. 特に問題はない
7. わからない
8. その他（ ）

全体集計



「冤罪（えんざい）」の割合が49.0%と最も高く、次いで「わからない」が23.2%、「捜査手続や拘禁・収容施設内における人権侵犯」が24.9%となっている。

性別集計

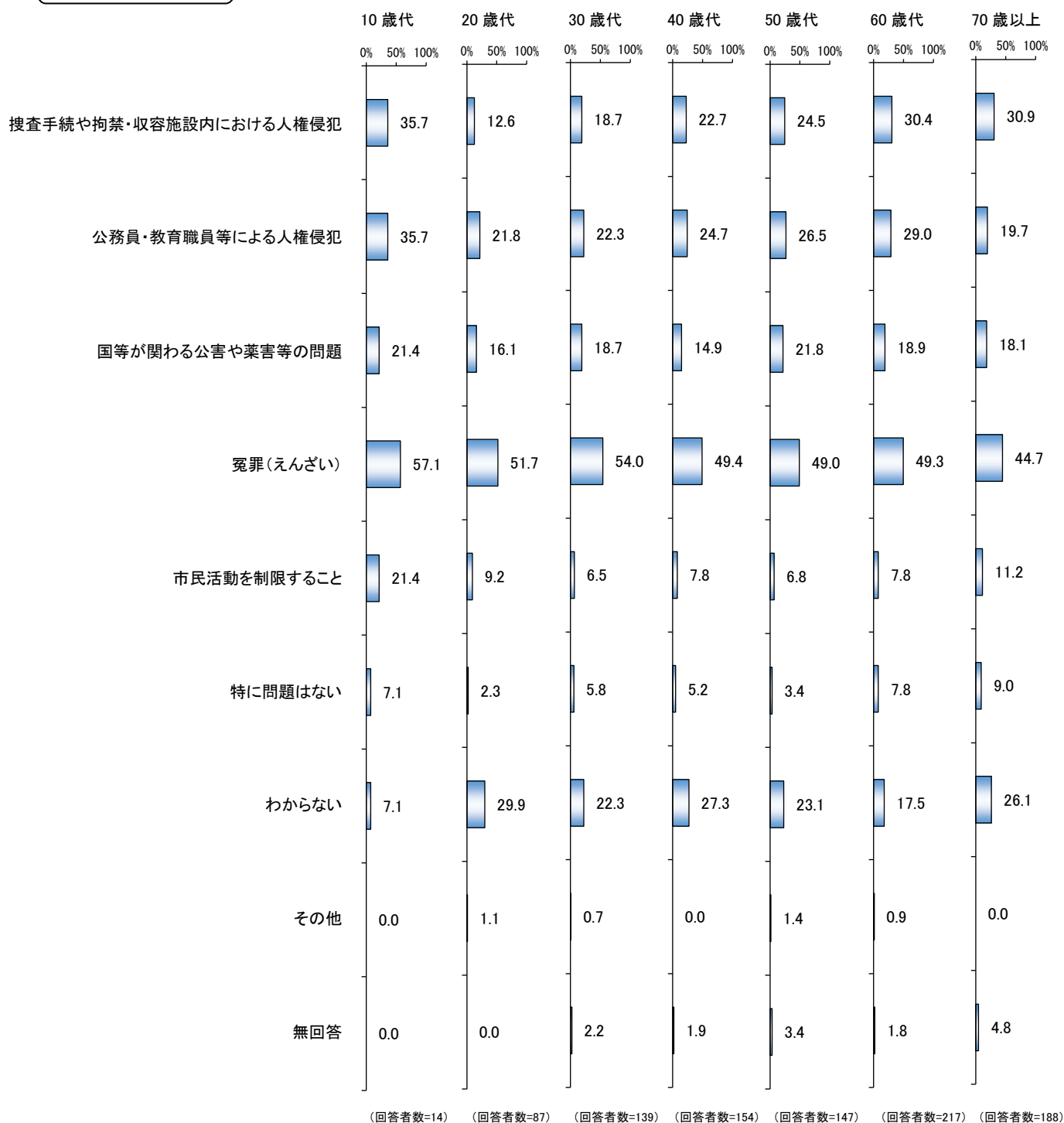


性別でみると、男女ともに「冤罪（えんざい）」の割合が最も高く（男性は52.3%、女性は48.1%）、次いで男性は「捜査手続や拘禁・収容施設内における人権侵犯」（28.5%）、女性は「わからない」（26.9%）、「公務員・教育職員等による人権侵犯」（男性は24.0%、女性は25.4%）となっている。

「わからない」が最も男女差が大きく、男性（17.2%）よりも女性（26.9%）の方が9.7ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位:%)

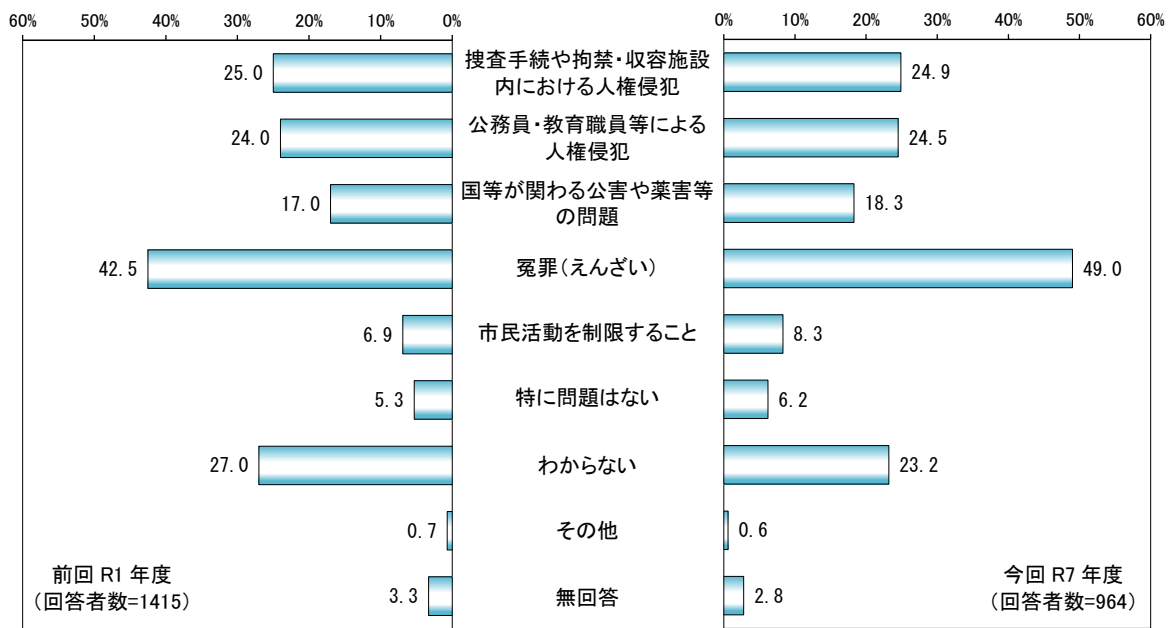


年代別でみると、すべての年齢層で「冤罪（えんざい）」の割合が最も高くなっている。

その他の項目では、10歳代・60歳以上は「捜査手続や拘禁・収容施設内における人権侵犯」、10歳代・30歳代・50歳代は「公務員・教育職員等による人権侵犯」、20～40歳代は「わからない」の割合が高くなっている。

過去調査との比較

* 前回調査では、本設問は「最大 3 つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



今回の調査において、「冤罪（えんざい）」の割合が前回に続いて、最も高くなっており、前回からは 6.5 ポイント増加している。

3. 市民相互の人権について

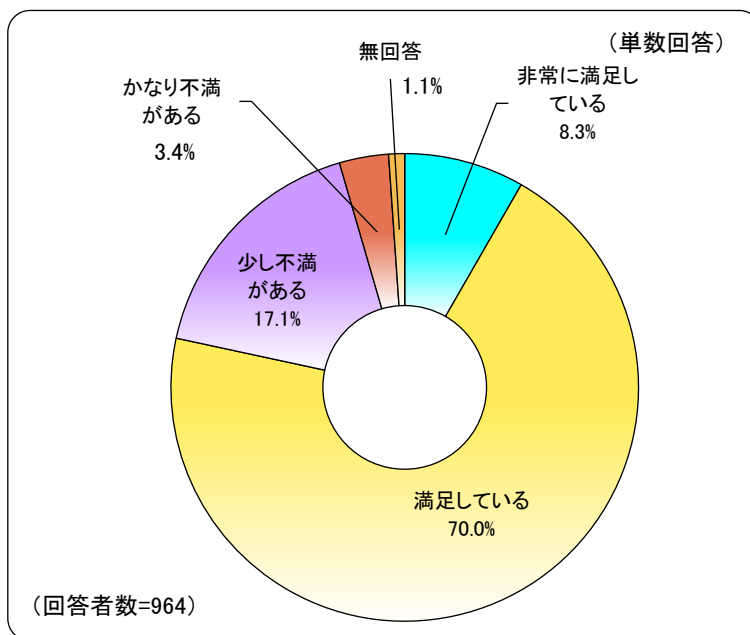
○近隣の人との人間関係に対する満足感

問 7 現在、あなたは近隣の人たちとの付き合いや人間関係に満足していますか。
次の中から選んでください。(○は1つだけ)

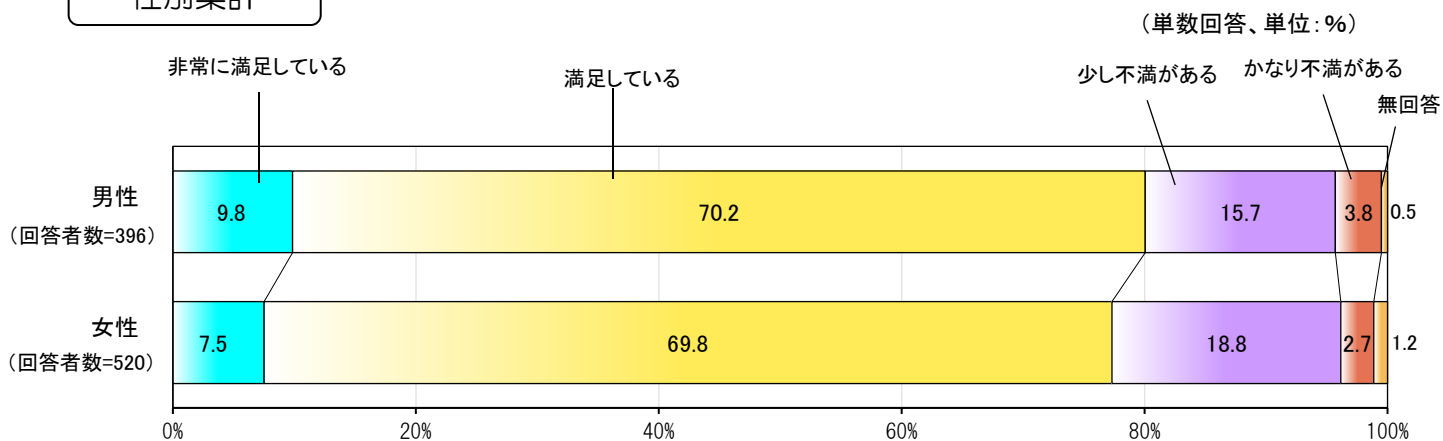
1. 非常に満足している 2. 満足している 3. 少し不満がある 4. かなり不満がある

全体集計

「非常に満足している」と「満足している」を合わせた78.3%が近隣の人との人間関係に満足していると感じ、「少し不満がある」と「かなり不満がある」を合わせた20.5%が不満と感じている。

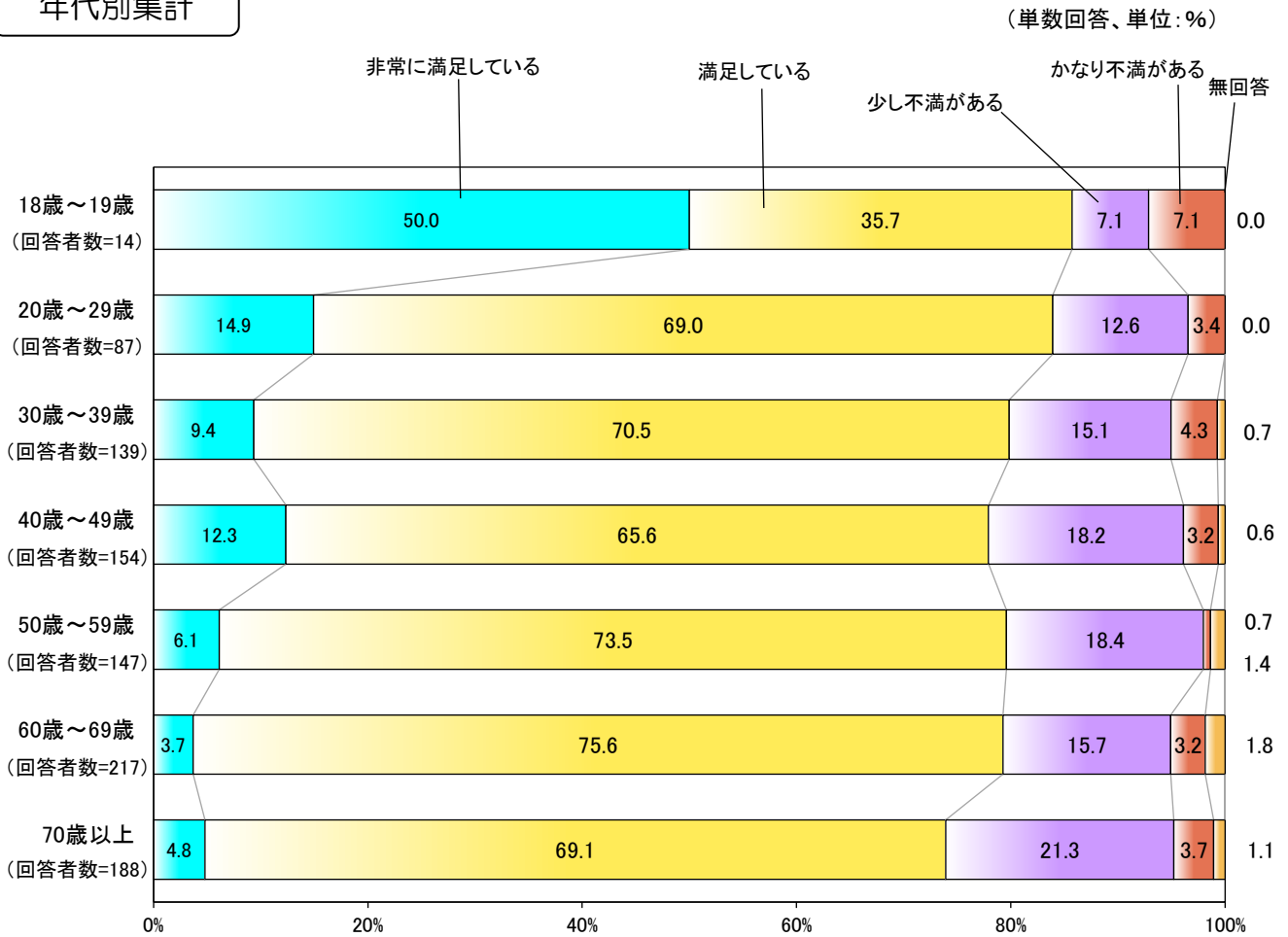


性別集計



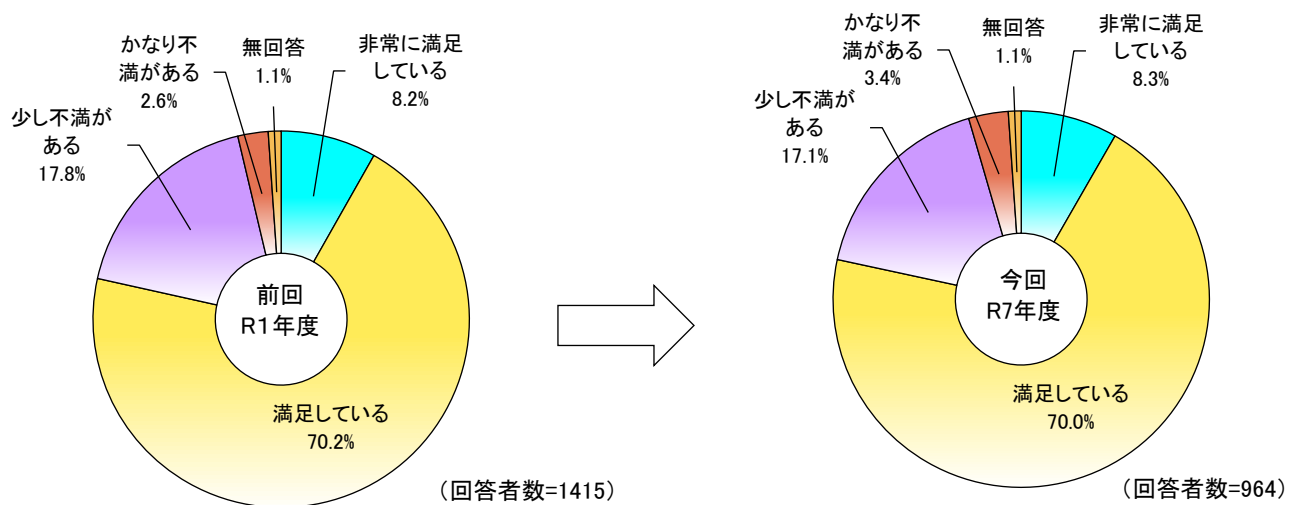
性別で見ると、「非常に満足している」と「満足している」を合わせた満足している割合は、女性(77.3%)よりも男性(80.0%)の方が2.7ポイント高く、「少し不満がある」と「かなり不満がある」を合わせた不満がある割合については、男性(19.5%)よりも女性(21.5%)の方が2.0ポイント高くなっている。

年代別集計



年代別でみると、「非常に満足している」と「満足している」を合わせた満足している割合は、10歳代が最も高く、70歳以上が最も低くなっている。

過去の調査との比較



今回の調査において、「非常に満足している」と「満足している」を合わせた満足していると感じている割合が前回に比べて0.1ポイント減少し、「少し不満がある」と「かなり不満がある」を合わせた「不満がある」と感じている割合は0.1ポイント増加している。

4. 同和問題（部落差別）について

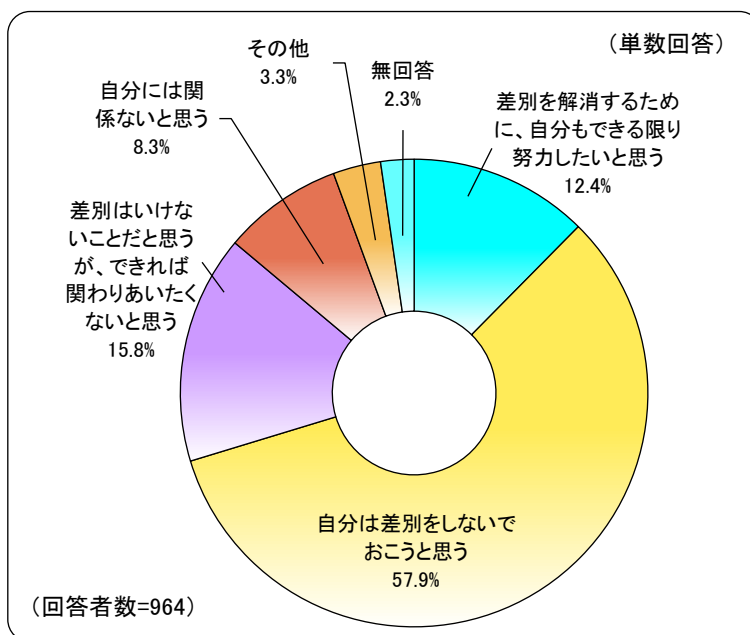
○差別に関する意識

問 8 あなたは、同和問題(部落差別)と自分自身との関わりについてどのような意識を持っていますか。次の中から選んでください。(○は1つだけ)

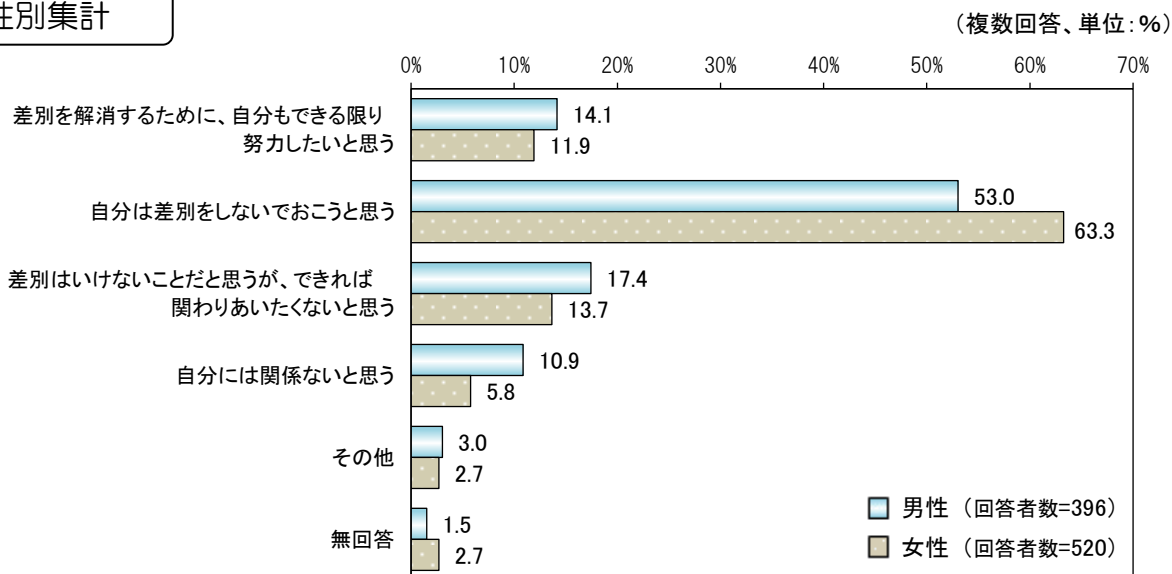
1. 差別を解消するために、自分もできる限り努力したいと思う
2. 自分は差別をしないでおこうと思う
3. 差別はいけないことだと思うが、できれば関わりあいたくないと思う
4. 自分には関係ないと思う
5. その他 ()

全体集計

「自分は差別をしないでおこうと思う」が 57.9%で最も高く、次いで「差別はいけないことだと思うが、できれば関わりあいたくないと思う」が 15.8%、「差別を解消するために、自分もできる限り努力したいと思う」が 12.4%となっている。



性別集計

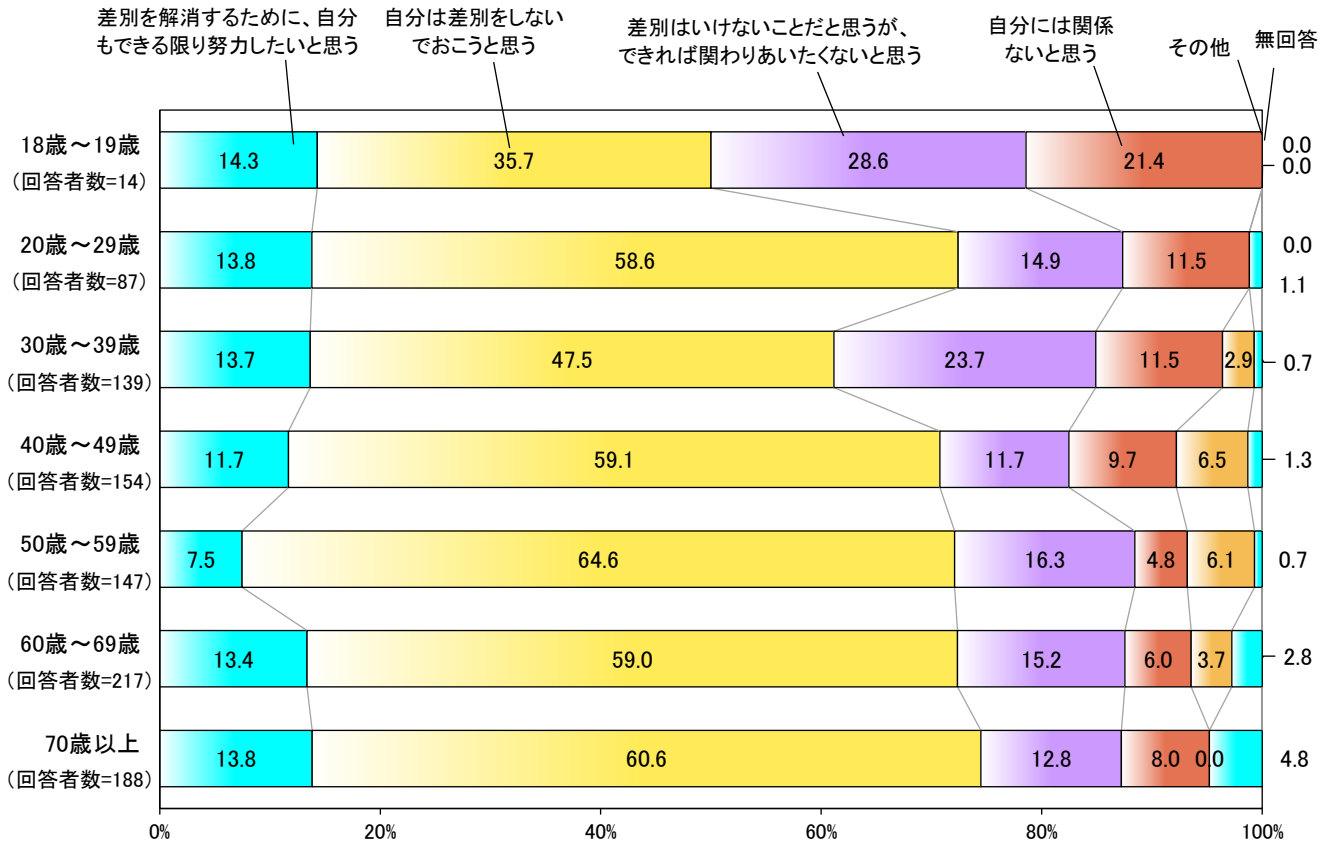


性別で見ると、男女ともに全体集計と同様の傾向となっている。

「自分は差別をしないでおこうと思う」が最も男女差が大きく、男性(53.0%)よりも女性(63.3%)の方が 10.3 ポイント高くなっている。

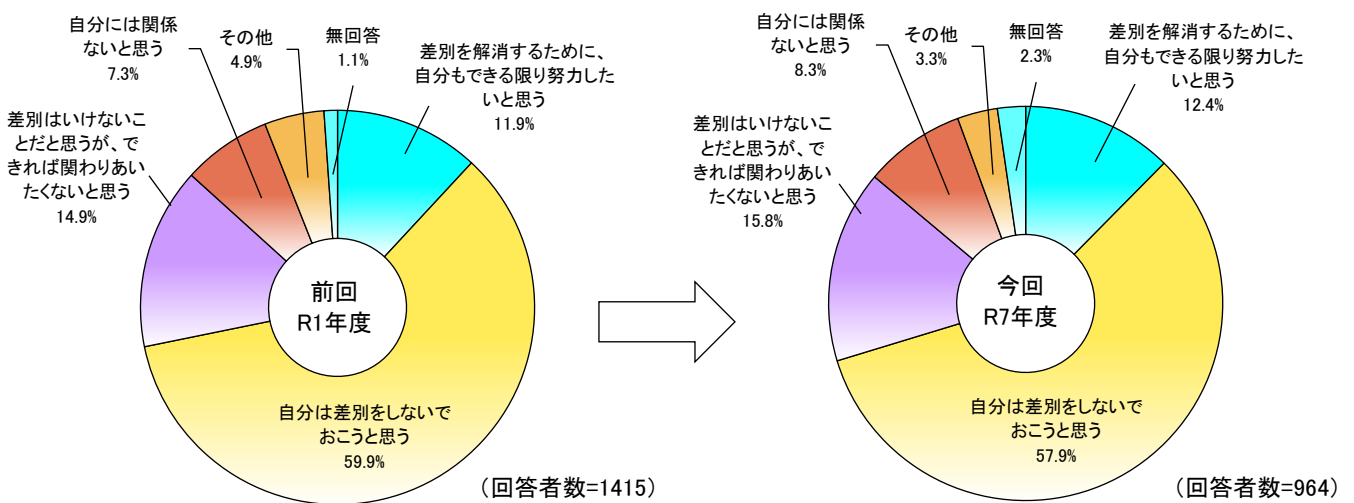
年代別集計

(単数回答、単位：%)



年代別でみると、「差別を解消するために、自分もできる限り努力したいと思う」と「自分は差別をしないでおこうと思う」を合わせた割合は、20歳代が72.4%と最も高く、10歳代が50.0%と最も低くなっている。

過去の調査との比較



今回の調査において、「自分は差別をしないでおこうと思う」の割合が前回に比べて2.0ポイント減少し、「差別はいけないことだと思うが、できれば関わりあいたくないと思う」が0.9ポイント増加している。

○結婚に対する姿勢

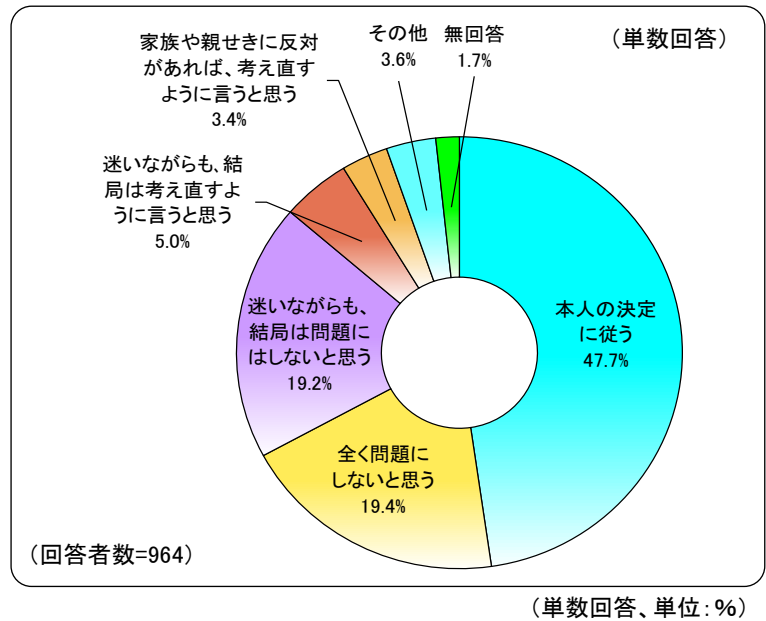
問 9 仮に、あなたのお子さんがいて、結婚したいといっている相手が同和地区の出身者だとわかった場合、あなたはどうしますか。次の中から選んでください。(○は1つだけ)

1. 本人の決定に従う
2. 全く問題にしないと思う
3. 迷いながらも、結局は問題にはしないと思う
4. 迷いながらも、結局は考え直すように言うと思う
5. 家族や親せきに反対があれば、考え直すように言うと思う
6. その他 ()

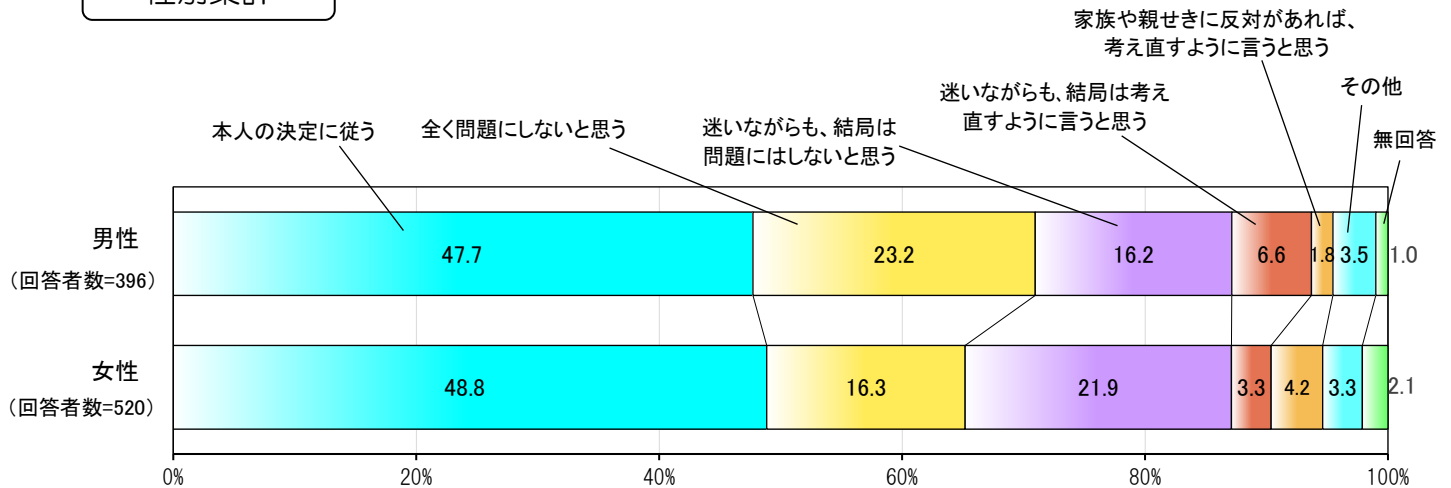
全体集計

「本人の決定に従う」が47.7%と最も高く、次いで「全く問題にしないと思う」が19.4%、「迷いながらも、結局は問題にはしないと思う」が19.2%となっている。

「本人の決定に従う」と「全く問題にしないと思う」と「迷いながらも、結局は問題にはしないと思う」を合わせた問題にはしないと思う割合は86.3%となっている。



性別集計

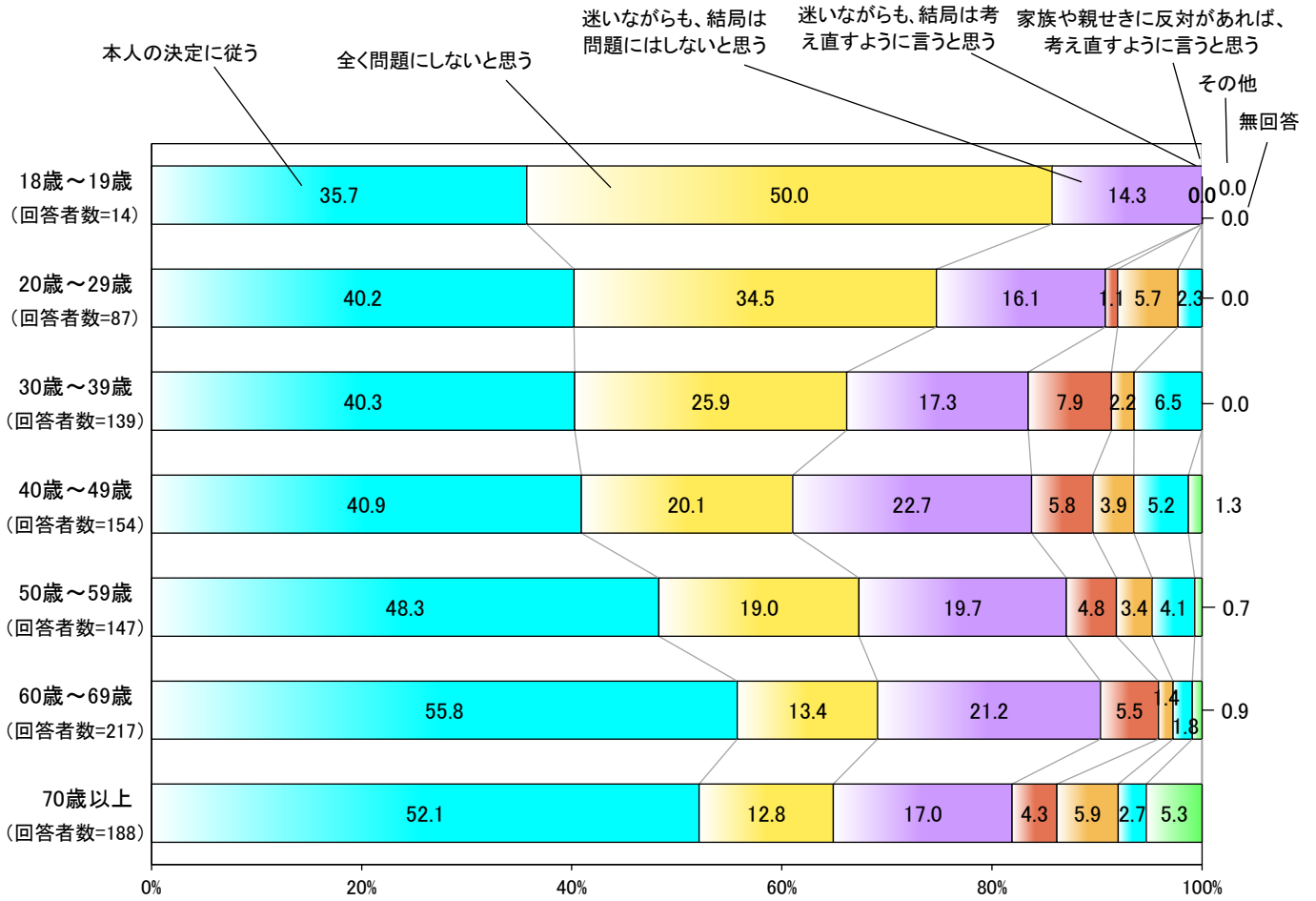


性別でみると、男女ともに「本人の決定に従う」の割合が最も高く（男性は47.7%、女性は48.8%）、次いで男性は「全く問題にしないと思う」（23.2%）、女性では「迷いながらも、結局は問題にはしないと思う」（21.9%）となっている。

「本人の決定に従う」、「全く問題にしないと思う」、「迷いながらも、結局は問題にはしないと思う」を合わせた、結果的には問題にしないと思えた割合は男性（87.1%）、女性（87.0%）とほぼ同じ割合となっている。

年代別集計

(単数回答、単位：%)



年代別でみると、「本人の決定に従う」、「全く問題にしないと思う」、「迷いながらも問題にしないと思う」を合わせた割合は、10歳代が100%と最も高く、70歳以上が最も低くなっている。

10歳代では、「迷いながらも、結局は考え直すように言うと思う」や「家族や親せきに反対があれば、考え直すように言うと思う」と回答した人はいなかった。

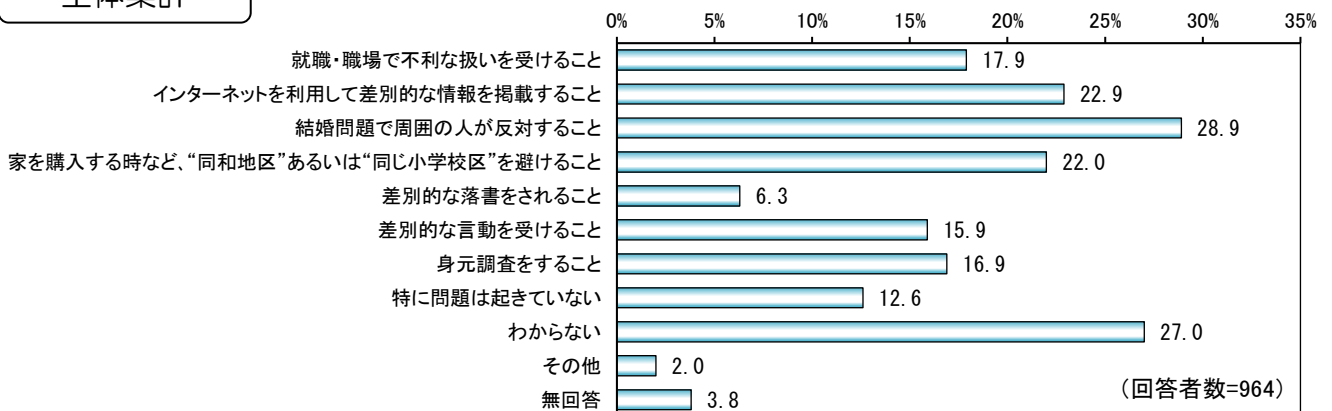
○同和問題（部落差別）に対する人権上の問題点

問 10 あなたは、同和問題(部落差別)に関して、現在、特にどのような問題が起きていると思いますか。
次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

1. 就職・職場で不利な扱いを受けること
2. インターネットを利用して差別的な情報を掲載すること
3. 結婚問題で周囲の人が反対すること
4. 家を購入する時など、“同和地区”あるいは“同じ小学校区”を避けること
5. 差別的な落書をされること
6. 差別的な言動を受けること
7. 身元調査をすること
8. 特に問題は起きていない
9. わからない
10. その他 ()

全体集計

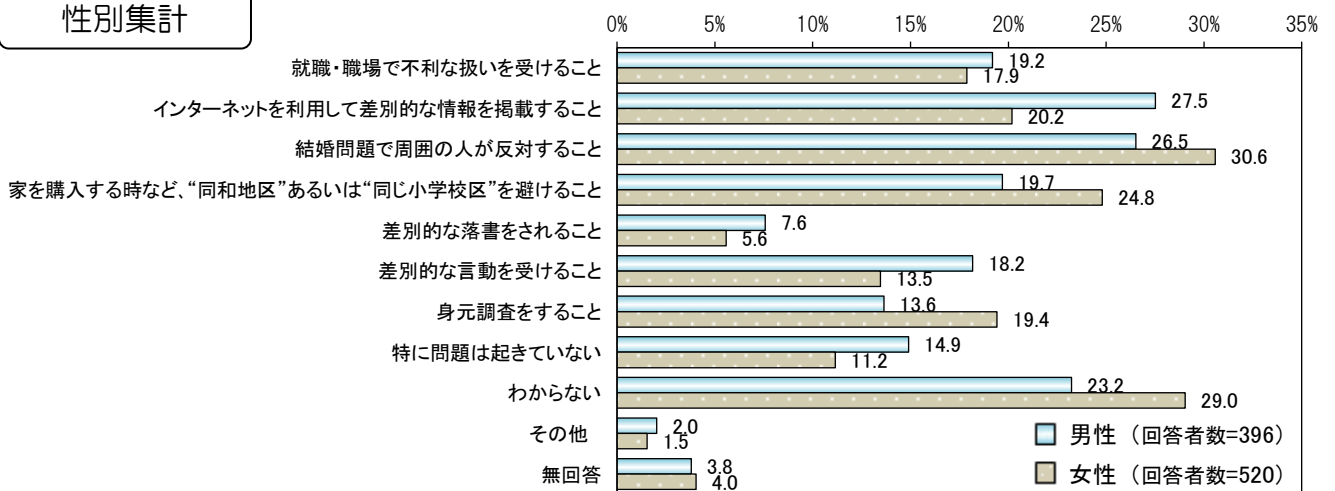
(複数回答、単位：%)



「結婚問題で周囲の人が反対すること」の割合が 28.9%と最も高く、次いで「わからない」が 27.0%、「インターネットを利用して差別的な情報を掲載すること」が 22.9%となっている。

性別集計

(複数回答、単位：%)

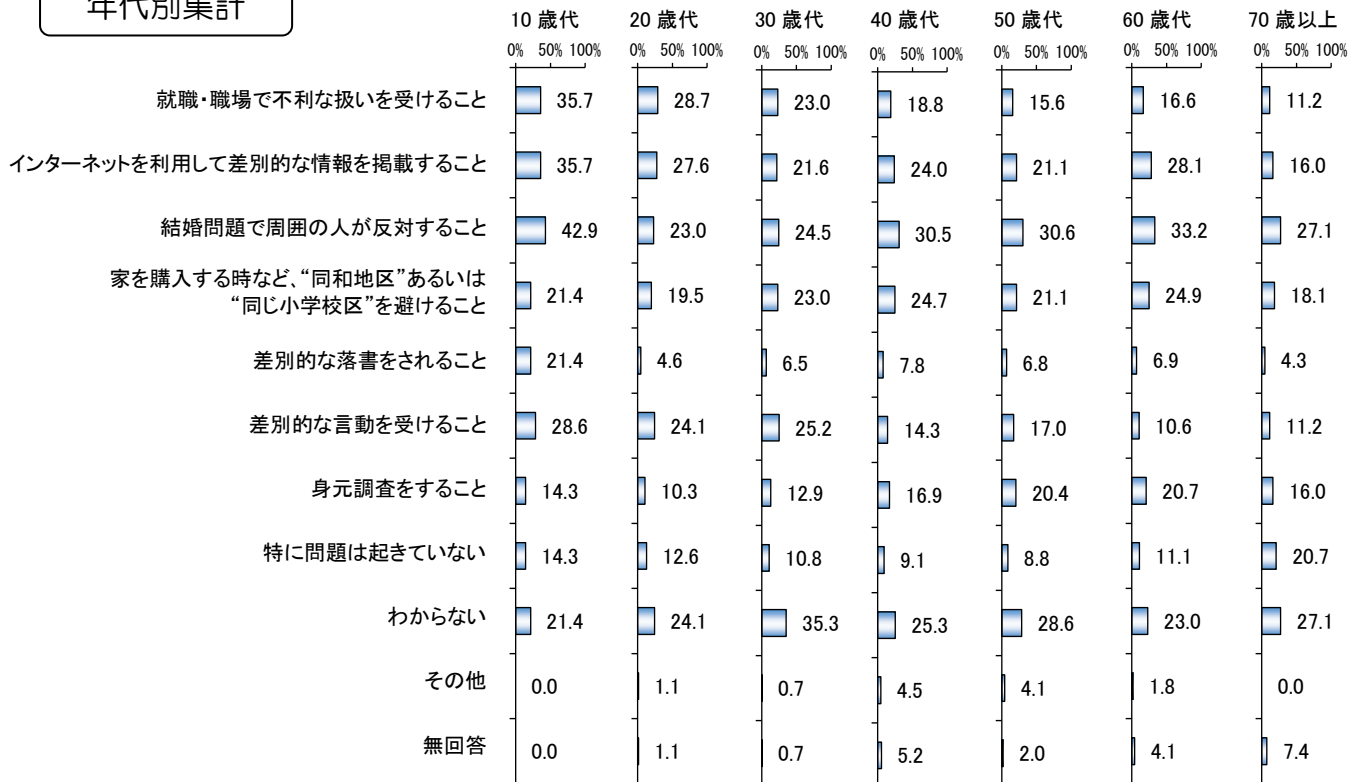


性別でみると、男性は「インターネットを利用して差別的な情報を掲載すること」の割合が最も高く (27.5%)、次いで「結婚問題で周囲の人が反対すること」 (26.5%)、「わからない」 (23.2%) となっている。女性は、「結婚問題で周囲の人が反対すること」の割合が最も高く (30.6%)、次いで「わからない」 (29.0%)、「家を購入する時など、“同和地区”あるいは“同じ小学校区”を避けること」 (24.8%) となっている。

「インターネットを利用して差別的な情報を掲載すること」が最も男女差が大きく、女性 (20.2%) よりも男性 (27.5%) の方が 7.3 ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位：%)



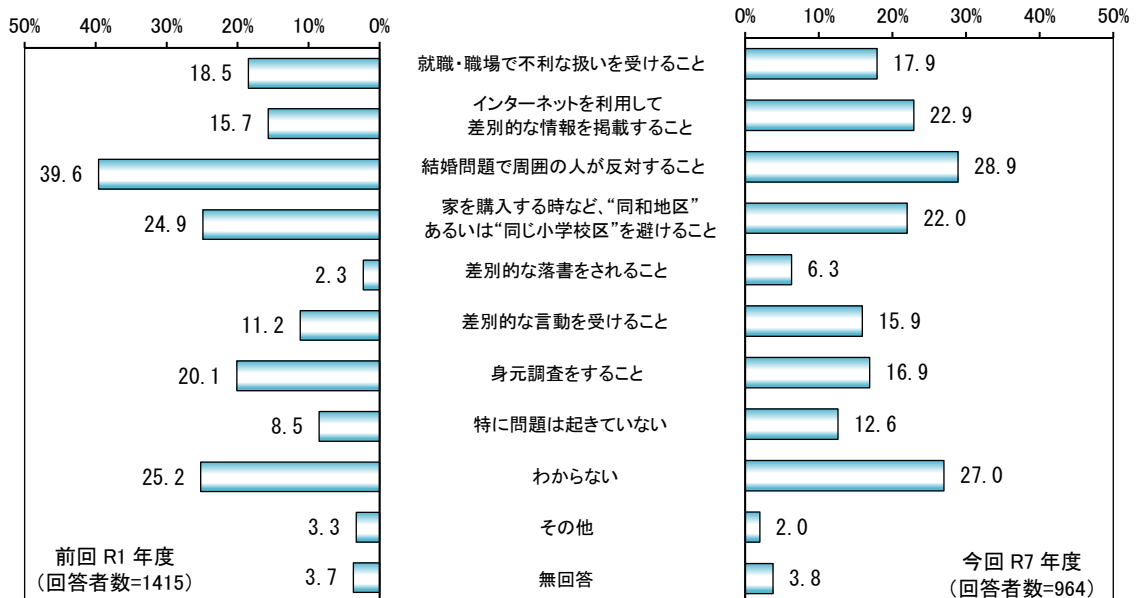
(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別でみると、10歳代・40歳以上は「結婚問題で周囲の人が反対すること」、20歳代は「就職・職場で不利な扱いを受けること」、30歳代・70歳以上は「わからない」の割合が最も高くなっている。

その他の項目では、10歳代～60歳代で「インターネットを利用して差別的な情報を掲載する」の割合が高かった。

過去の調査との比較

* 前回調査では、本設問は「最大3つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



今回の調査において、「インターネットを利用して差別的な情報を掲載すること」や「差別的な言動を受けること」の割合が前回に比べて増加している。また、「結婚問題で周囲の人が反対すること」が前回より 10.7 ポイント下がったが、依然として比較的高い割合を占めている。

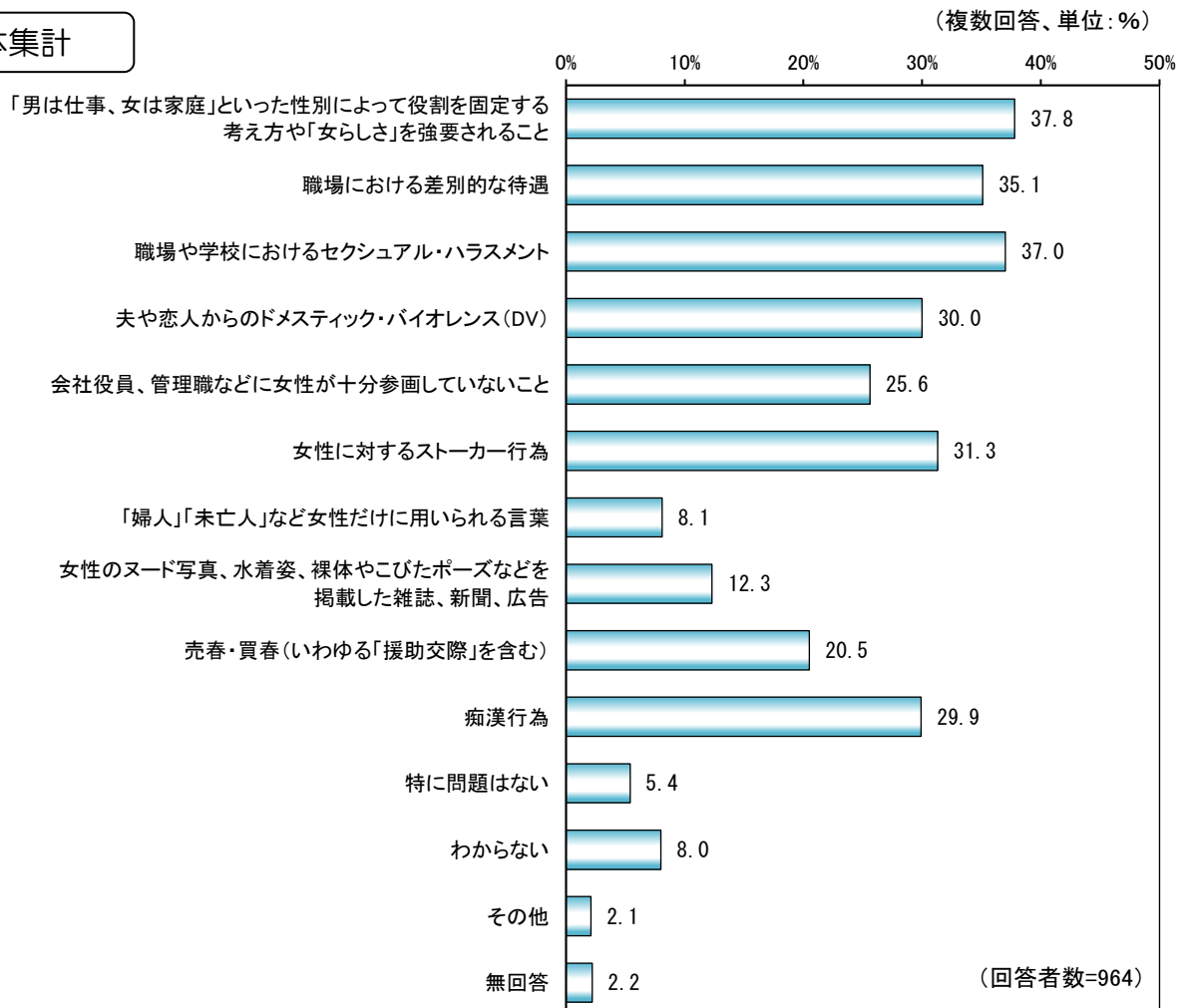
5. 女性の人権について

○女性に関する人権上の問題点

問 11 あなたは、女性の人権問題について、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

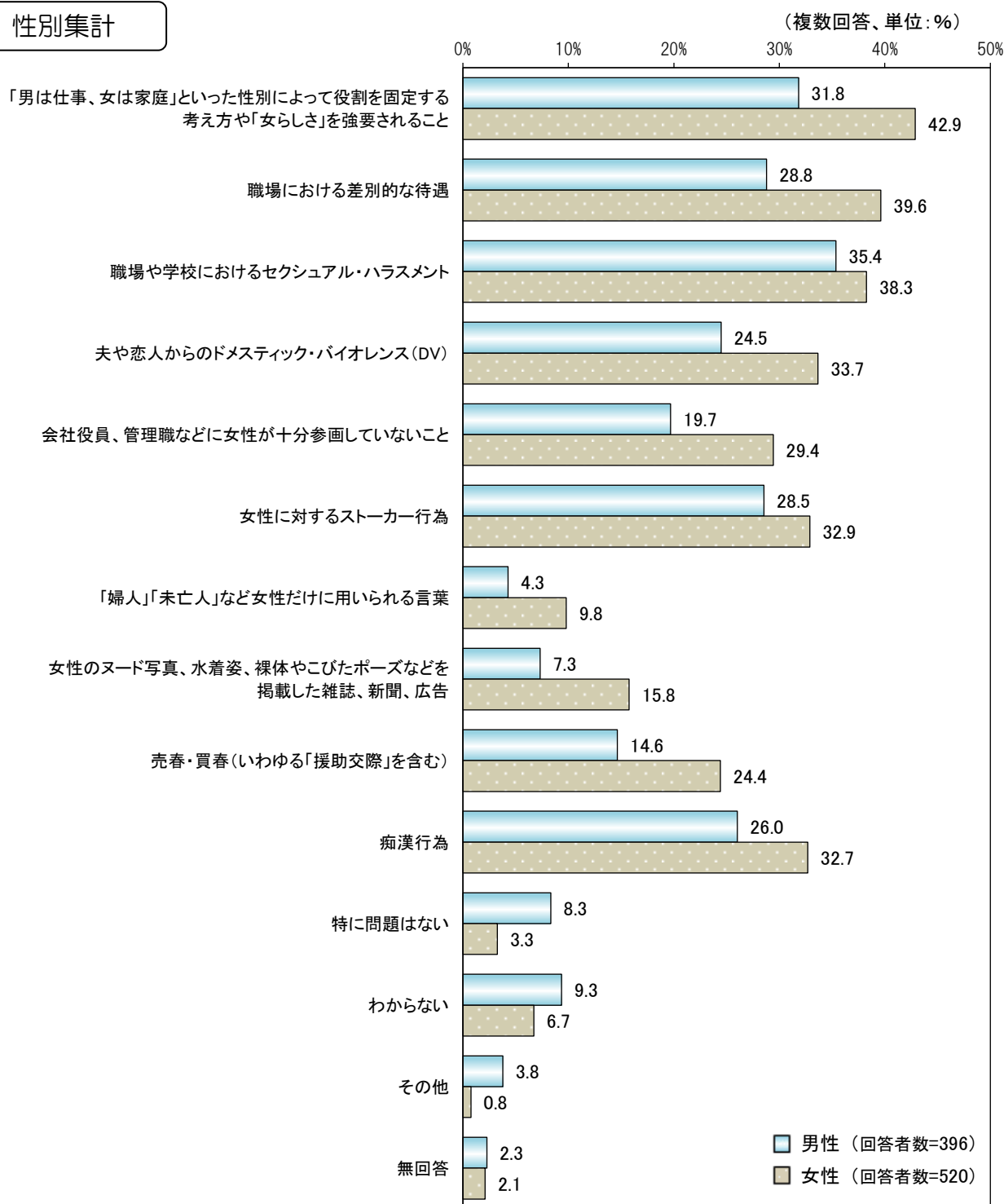
1. 「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること
2. 職場における差別的な待遇
3. 職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント
4. 夫や恋人からのドメスティック・バイオレンス(DV)
5. 会社役員、管理職などに女性が十分参画していないこと
6. 女性に対するストーカー行為
7. 「婦人」「未亡人」など女性だけに用いられる言葉
8. 女性のヌード写真、水着姿、裸体やこびたポーズなどを掲載した雑誌、新聞、広告
9. 売春・買春(いわゆる「援助交際」を含む)
10. 痴漢行為
11. 特に問題はない
12. わからない
13. その他()

全体集計



「『男は仕事、女は家庭』といった性別によって役割を固定する考え方や『女らしさ』を強要されること」の割合が37.8%と最も高く、次いで「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」が37.0%、「職場における差別的な待遇」が35.1%となっている。

性別集計



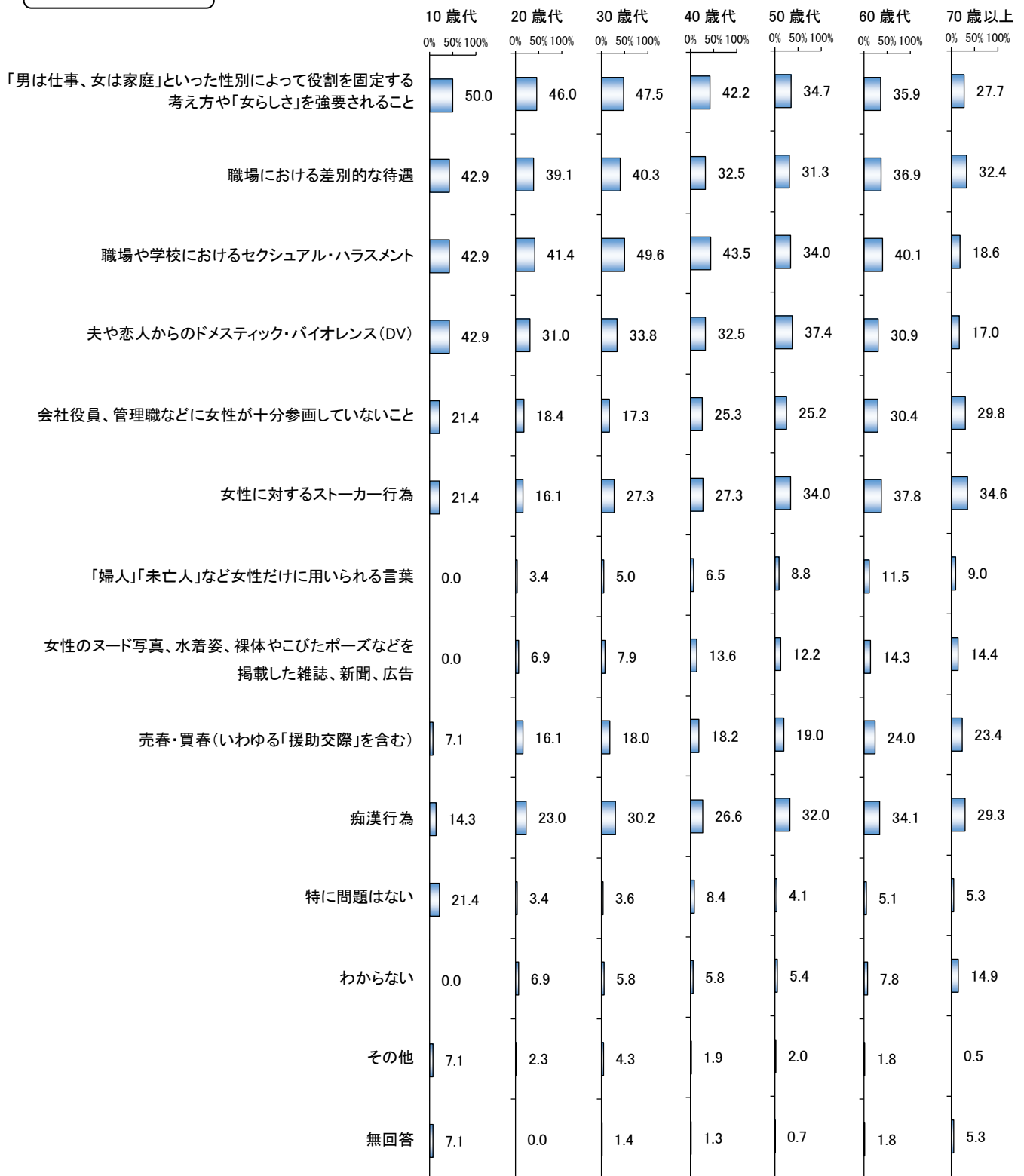
性別で見ると、男性は「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」の割合が最も高く(35.4%)、次いで「『男は仕事、女は家庭』といった性別によって役割を固定する考え方や『女らしさ』を強要されること」(31.8%)、「職場における差別的な待遇」(28.8%)となっている。

女性は「『男は仕事、女は家庭』といった性別によって役割を固定する考え方や『女らしさ』を強要されること」の割合が最も高く(42.9%)、次いで「職場における差別的な待遇」(39.6%)、「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」(38.3%)となっている。

「『男は仕事、女は家庭』といった性別によって役割を固定する考え方や『女らしさ』を強要されること」が最も男女差が大きく、男性(31.8%)よりも女性(42.9%)の方が11.1ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位：%)



(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別で見ると、10歳代・20歳代は「『男は仕事、女は家庭』といった性別によって役割を固定する考え方や『女らしさ』を強要されること」、30歳代・40歳代・60歳代は「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」、50歳代は「夫や恋人からのドメスティック・バイオレンス(DV)」、70歳以上は「女性に対するストーカー行為」の割合が最も高くなっている。

その他の項目では、すべての世代で「職場における差別的な待遇」の割合が高かった。

過去の調査との比較

*前回調査では、本設問は「最大 3 つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。

割合が高い順に比較

前回（令和元年度）		今回（令和 7 年度）		
1	「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること	36.1%	「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること	37.8%
2	職場における差別的な待遇	33.5%	職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント	37.0%
3	職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント	31.5%	職場における差別的な待遇	35.1%
4	会社役員、管理職などに女性が十分参画していないこと	23.5%	女性に対するストーカー行為	31.3%
5	痴漢行為	23.5%	夫や恋人からのドメスティック・バイオレンス（DV）	30.0%
6	夫や恋人からのドメスティック・バイオレンス（DV）	22.5%	痴漢行為	29.9%
7	女性に対するストーカー行為	18.6%	会社役員、管理職などに女性が十分参画していないこと	25.6%
8	売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む）	8.8%	売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む）	20.5%
9	わからない	6.9%	女性のヌード写真、水着姿、裸体やこびたポーズなどを掲載した雑誌、新聞、広告	12.3%
10	女性のヌード写真、水着姿、裸体やこびたポーズなどを掲載した雑誌、新聞、広告	6.3%	「婦人」「未亡人」など女性だけに用いられる言葉	8.1%
11	「婦人」「未亡人」など女性だけに用いられる言葉	4.0%	わからない	8.0%
12	特に問題はない	3.9%	特に問題はない	5.4%
13	無回答	1.9%	無回答	2.2%
14	その他	1.3%	その他	2.1%

今回の調査において、「『男は仕事、女は家庭』といった性別によって役割を固定する考え方や『女らしさ』を強要されること」の割合が前回と同じく最も高く、次いで「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」、「職場における差別的な待遇」となっている。

また、前回より「女性に対するストーカー行為」が 12.7 ポイント、「売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む）」が 11.7 ポイント増加している。

6. 子どもの人権について

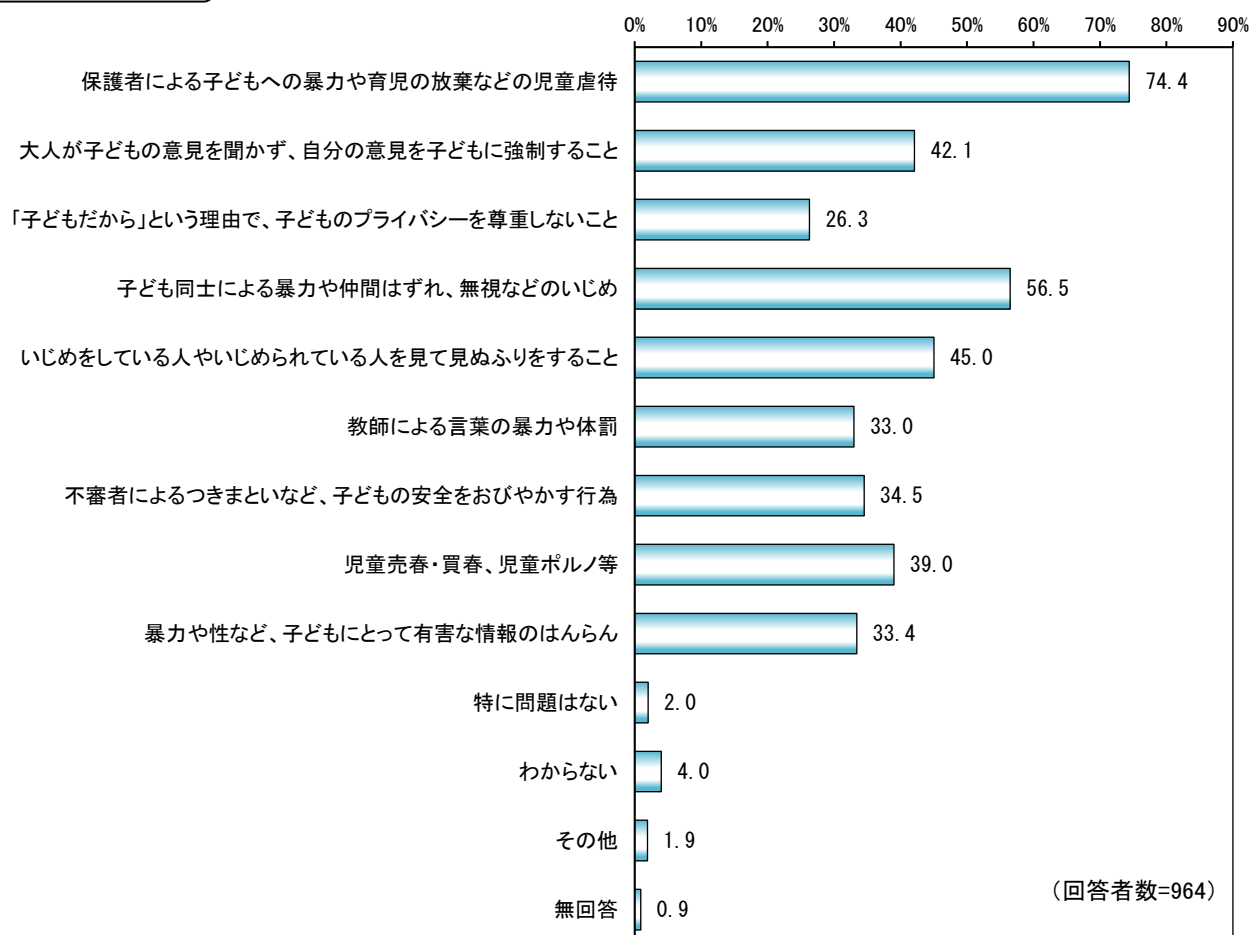
○子どもに関する人権上の問題点

問 12 あなたは、子どもに関する人権上の問題について、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. 保護者による子どもへの暴力や育児の放棄などの児童虐待
2. 大人が子どもの意見を聞かず、自分の意見を子どもに強制すること
3. 「子どもだから」という理由で、子どものプライバシーを尊重しないこと
4. 子ども同士による暴力や仲間はずれ、無視などのいじめ
5. いじめをしている人やいじめられている人を見て見ぬふりをする
6. 教師による言葉の暴力や体罰
7. 不審者によるつきまといなど、子どもの安全をおびやかす行為
8. 児童売春・買春、児童ポルノ等
9. 暴力や性など、子どもにとって有害な情報のはんらん
10. 特に問題はない
11. わからない
12. その他 ()

全体集計

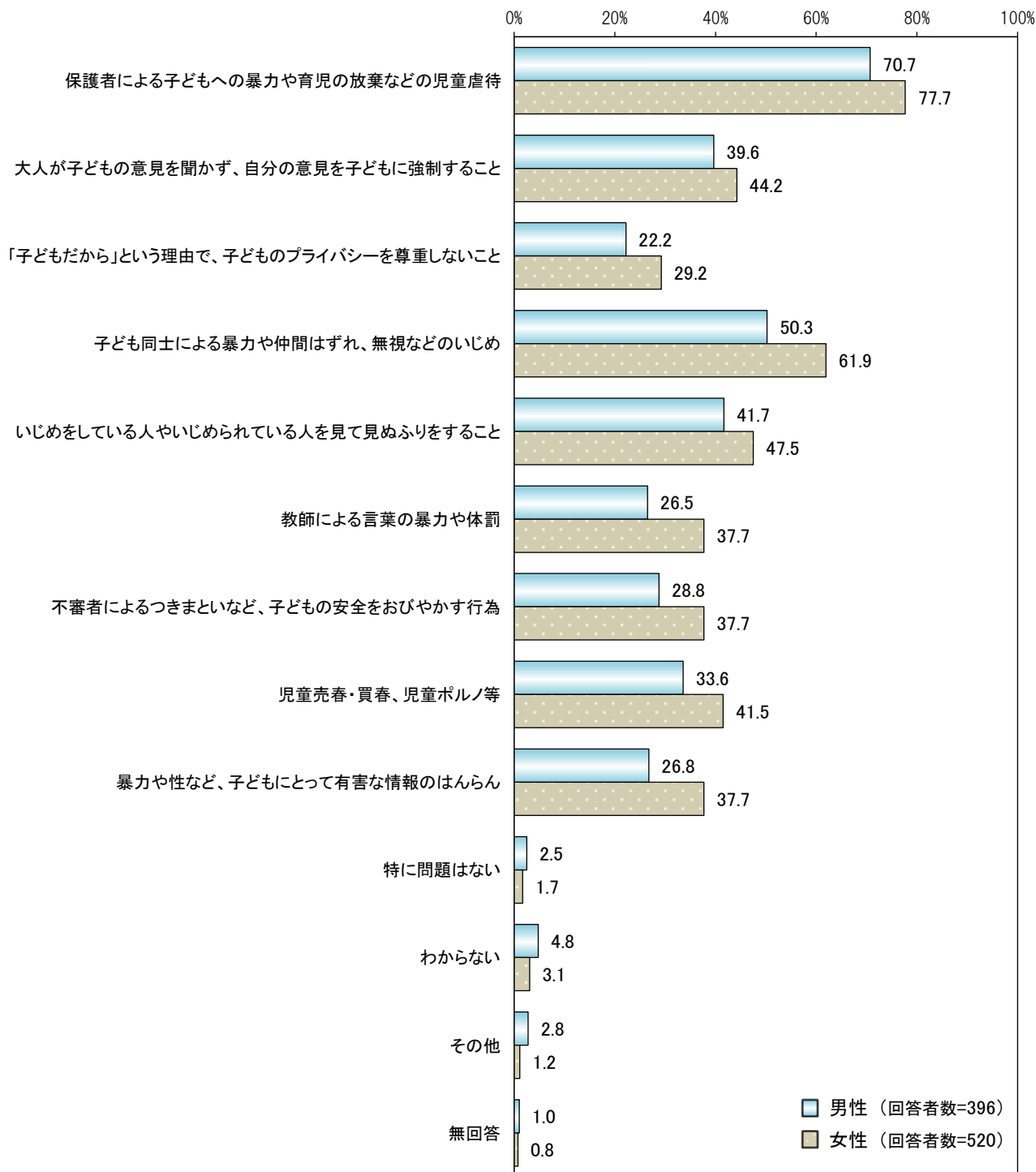
(複数回答、単位：%)



「保護者による子どもへの暴力や育児の放棄などの児童虐待」の割合が 74.4%と最も高く、次いで「子ども同士による暴力や仲間はずれ、無視などのいじめ」が 56.5%、「いじめをしている人やいじめられている人を見て見ぬふりをする」が 45.0%となっている。

性別集計

(複数回答、単位：%)

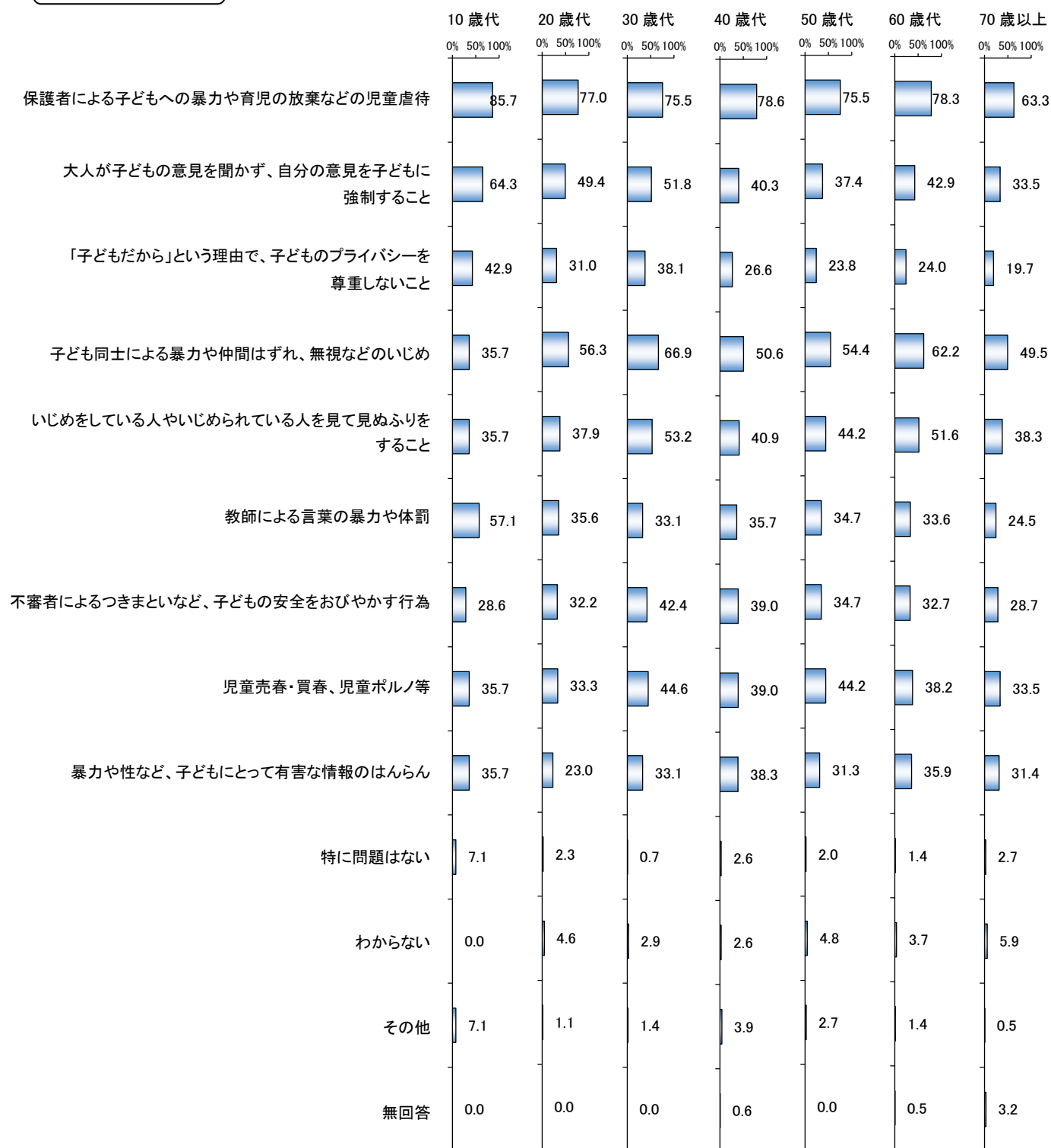


性別で見ると、男女ともに「保護者による子どもへの暴力や育児の放棄などの児童虐待」の割合が最も高く（男性は70.7%、女性は77.7%）、次いで「子ども同士による暴力や仲間はずれ、無視などのいじめ」（男性は50.3%、女性は61.9%）、「いじめをしている人やいじめられている人を見て見ぬふりをする事」（男性は41.7%、女性は47.5%）となっている。

「子ども同士による暴力や仲間はずれ、無視などのいじめ」が最も男女差が大きく、男性（50.3%）よりも女性（61.9%）の方が11.6ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位：%)



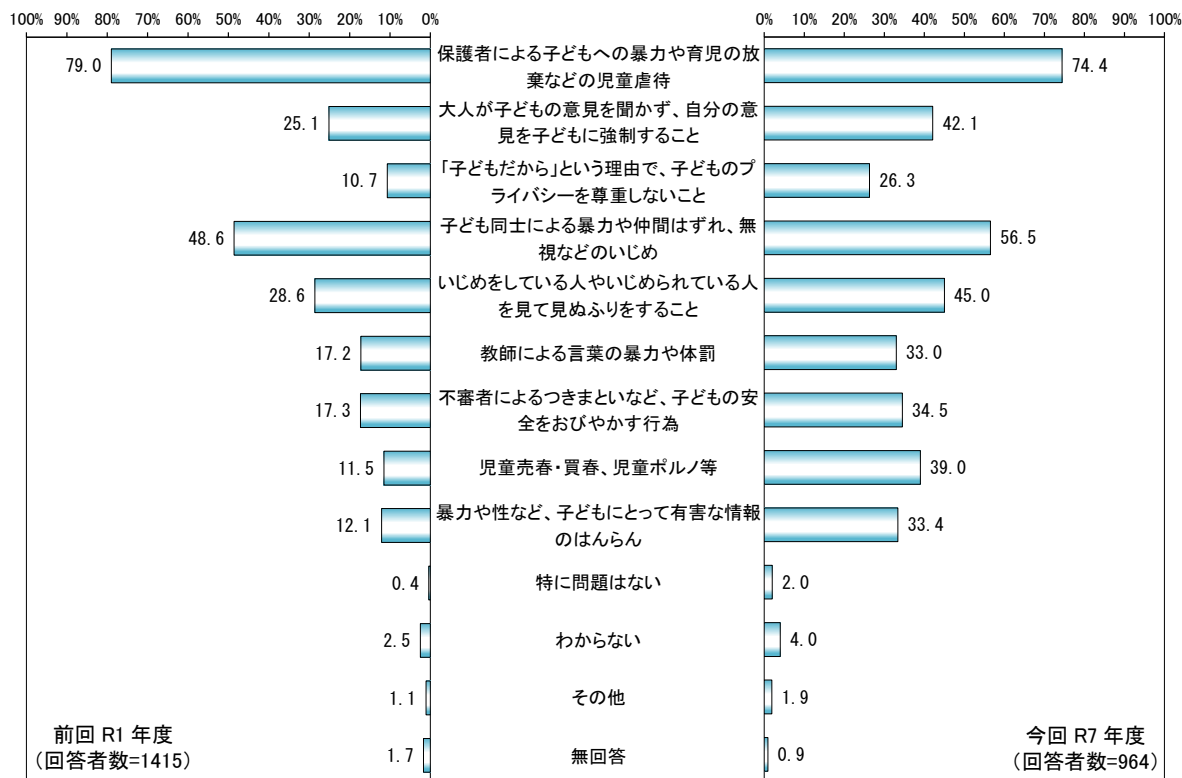
(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別でみると、すべての年代で「保護者による子どもへの暴力や育児の放棄などの児童虐待」の割合が最も高くなっている。

その他の項目では、10 歳代で「大人が子どもの意見を聞かず、自分の意見を子どもに強制すること」、20 歳代以上では「子ども同士による暴力や仲間はずれ、無視などのいじめ」の割合が高くなっている。

過去調査との比較

* 前回調査では、本設問は「最大 3 つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



前回調査と同様に、今回の調査においても「保護者による子どもへの暴力や育児の放棄などの児童虐待」の割合が最も高くなっている。2番目、3番目に割合が高かった項目についても前回から変化はなく、「子ども同士による暴力や仲間はずれ、無視などのいじめ」、「いじめをしている人やいじめられている人を見て見ぬふりをする事」となっている。

前回からの割合の変化を見ると、「児童売春・買春、児童ポルノ等」（27.5ポイント増）、「暴力や性など、子どもにとって有害な情報のはんらん」（21.3ポイント増）などで大幅に増加している。

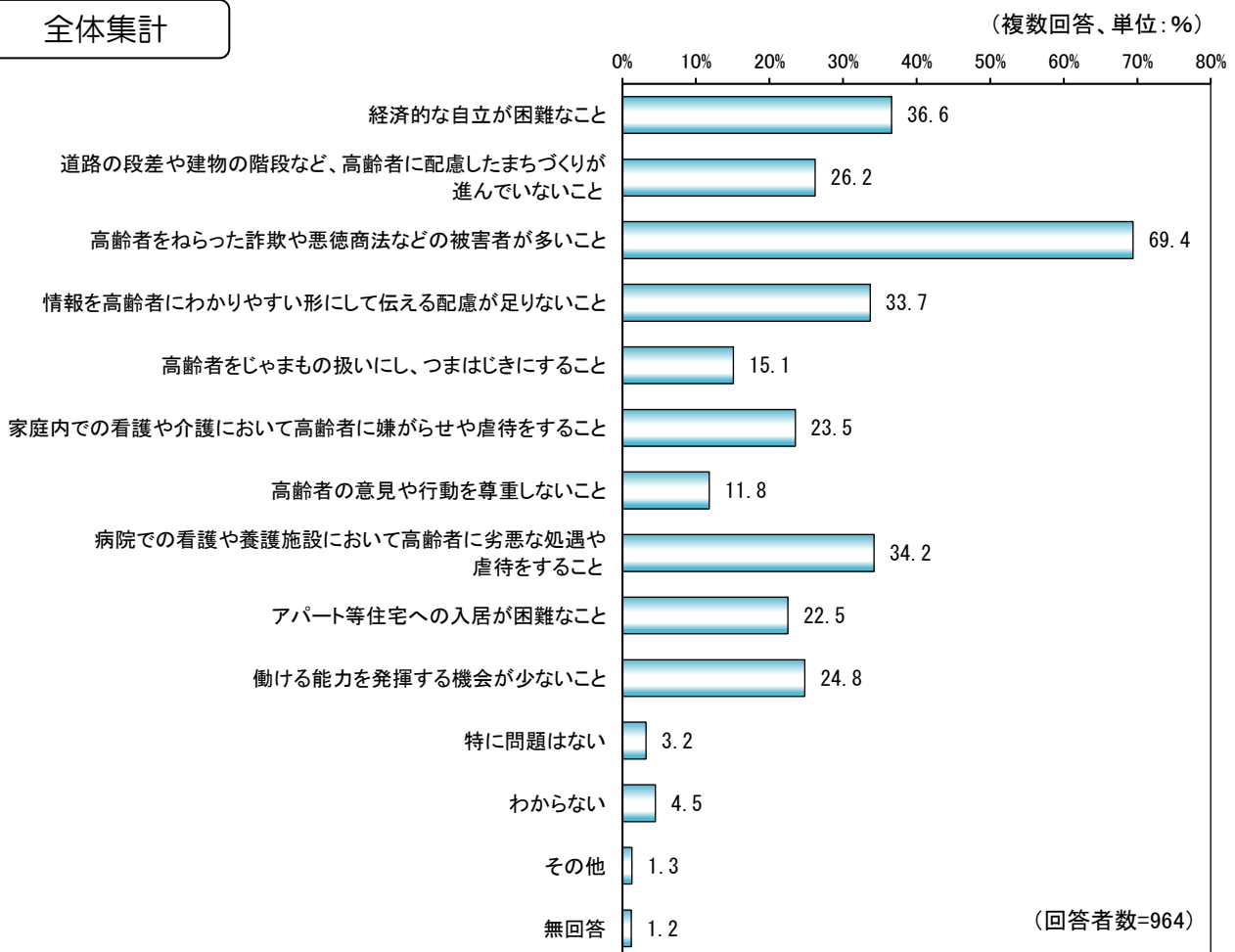
7. 高齢者の人権について

○高齢者に関する人権上の問題点

問 13 あなたは、高齢者の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

1. 経済的な自立が困難なこと
2. 道路の段差や建物の階段など、高齢者に配慮したまちづくりが進んでいないこと
3. 高齢者をねらった詐欺や悪徳商法などの被害者が多いこと
4. 情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
5. 高齢者をじゃまもの扱いにし、つまはじきにすること
6. 家庭内での看護や介護において高齢者に嫌がらせや虐待をすること
7. 高齢者の意見や行動を尊重しないこと
8. 病院での看護や養護施設において高齢者に劣悪な処遇や虐待をすること
9. アパート等住宅への入居が困難なこと
10. 働ける能力を発揮する機会が少ないこと
11. 特に問題はない
12. わからない
13. その他 ()

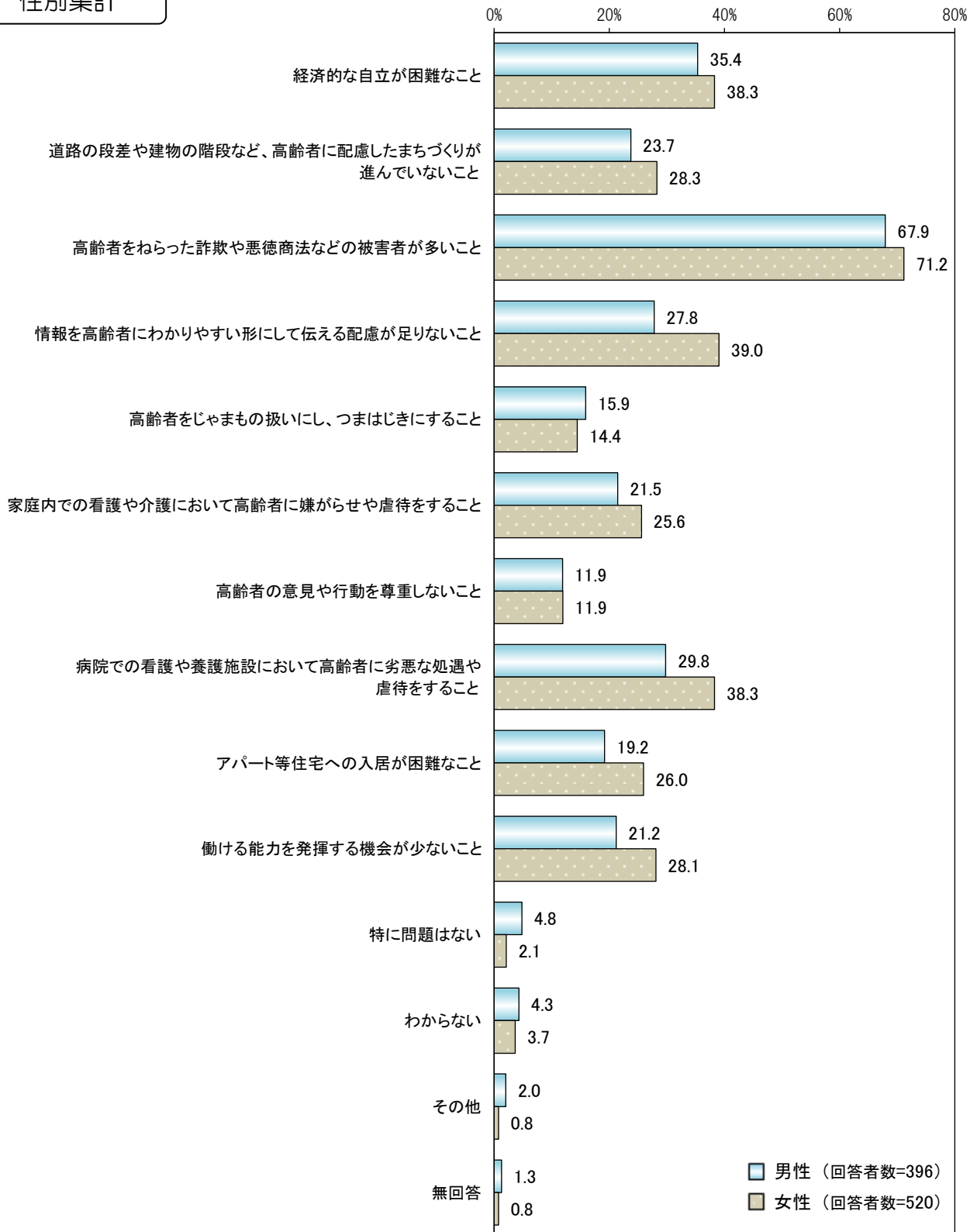
全体集計



「高齢者をねらった詐欺や悪徳商法などの被害者が多いこと」の割合が 69.4%と最も高く、次いで「経済的な自立が困難なこと」が 36.6%、「病院での看護や養護施設において高齢者に劣悪な処遇や虐待をすること」が 34.2%となっている。

性別集計

(複数回答、単位：%)

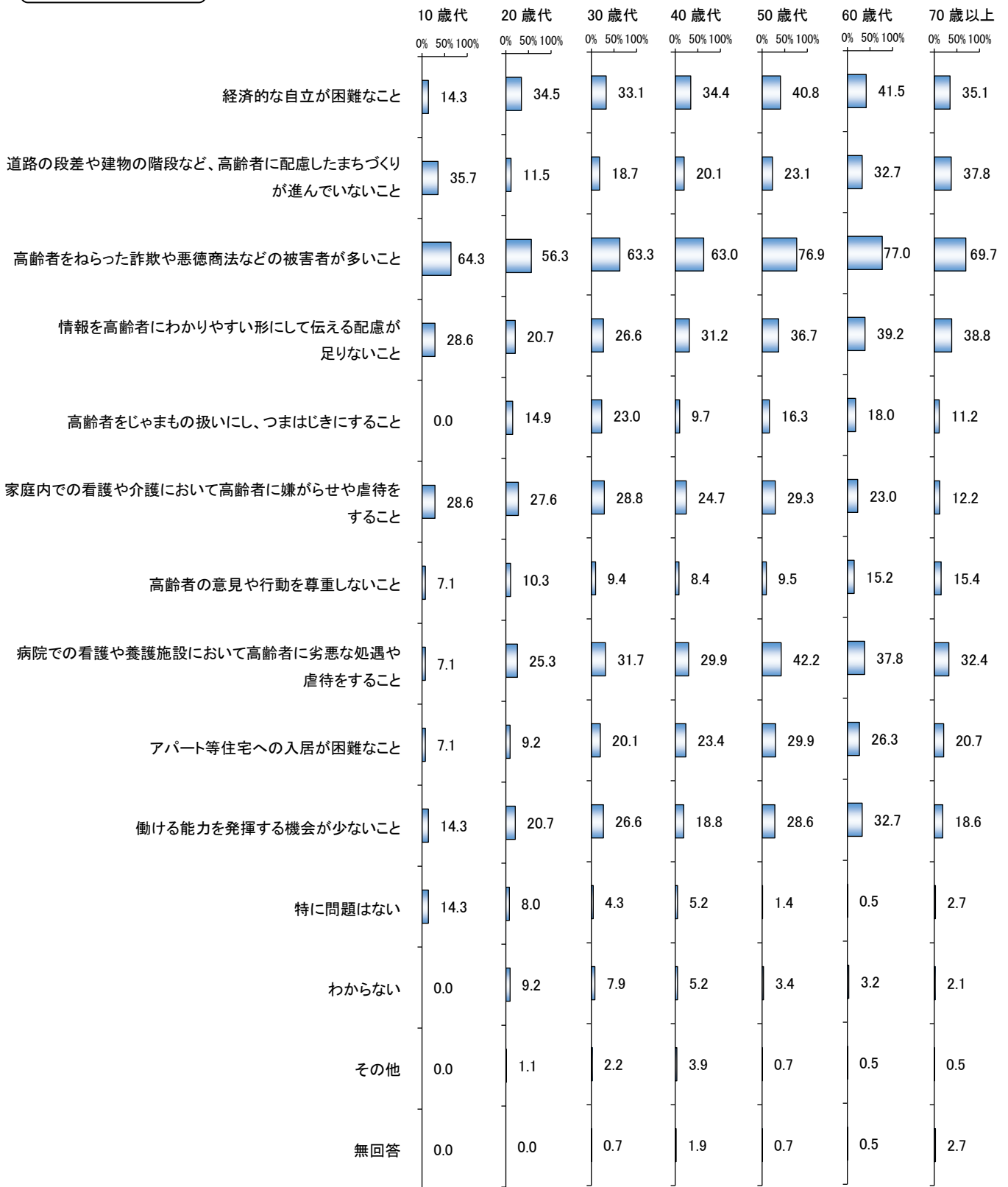


性別でみると、男女ともに「高齢者をねらった詐欺や悪徳商法などの被害者が多いこと」の割合最も高く（男性は 67.9%、女性は 71.2%）、次いで男性は「経済的な自立が困難なこと」（35.4%）、女性は「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」（39.0%）となっている。

「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」が最も男女差が大きく、男性（27.8%）よりも女性（39.0%）の方が 11.2 ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位：%)



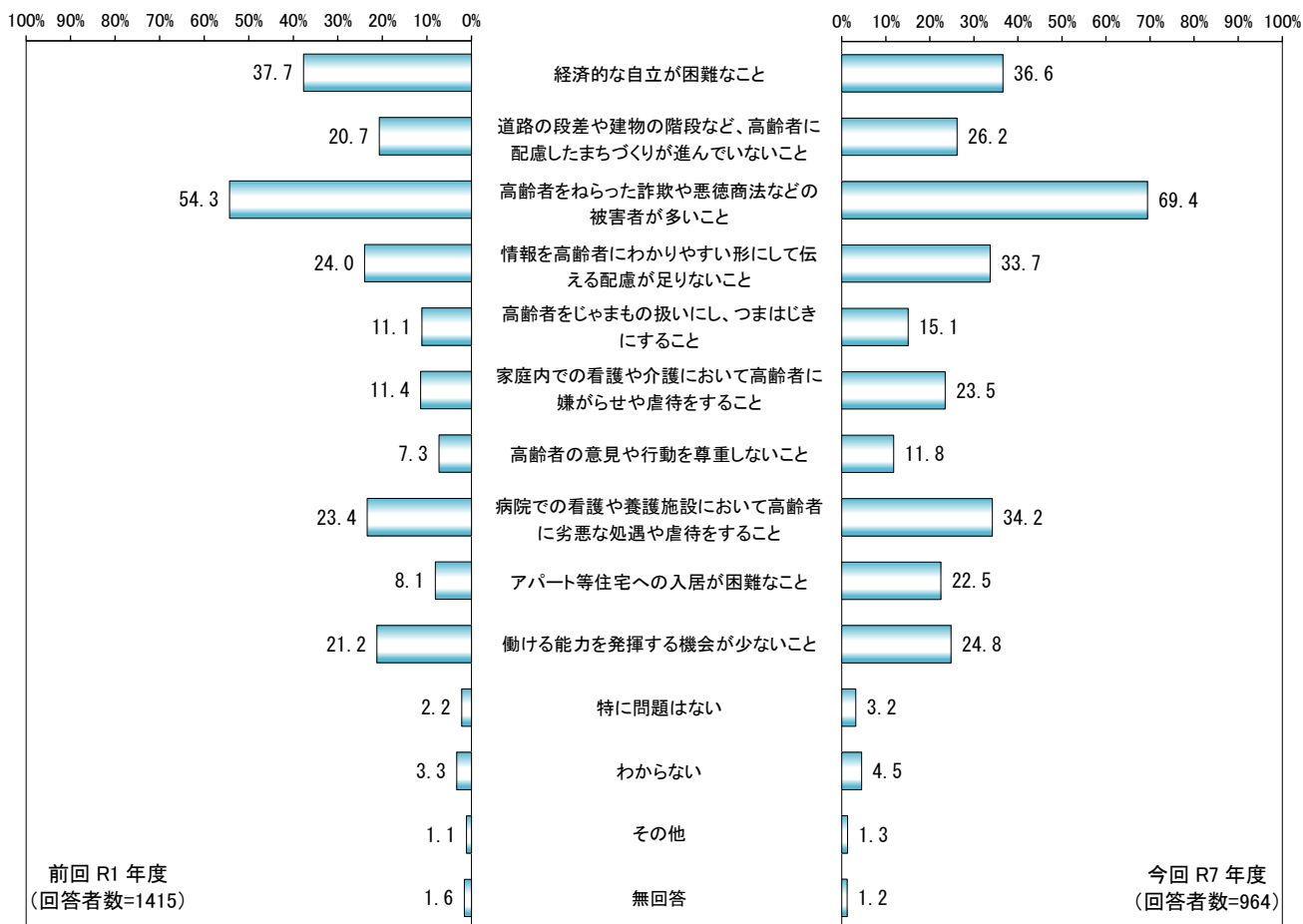
(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別でみると、すべての年代で「高齢者をねらった詐欺や悪徳商法などの被害者が多いこと」の割合が最も高くなっている。

その他の項目では、20～60歳代で「経済的な自立が困難なこと」、10歳代で「道路の段差や建物の階段など、高齢者に配慮したまちづくりが進んでいないこと」、70歳以上で「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」の割合が高くなっている。

過去調査との比較

* 前回調査では、本設問は「最大 3 つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



前回調査と同様に、今回の調査においても「高齢者をねらった詐欺や悪徳商法などの被害者が多いこと」の割合が最も高くなっており、前回から 15.1 ポイント増加している。2 番目に割合が高かった項目についても前回から変化はなく、「経済的な自立が困難なこと」となっている。「病院での看護や養護施設において高齢者に劣悪な処遇や虐待をすること」が前回から 10.8 ポイント増加し、3 番目に高い回答となった。

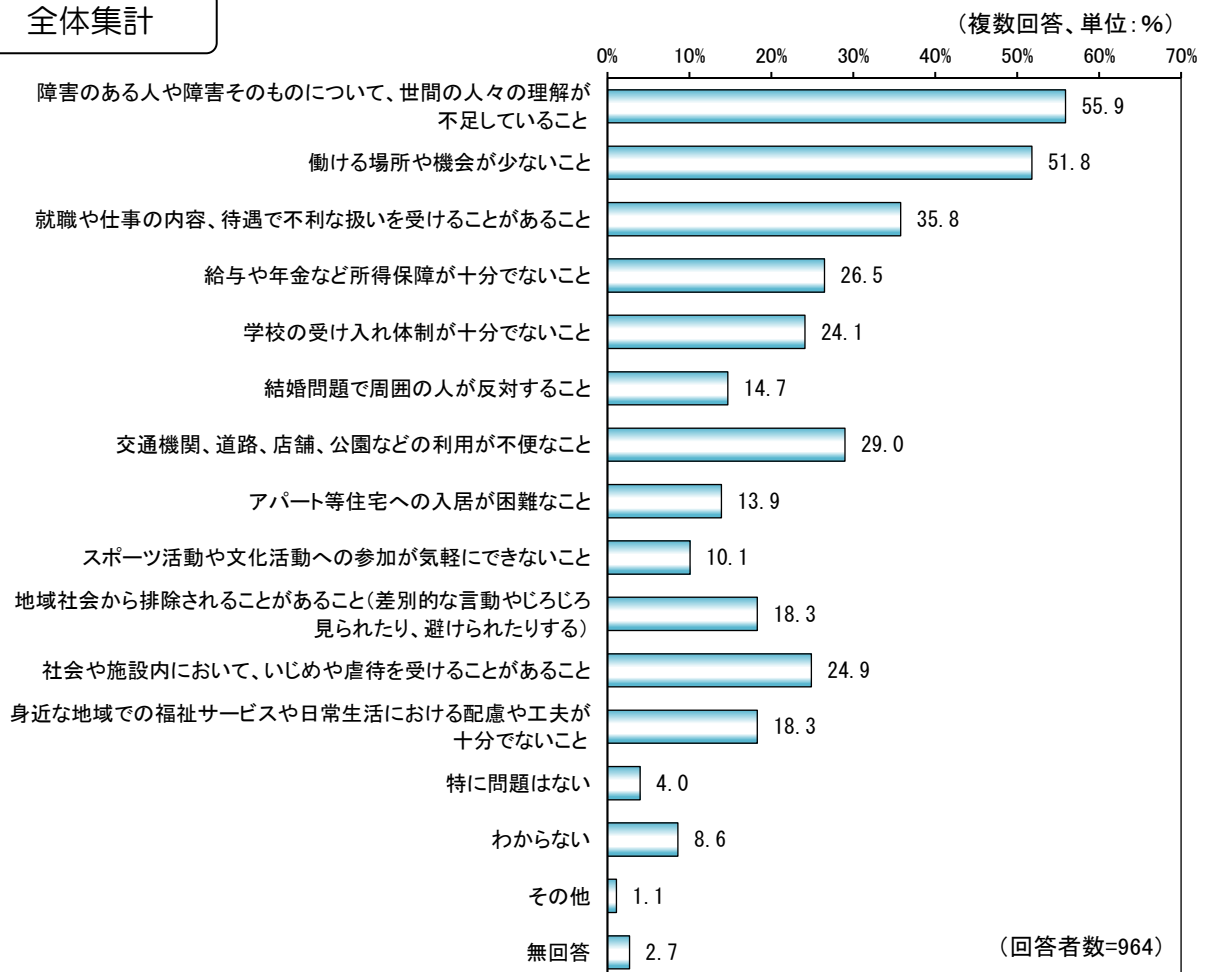
8. 障害のある人の人権について

○障害のある人に関する人権上の問題点

問 14 障害のある人についてのことがらで、人権上特に問題があると思われるのはどのようなことですか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

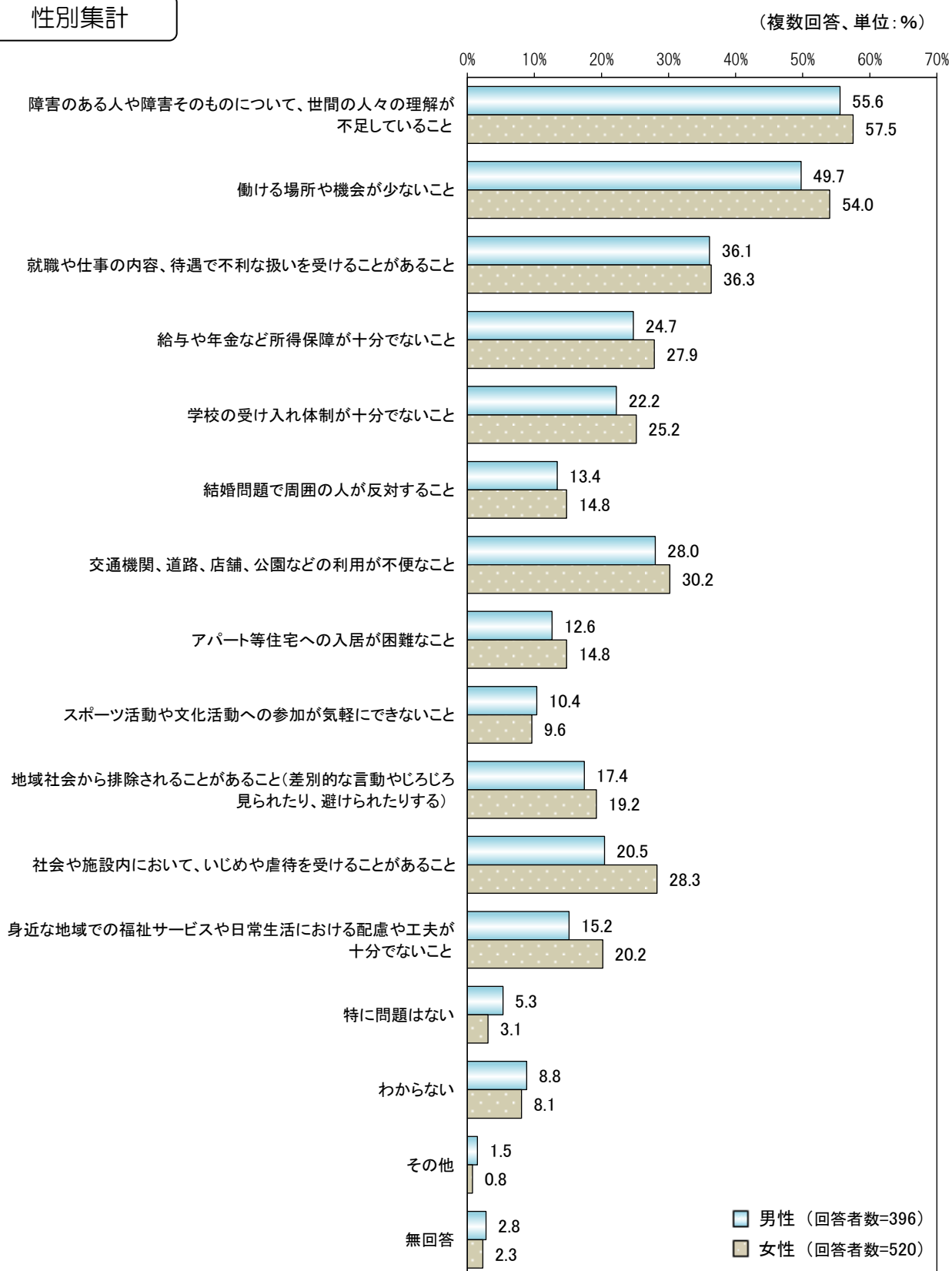
1. 障害のある人や障害そのものについて、世間の人々の理解が不足していること
2. 働ける場所や機会が少ないこと
3. 就職や仕事の内容、待遇で不利な扱いを受けることがあること
4. 給与や年金など所得保障が十分でないこと
5. 学校の受け入れ体制が十分でないこと
6. 結婚問題で周囲の人が反対すること
7. 交通機関、道路、店舗、公園などの利用が不便なこと
8. アパート等住宅への入居が困難なこと
9. スポーツ活動や文化活動への参加が気軽にできないこと
10. 地域社会から排除されることがあること(差別的な言動やじろじろ見られたり、避けられたりする)
11. 社会や施設内において、いじめや虐待を受けることがあること
12. 身近な地域での福祉サービスや日常生活における配慮や工夫が十分でないこと
13. 特に問題はない
14. わからない
15. その他()

全体集計



「障害のある人や障害そのものについて、世間の人々の理解が不足していること」の割合が55.9%と最も高く、次いで「働ける場所や機会が少ないこと」が51.8%、「就職や仕事の内容、待遇で不利な扱いを受けることがあること」が35.8%となっている。

性別集計

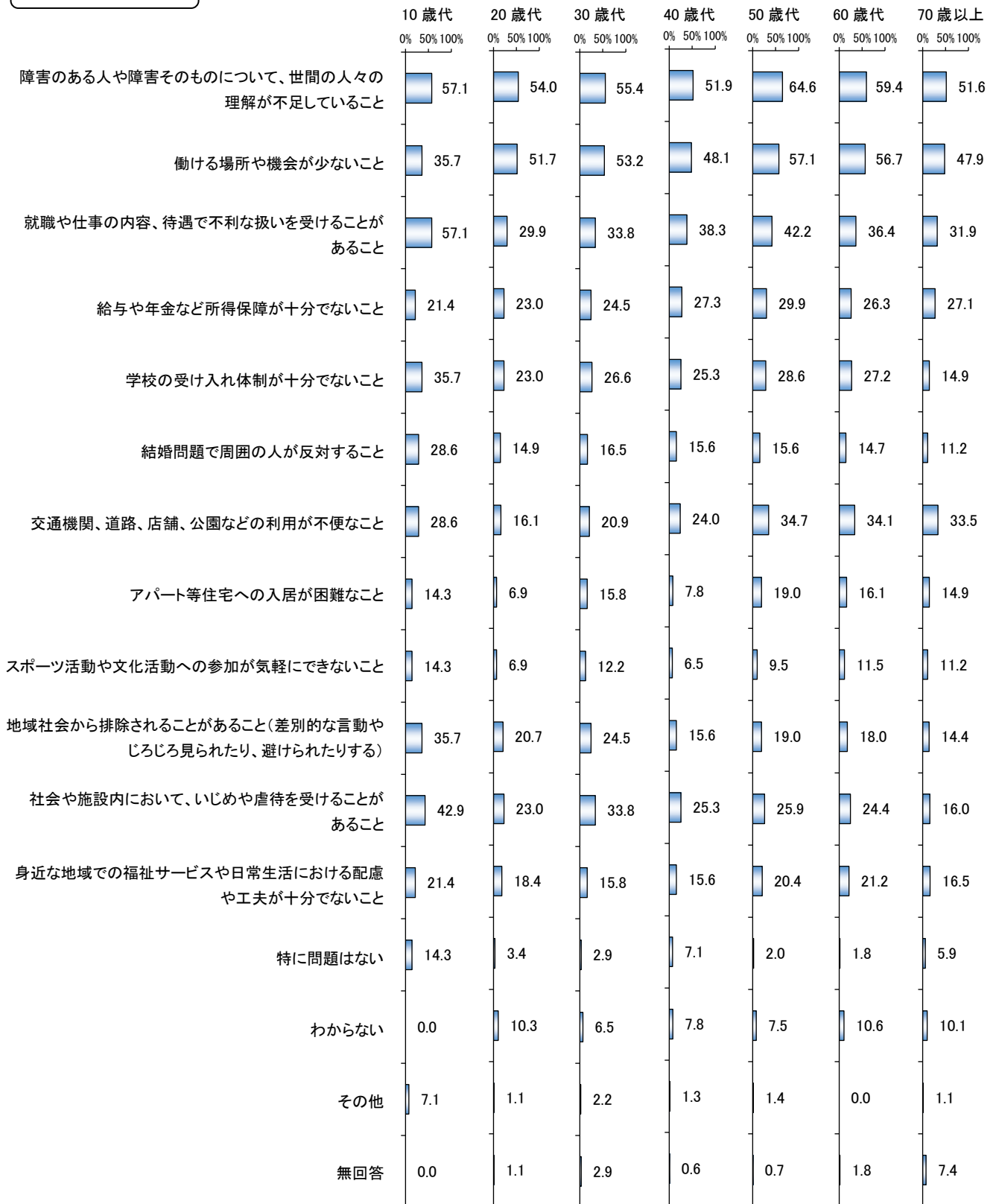


性別で見ると、男女ともに「障害のある人や障害そのものについて、世間の人々の理解が不足していること」の割合が最も高く（男性は55.6%、女性は57.5%）、次いで「働ける場所や機会が少ないこと」（男性は49.7%、女性は54.0%）、「就職や仕事の内容、待遇で不利な扱いを受けることがあること」（男性は36.1%、女性は36.3%）となっている。

「社会や施設内において、いじめや虐待を受けることがあること」が最も男女差が大きく、男性（20.5%）よりも女性（28.3%）の方が7.8ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位：%)



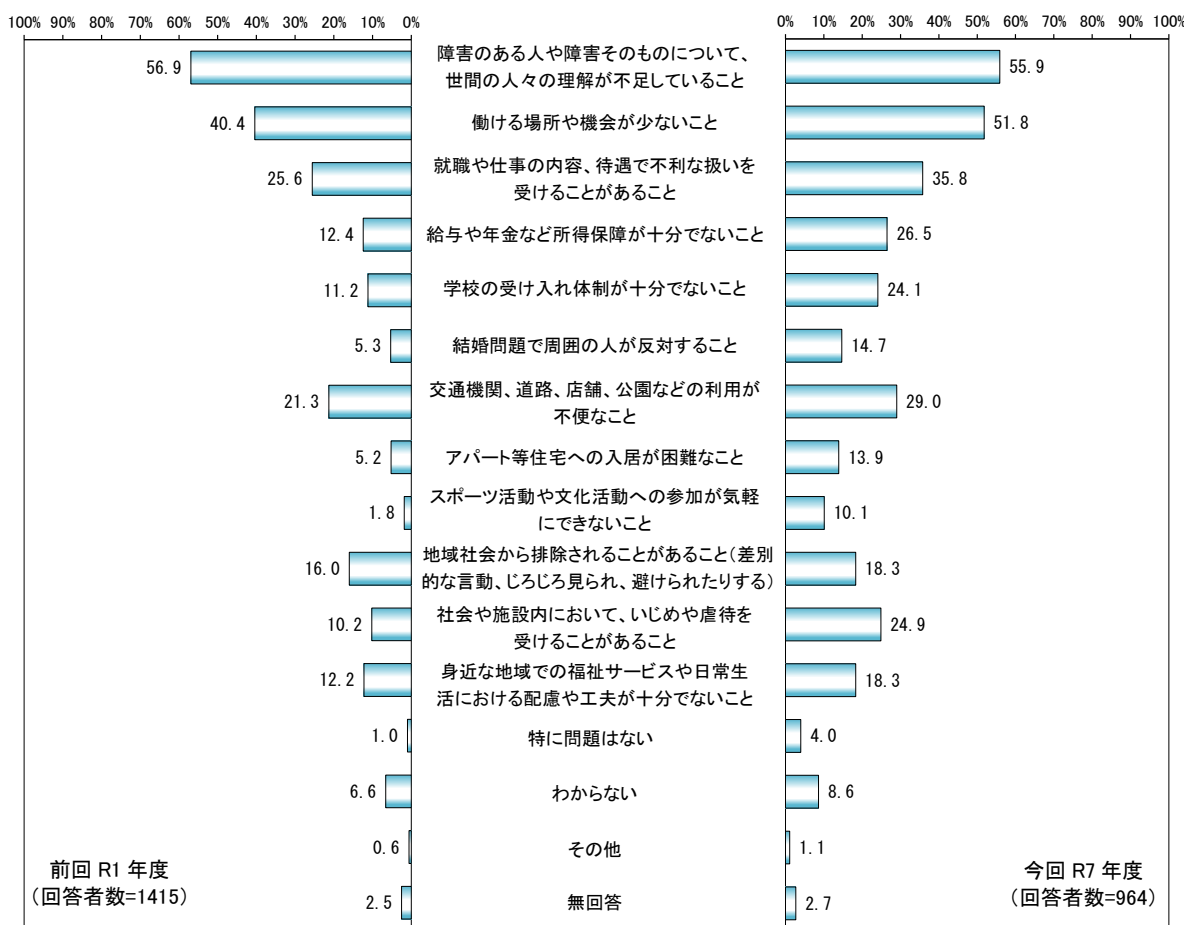
(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別で見ると、すべての年代で「障害のある人や障害そのものについて、世間の人々の理解が不足していること」が最も高くなっている。

その他の項目では、20歳代以上で「働ける場所や機会が少ないこと」、10歳代で「就職や仕事の内容、待遇で不利な扱いを受けることがあること」の割合が高くなっている。

過去調査との比較

*前回調査では、本設問は「最大 3 つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



前回調査と同様に、今回の調査においても「障害のある人や障害そのものについて、世間の人々の理解が不足していること」の割合が最も高くなっており、2番目、3番目に高い項目についても前回から変化はなく、「働ける場所や機会が少ないこと」、「就職や仕事の内容、待遇で不利な扱いを受けることがあること」となっている。

前回からの割合の変化を見ると、「社会や施設内において、いじめや虐待を受けることがある」（14.7ポイント増）、「給与や年金など所得保障が十分でないこと」（14.1ポイント増）、「学校の受け入れ体制が十分でないこと」（12.9ポイント増）、「働ける場所や機会が少ないこと」（11.4ポイント増）などで10ポイント以上の増加となっている。

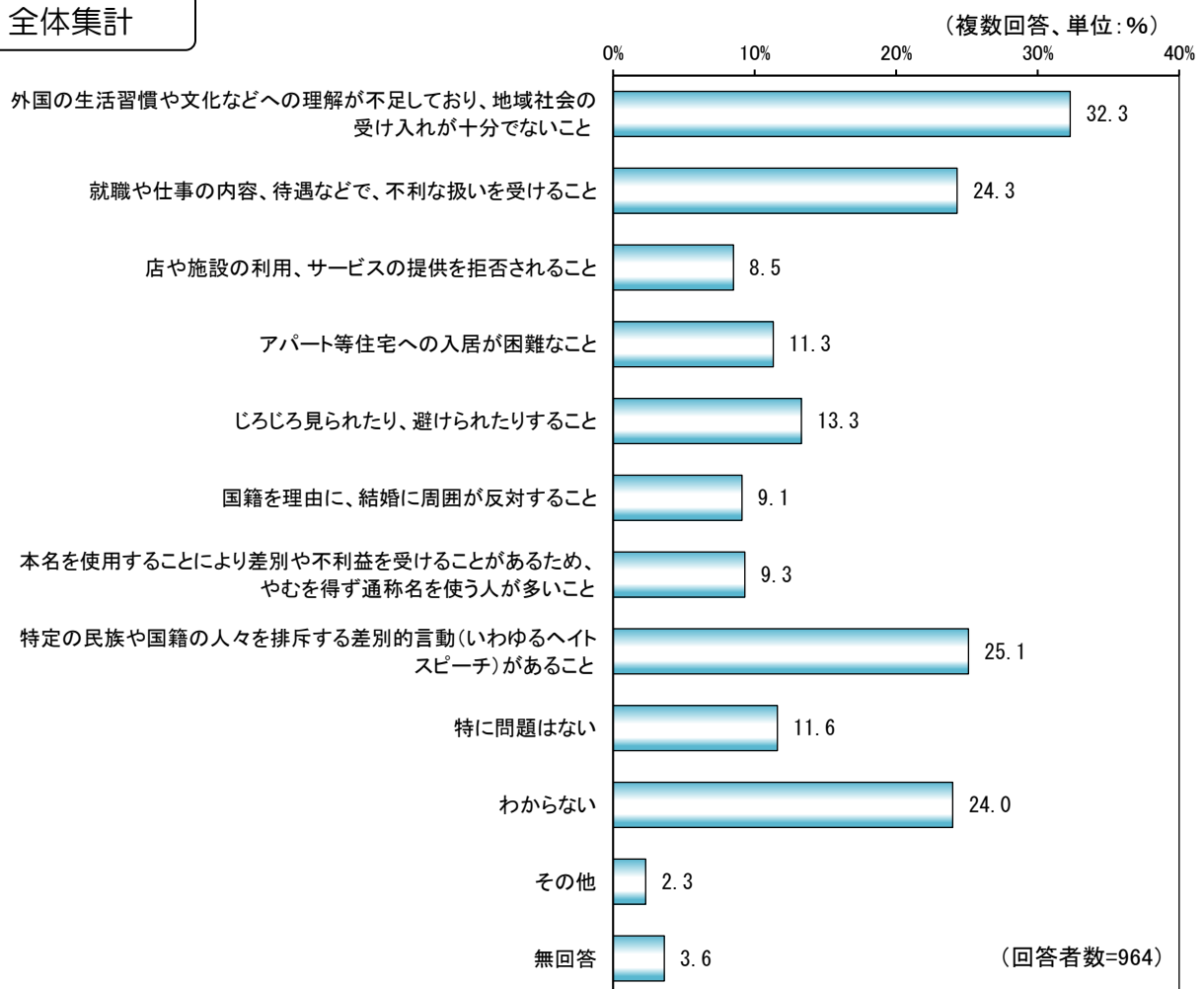
9. 外国人の人権について

○外国人に関する人権上の問題点

問 15 あなたは、外国人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

1. 外国の生活習慣や文化などへの理解が不足しており、地域社会の受け入れが十分でないこと
2. 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること
3. 店や施設の利用、サービスの提供を拒否されること
4. アパート等住宅への入居が困難なこと
5. じろじろ見られたり、避けられたりすること
6. 国籍を理由に、結婚に周囲が反対すること
7. 本名を使用することにより差別や不利益を受けることがあるため、やむを得ず通称名を使う人が多いこと
8. 特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動(いわゆるヘイトスピーチ)があること
9. 特に問題はない
10. わからない
11. その他()

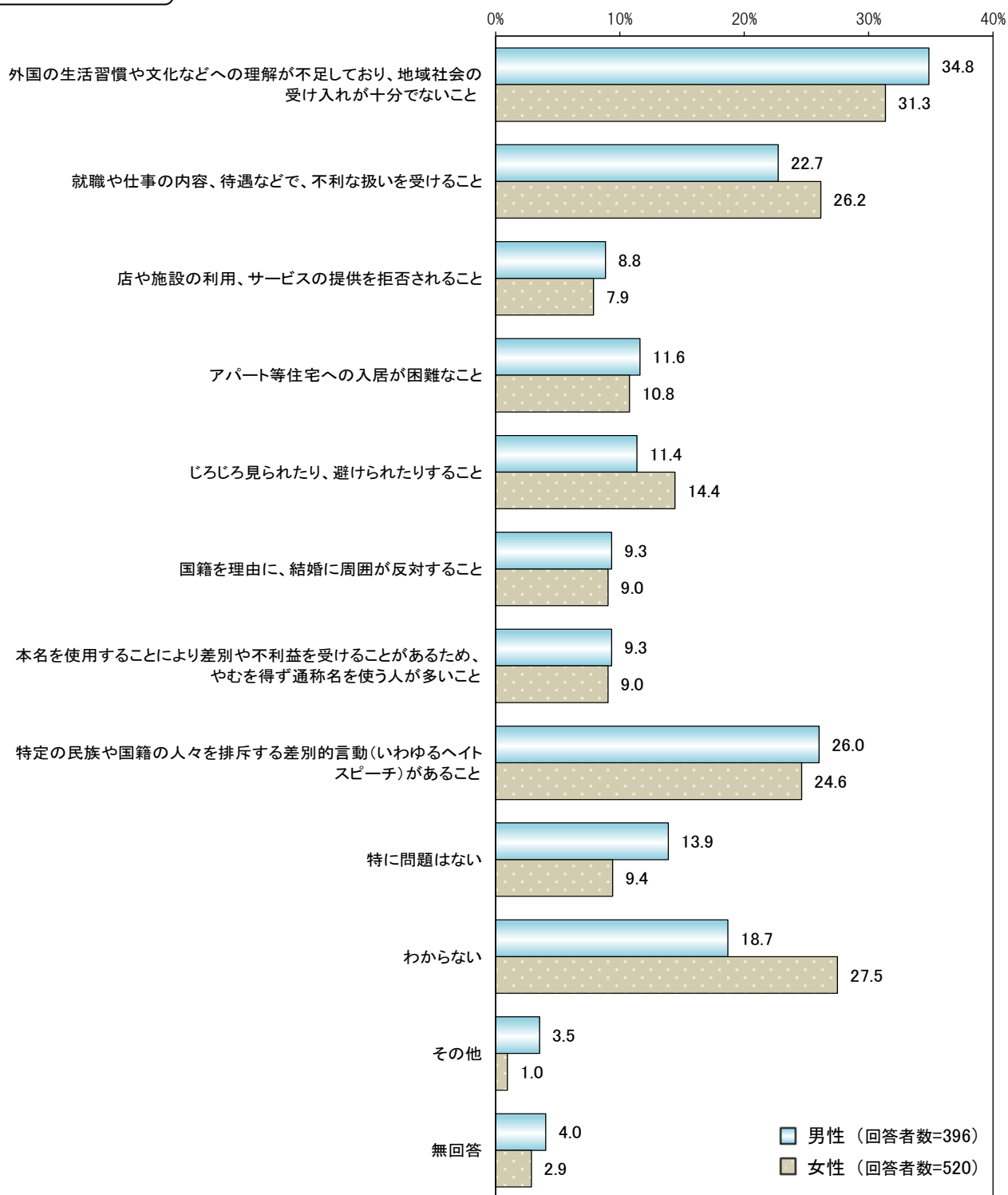
全体集計



「外国の生活習慣や文化などへの理解が不足しており、地域社会の受け入れが十分でないこと」の割合が 32.3%と最も高く、次いで「特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動(いわゆるヘイトスピーチ)があること」が 25.1%、「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」が 24.3%となっている。

性別集計

(複数回答、単位：%)

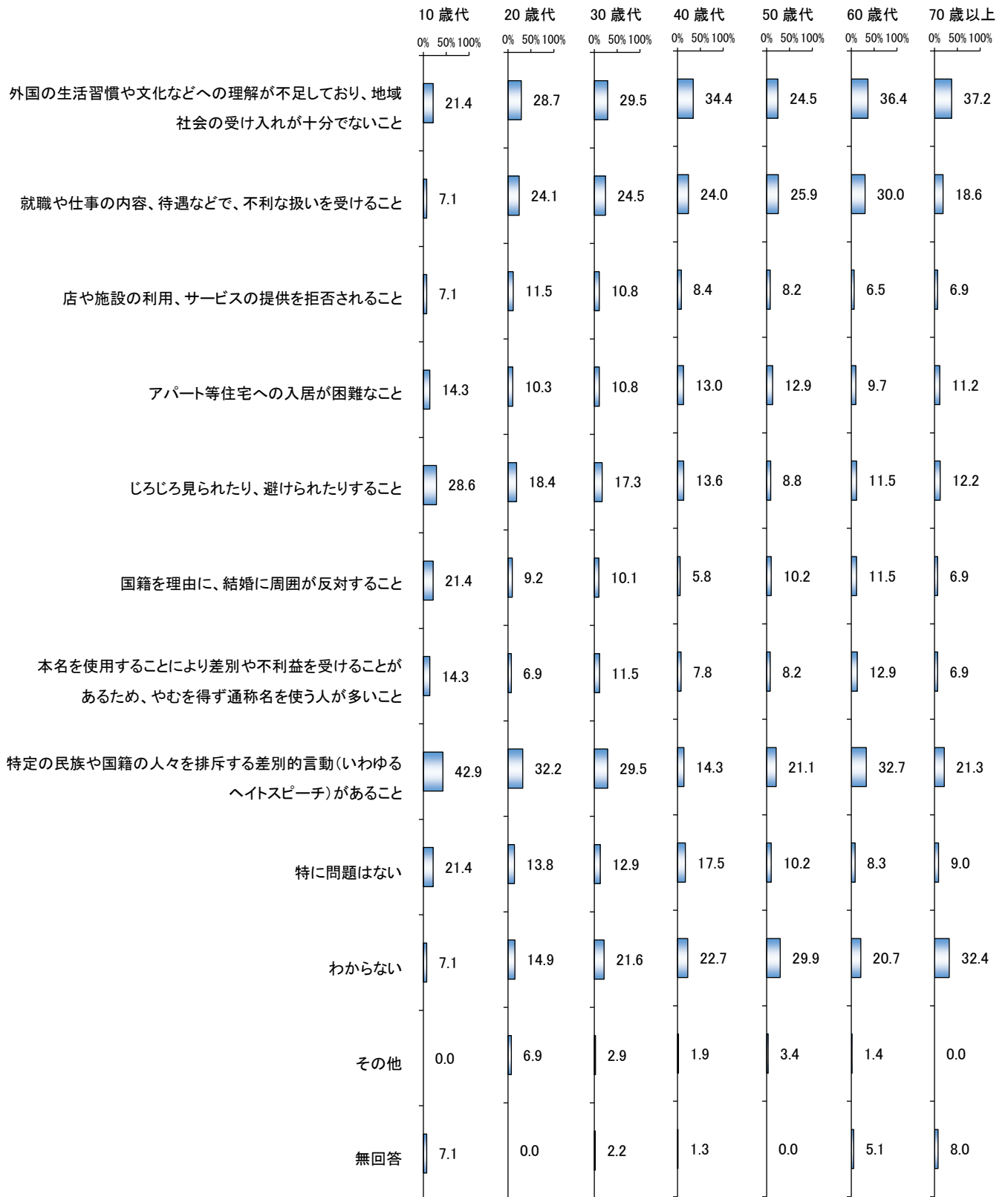


性別でみると、男女ともに「外国の生活習慣や文化などへの理解が不足しており、地域社会の受け入れが十分でないこと」の割合最も高く（男性は34.8%、女性は31.3%）、次いで男性は「特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動（いわゆるヘイトスピーチ）があること」（26.0%）、「就職や仕事の内容、待遇などで不利な扱いを受けること」（22.7%）、女性は「わからない」（27.5%）、「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」（26.2%）となっている。

「わからない」が最も男女差が大きく、男性(18.7%)よりも女性(27.5%)の方が8.8ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位：%)



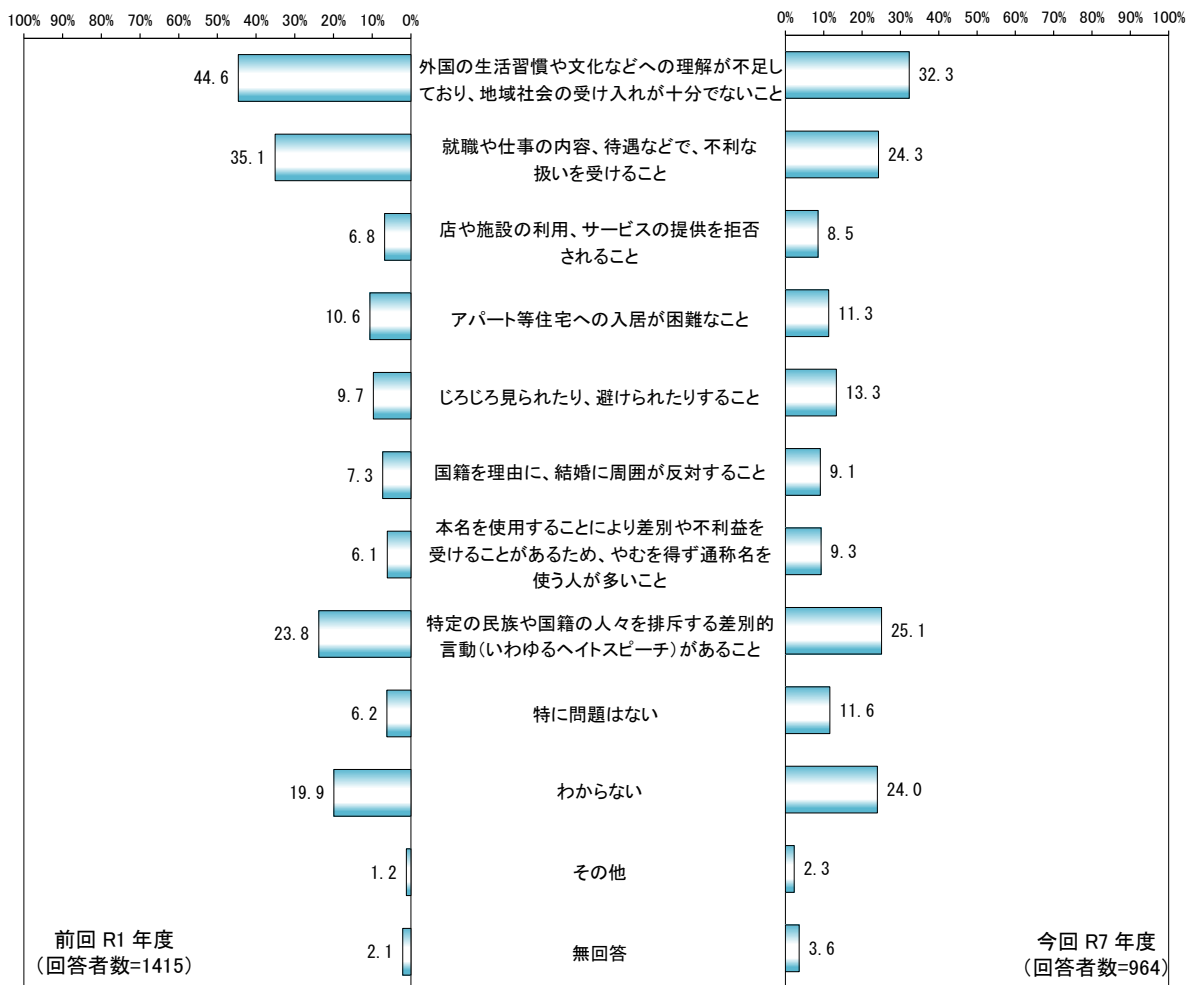
(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別でみると、10～30 歳代で「特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動（いわゆるヘイトスピーチ）があること」、30・40 歳代、60 歳以上で「外国の生活習慣や文化などへの理解が不足しており、地域社会の受け入れが十分でないこと」の割合が最も高くなっている。

その他の項目では、30 歳代～50 歳代で「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」が高くなっている。

過去調査との比較

* 前回調査では、本設問は「最大 3 つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



前回調査と同様に、今回の調査においても「外国の生活習慣や文化などへの理解が不足しており、地域社会の受け入れが十分でないこと」の割合が最も高くなっているが、前回に比べて12.3ポイント減少している。同じく「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」の割合も、前回に比べて10.8ポイント減少した。その一方で、「特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動(いわゆるヘイトスピーチ)があること」は、前回から1.3ポイント増加し、2番目に高い割合となっている。

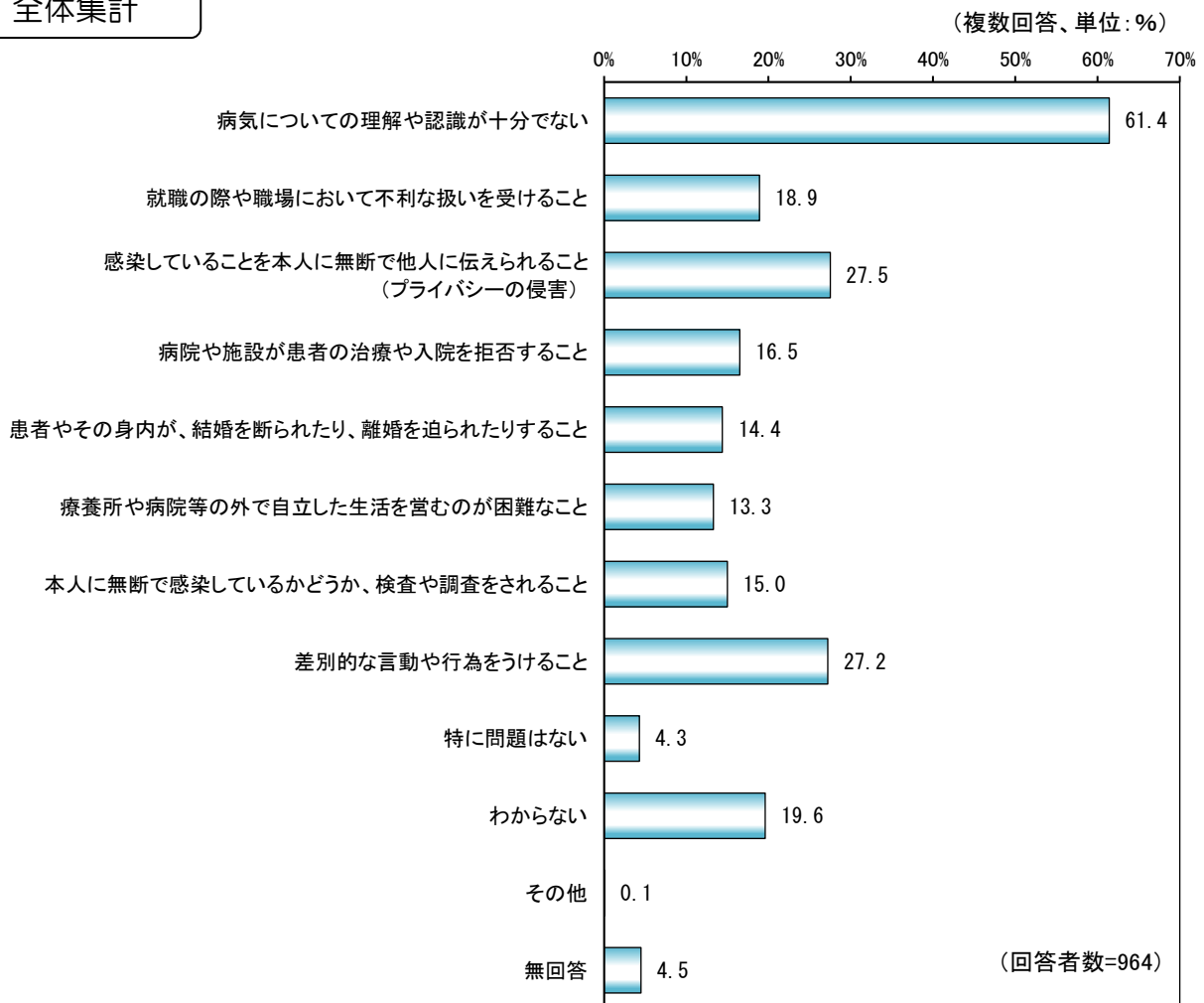
10. 感染症（ハンセン病、HIV等）・難病患者等の人権について

○感染症（ハンセン病、HIV等）・難病患者等に関する人権上の問題点

問 16 あなたは、感染症(ハンセン病、HIV等)・難病患者等の方々に対して、人権の尊重という点からみて特に問題があると思われるのはどういうことですか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

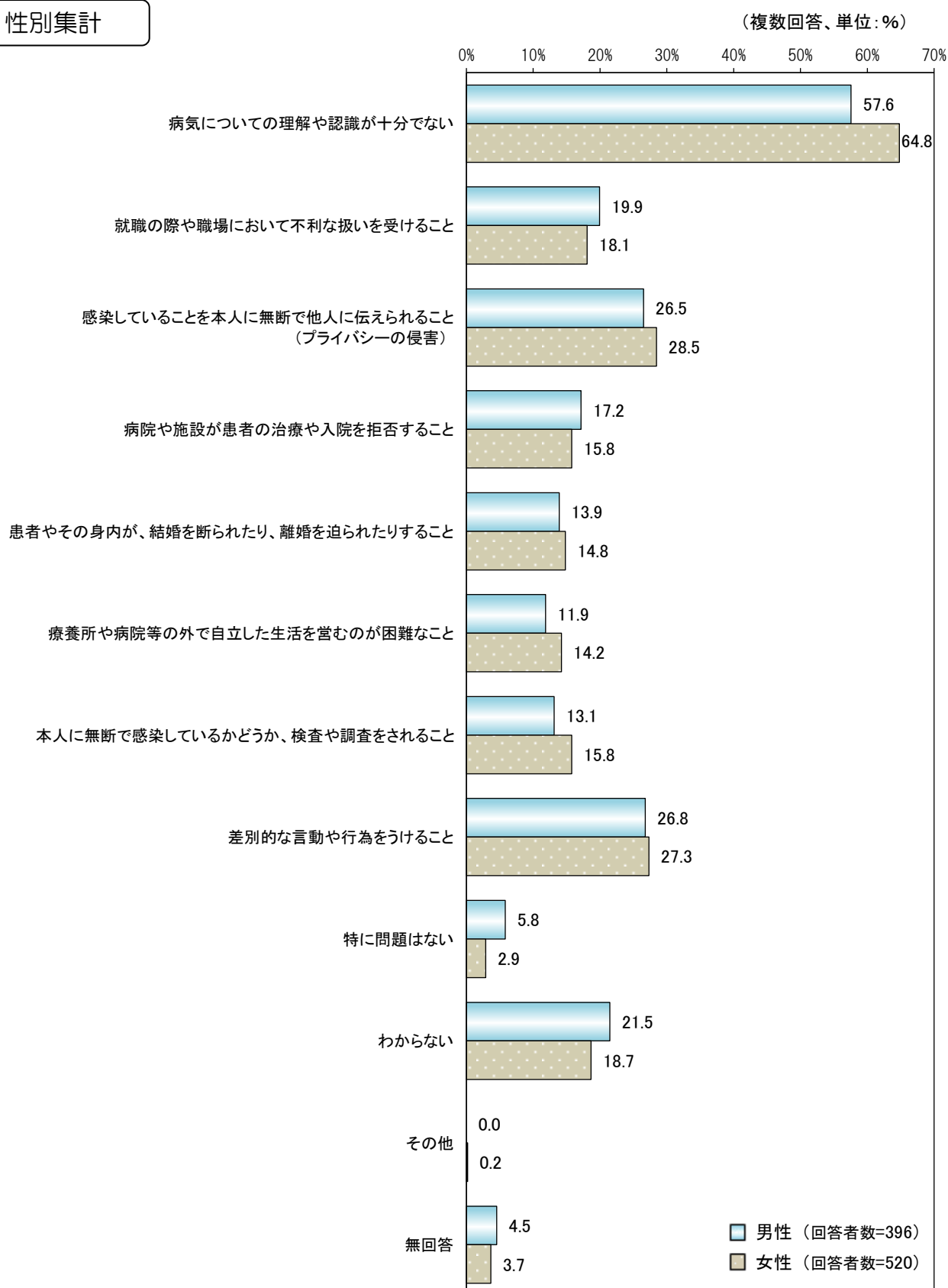
1. 病気についての理解や認識が十分でない
2. 就職の際や職場において不利な扱いを受けること
3. 感染していることを本人に無断で他人に伝えられること（プライバシーの侵害）
4. 病院や施設が患者の治療や入院を拒否すること
5. 患者やその身内が、結婚を断られたり、離婚を迫られたりすること
6. 療養所や病院等の外で自立した生活を営むのが困難なこと
7. 本人に無断で感染しているかどうか、検査や調査をされること
8. 差別的な言動や行為をうけること
9. 特に問題はない
10. わからない
11. その他（ ）

全体集計



「病気についての理解や認識が十分でない」の割合が61.4%と最も高く、次いで「感染していることを本人に無断で他人に伝えられること（プライバシーの侵害）」が27.5%、「差別的な言動や行為をうけること」が27.2%となっている。

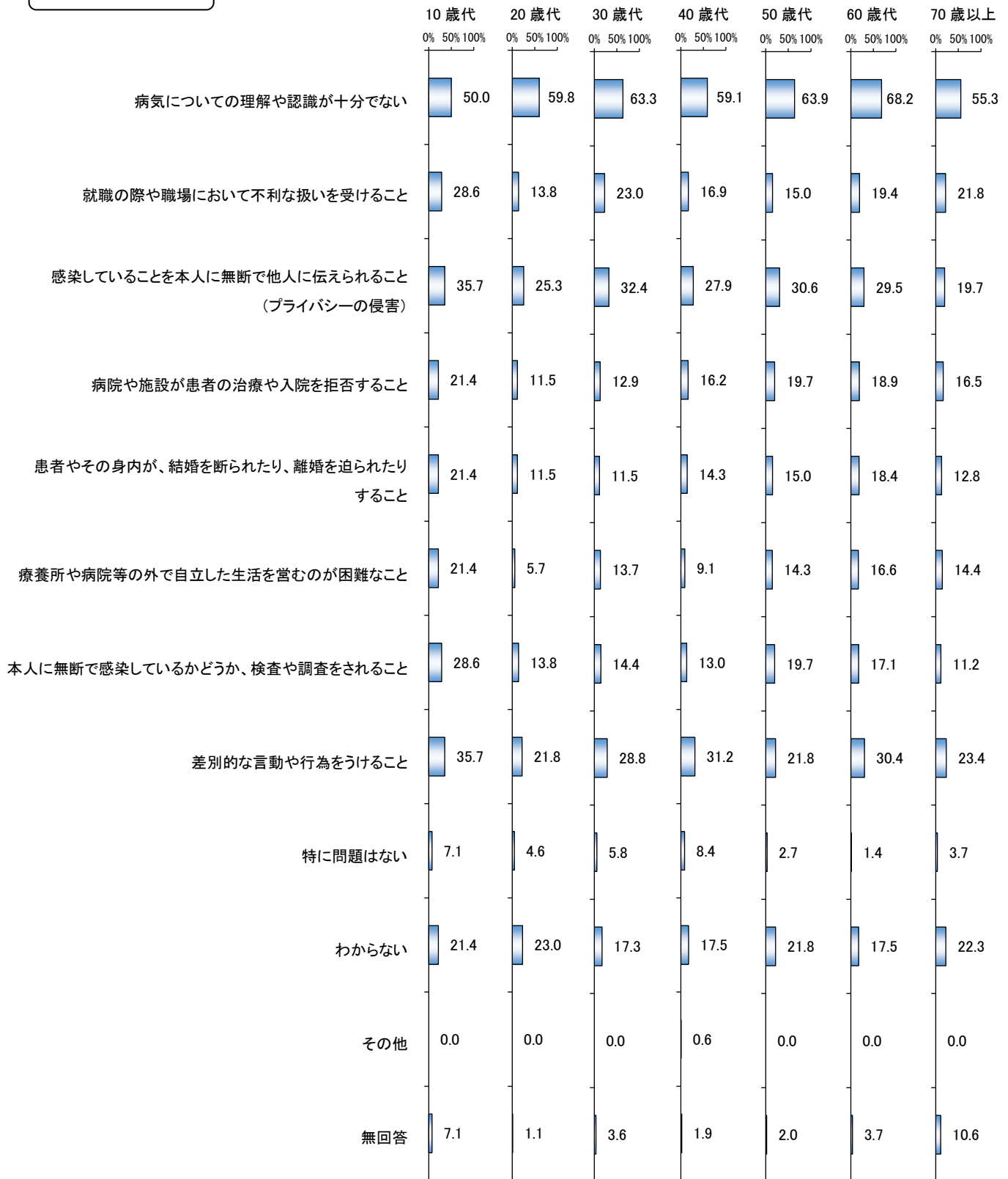
性別集計



性別で見ると、男女ともに「病気についての理解や認識が十分でない」の割合が最も高く（男性は57.6%、女性は64.8%）、次いで男性は「差別的な言動や行為をうけること」（26.8%）、「感染していることを本人に無断で他人に伝えられること（プライバシーの侵害）」（26.5%）、女性は「感染していることを本人に無断で他人に伝えられること（プライバシーの侵害）」（28.5%）、「差別的な言動や行為をうけること」（27.3%）となっている。

年代別集計

(複数回答、単位：%)



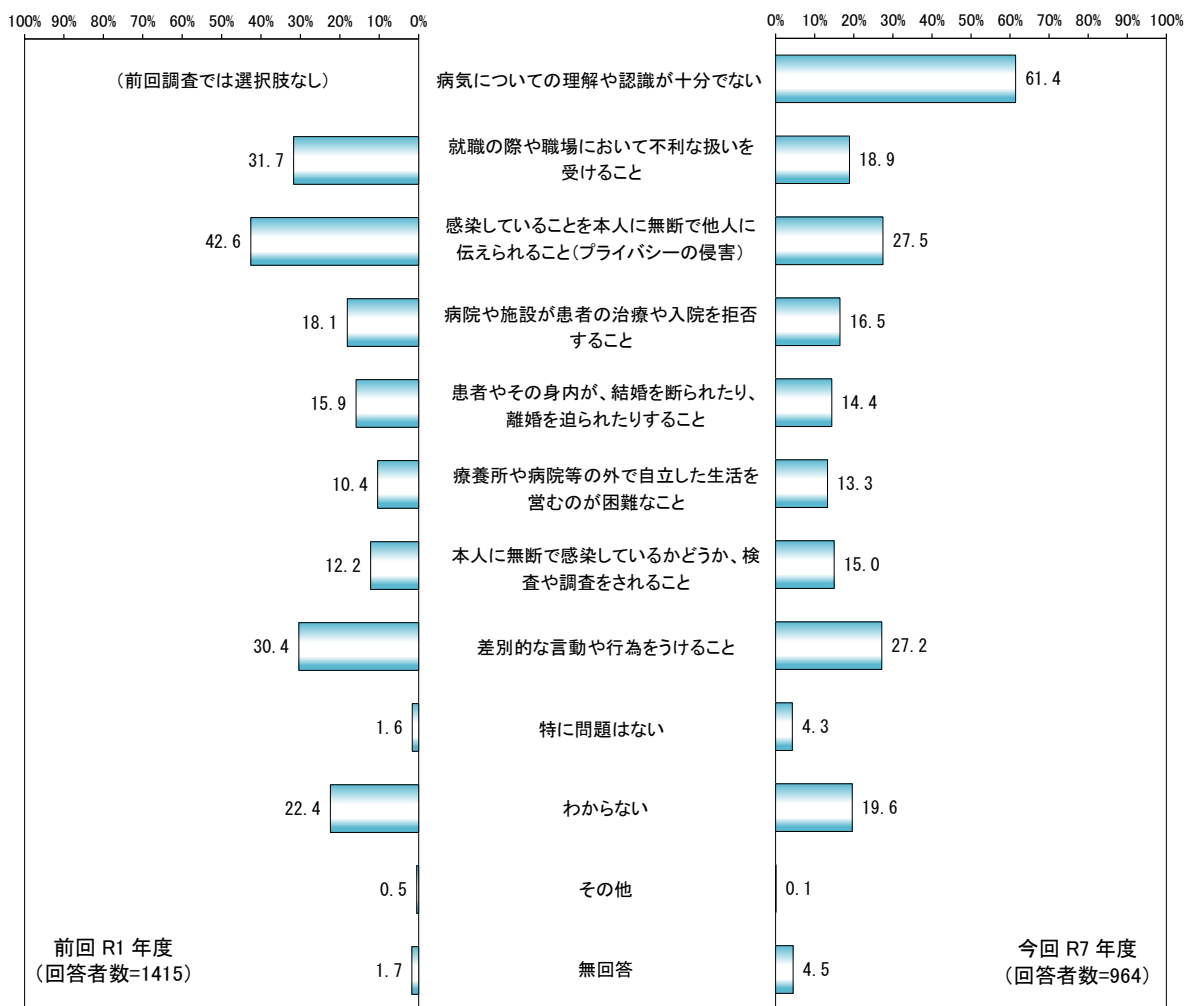
(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別でみると、すべての年代で「病気についての理解や認識が十分でない」の割合が最も高くなっている。

その他の項目では、10～30歳代、50歳代で「感染していることを本人に無断で他人に伝えられること（プライバシーの侵害）」、10歳代・40歳代・60歳以上で「差別的な言動や行為をうけること」の割合が高くなっている。

過去調査との比較

(*) 前回調査では、本設問は「最大3つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



前回調査では選択肢になかった「病気についての理解や認識が十分でない」の割合が最も高くなっており、2番目、3番目に割合が高い項目は「感染していることを本人に無断で他人に伝えられること（プライバシーの侵害）」、「差別的な言動や行為をうけること」となっており、いずれも前回からは割合が減少している。

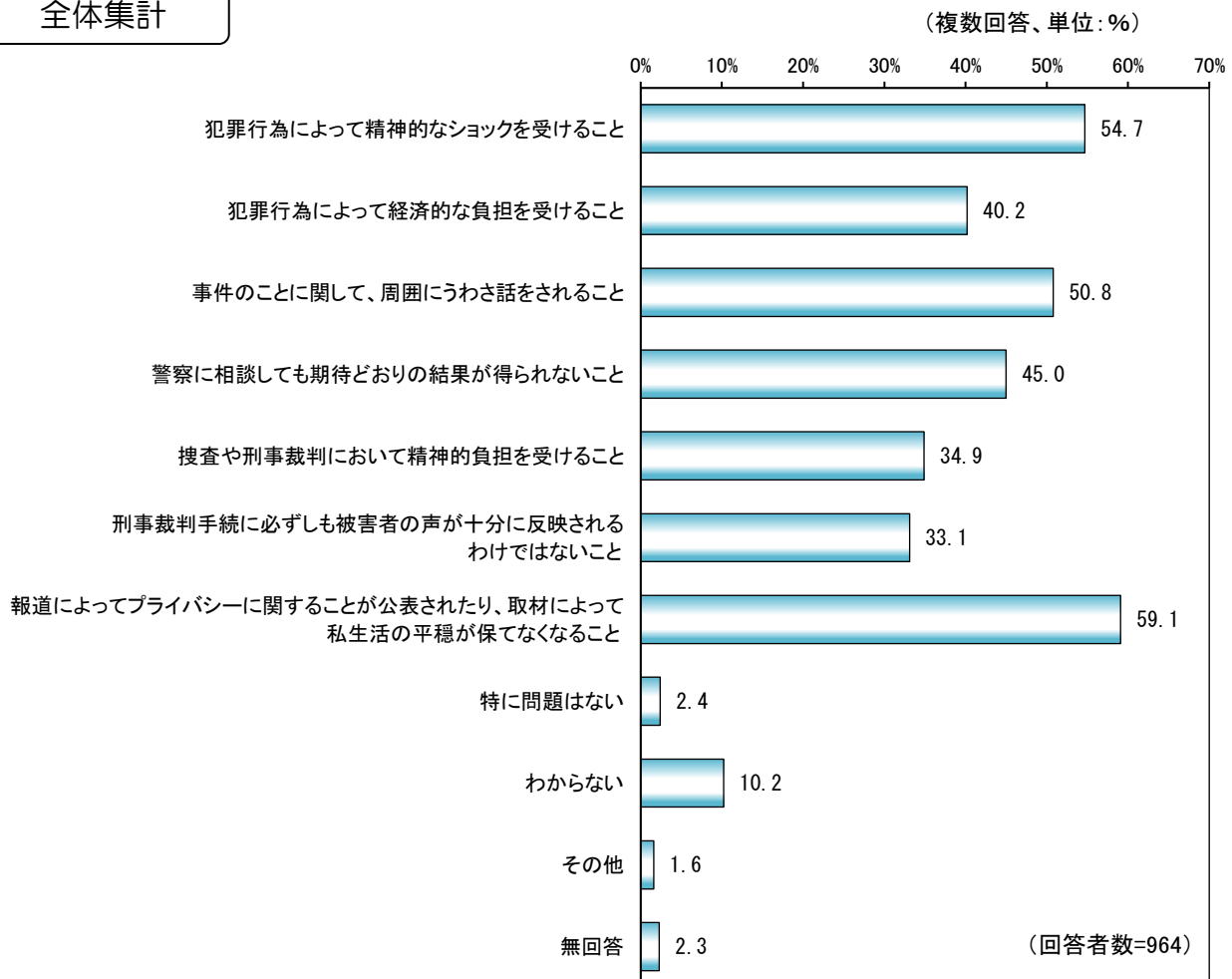
1.1. 犯罪被害者及びその家族の人権について

○犯罪被害者とその家族に関する人権上の問題点

問 17 あなたは、犯罪被害者とその家族の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. 犯罪行為によって精神的なショックを受けること
2. 犯罪行為によって経済的な負担を受けること
3. 事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること
4. 警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと
5. 捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること
6. 刑事裁判手続に必ずしも被害者の声が十分に反映されるわけではないこと
7. 報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること
8. 特に問題はない
9. わからない
10. その他 ()

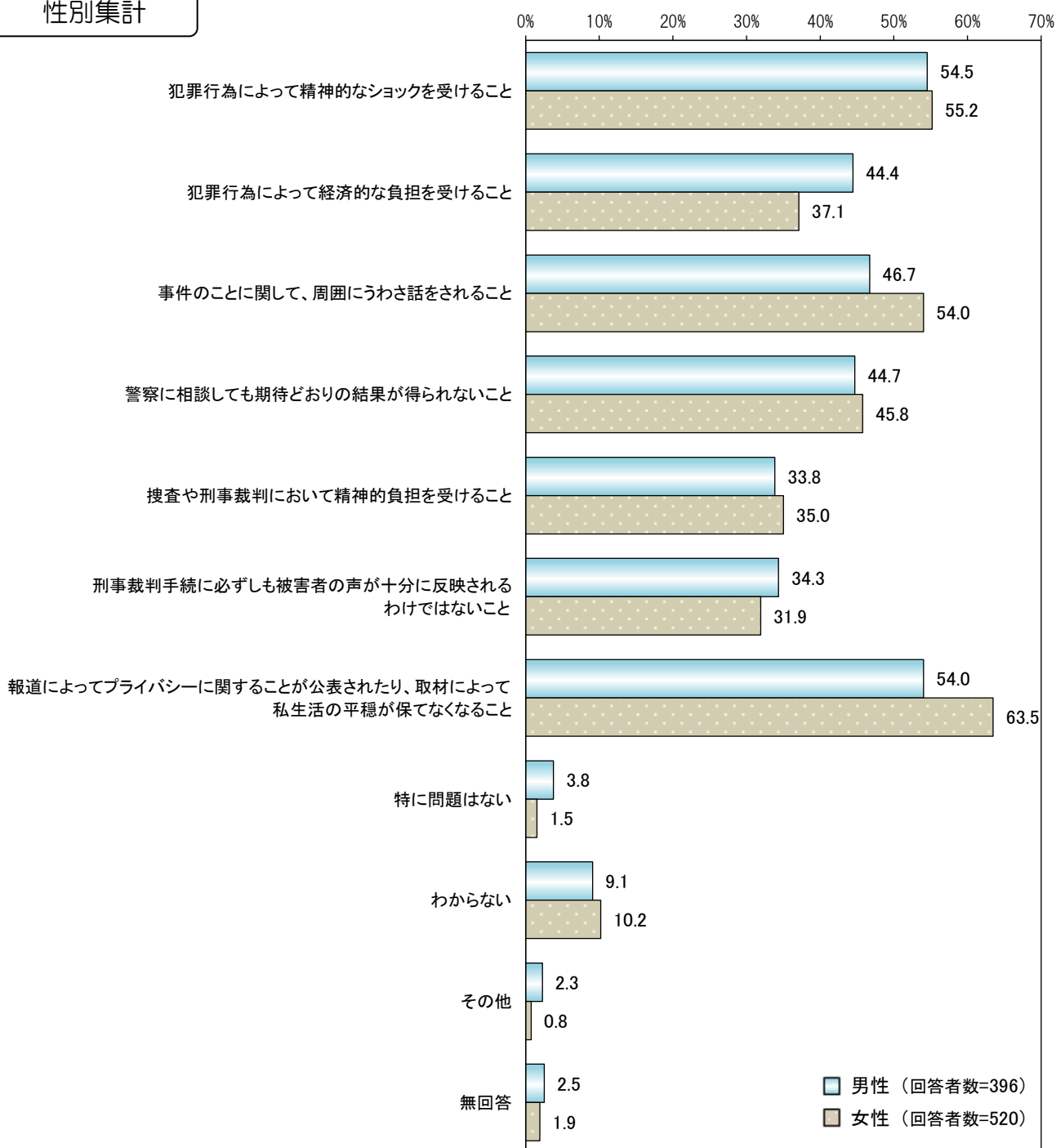
全体集計



「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」の割合が 59.1%と最も高く、次いで「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」が 54.7%、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が 50.8%となっている。

性別集計

(複数回答、単位：%)



性別でみると、男性は「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」の割合が最も高く（54.5%）、次いで「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穩が保てなくなること」（54.0%）となっている。

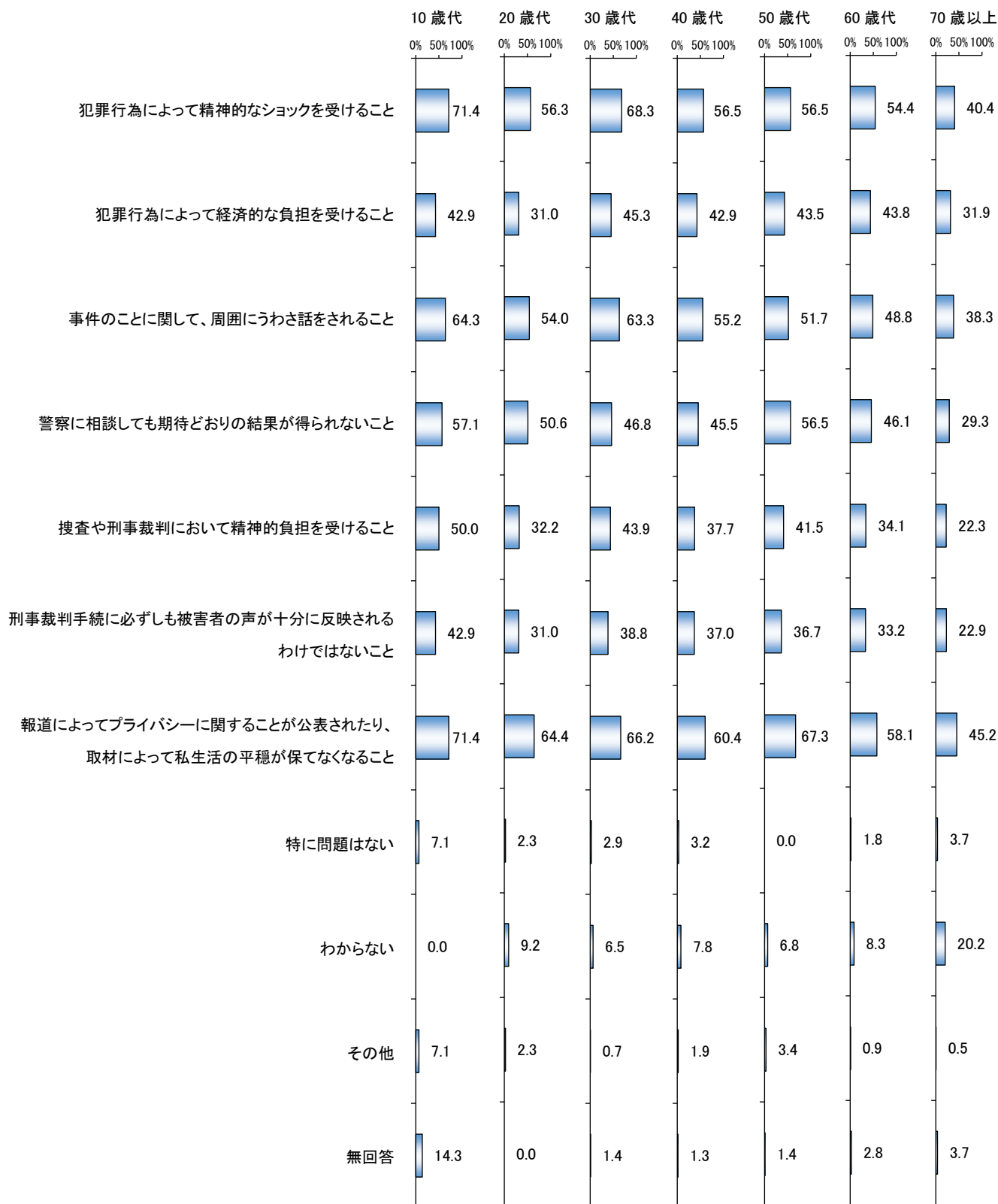
女性は「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穩が保てなくなること」が最も高く（63.5%）、次いで「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」（55.2%）となっている。

男女とも「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が続いて高くなっている（男性は46.7%、女性は54.0%）。

「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穩が保てなくなること」が最も男女差が大きく、男性(54.0%)よりも女性(63.5%)の方が9.5ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位：%)

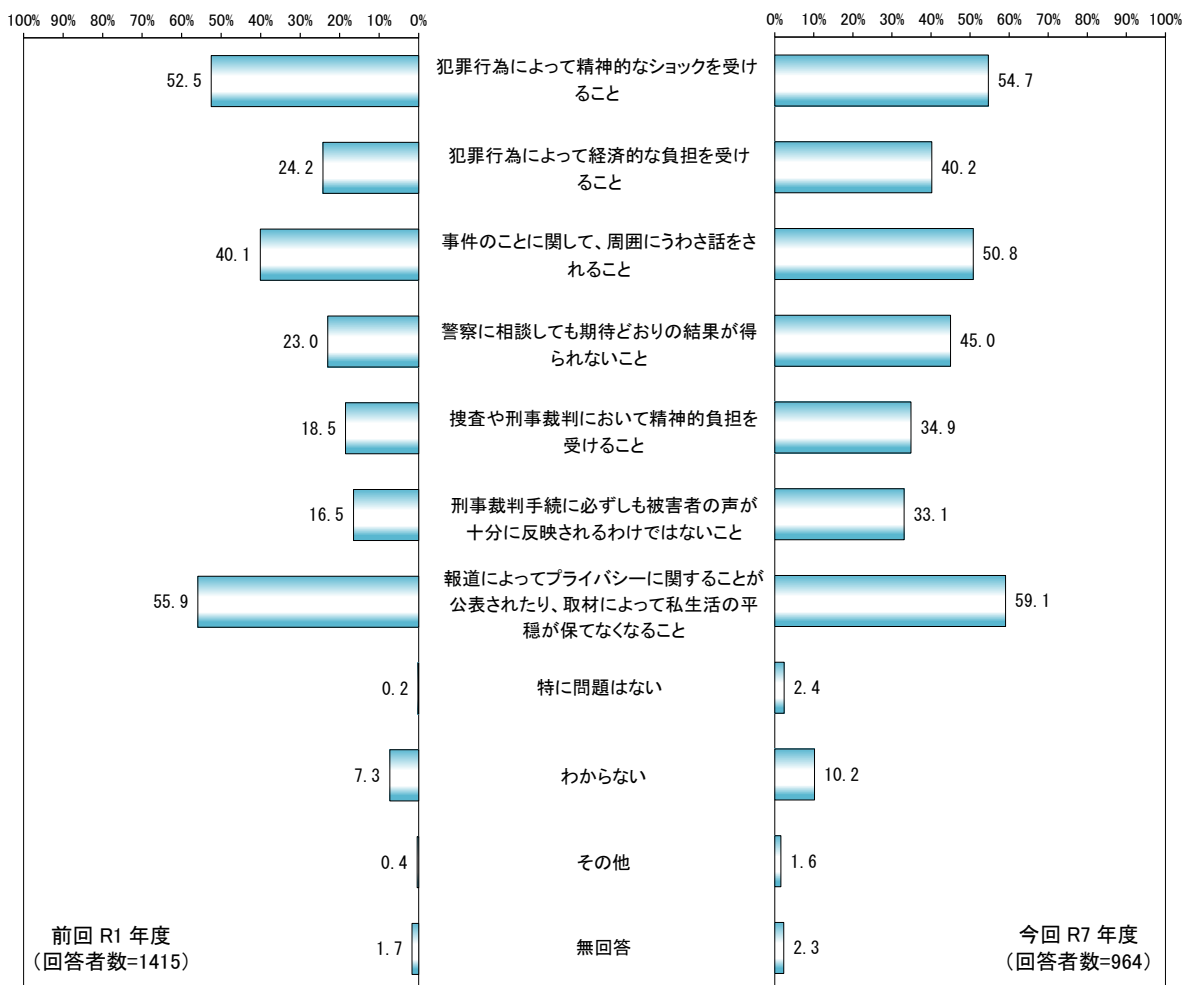


(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別でみると、30 歳代を除くすべての年代で「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」の割合が、10 歳代・30 歳代は「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」が最も高くなっている。「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」は 20 歳代・40 歳以上においても高くなっている。

過去調査との比較

* 前回調査では、本設問は「最大 3 つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



前回調査と同様に、今回の調査においても「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」の割合が最も高くなっており、2番目、3番目に割合が高い項目についても、前回から変化はなく、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」となっている。

前回からの割合の変化を見ると、「警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと」(22.0ポイント増)、「刑事裁判手続に必ずしも被害者の声が十分に反映されるわけではないこと」(16.6ポイント増)、「捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること」(16.4ポイント増)、「犯罪行為によって経済的な負担を受けること」(16.0ポイント増)、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」(10.7ポイント増)などで大きく増加している。

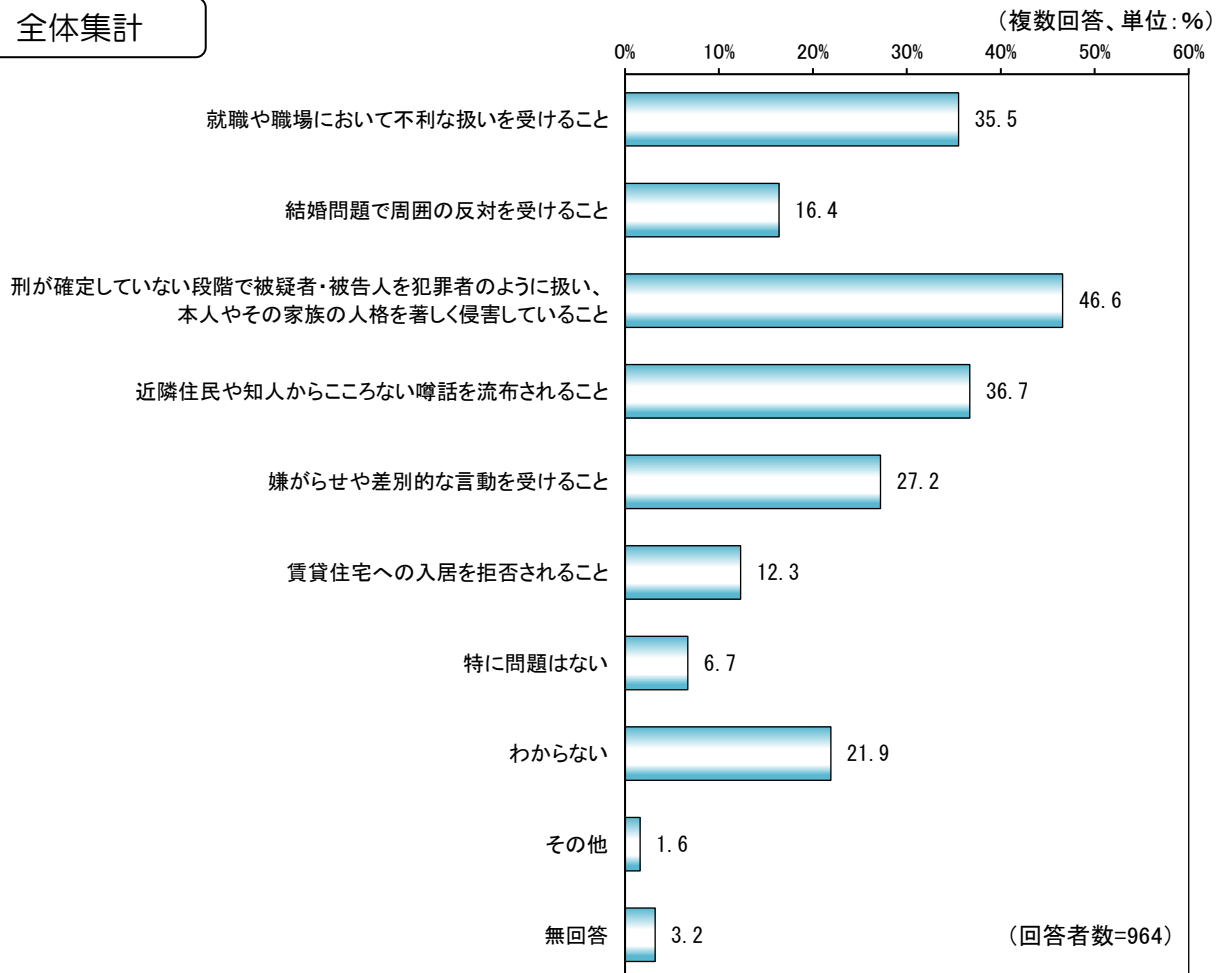
12. 刑事手続きに関わりをもった人の人権について

○刑事手続きに関わりをもった人に関する人権上の問題点

問 18 あなたは、刑事手続きに関わりをもった人(刑務所などを出所した人や被疑者、被告人など)の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
次の中から選んでください。(○はいくつでも)

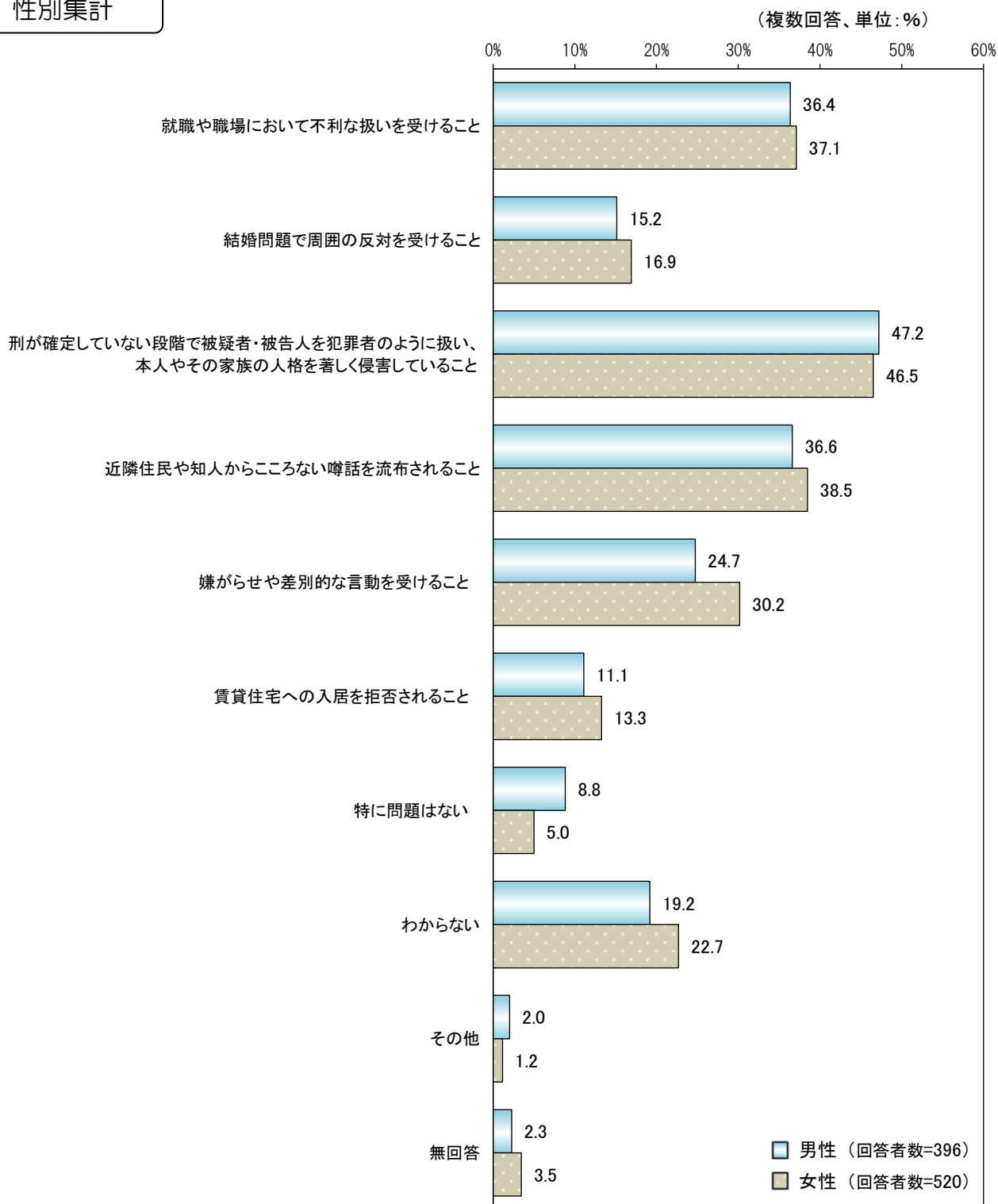
1. 就職や職場において不利な扱いを受けること
2. 結婚問題で周囲の反対を受けること
3. 刑が確定していない段階で被疑者・被告人を犯罪者のように扱い、本人やその家族の人格を著しく侵害していること
4. 近隣住民や知人からこころない噂話を流布されること
5. 嫌がらせや差別的な言動を受けること
6. 賃貸住宅への入居を拒否されること
7. 特に問題はない
8. わからない
9. その他 ()

全体集計



「刑が確定していない段階で被疑者・被告人を犯罪者のように扱い、本人やその家族の人格を著しく侵害していること」の割合が 46.6%と最も高く、次いで「近隣住民や知人からこころない噂話を流布されること」が 36.7%、「就職や職場において不利な扱いを受けること」が 35.5%となっている。

性別集計

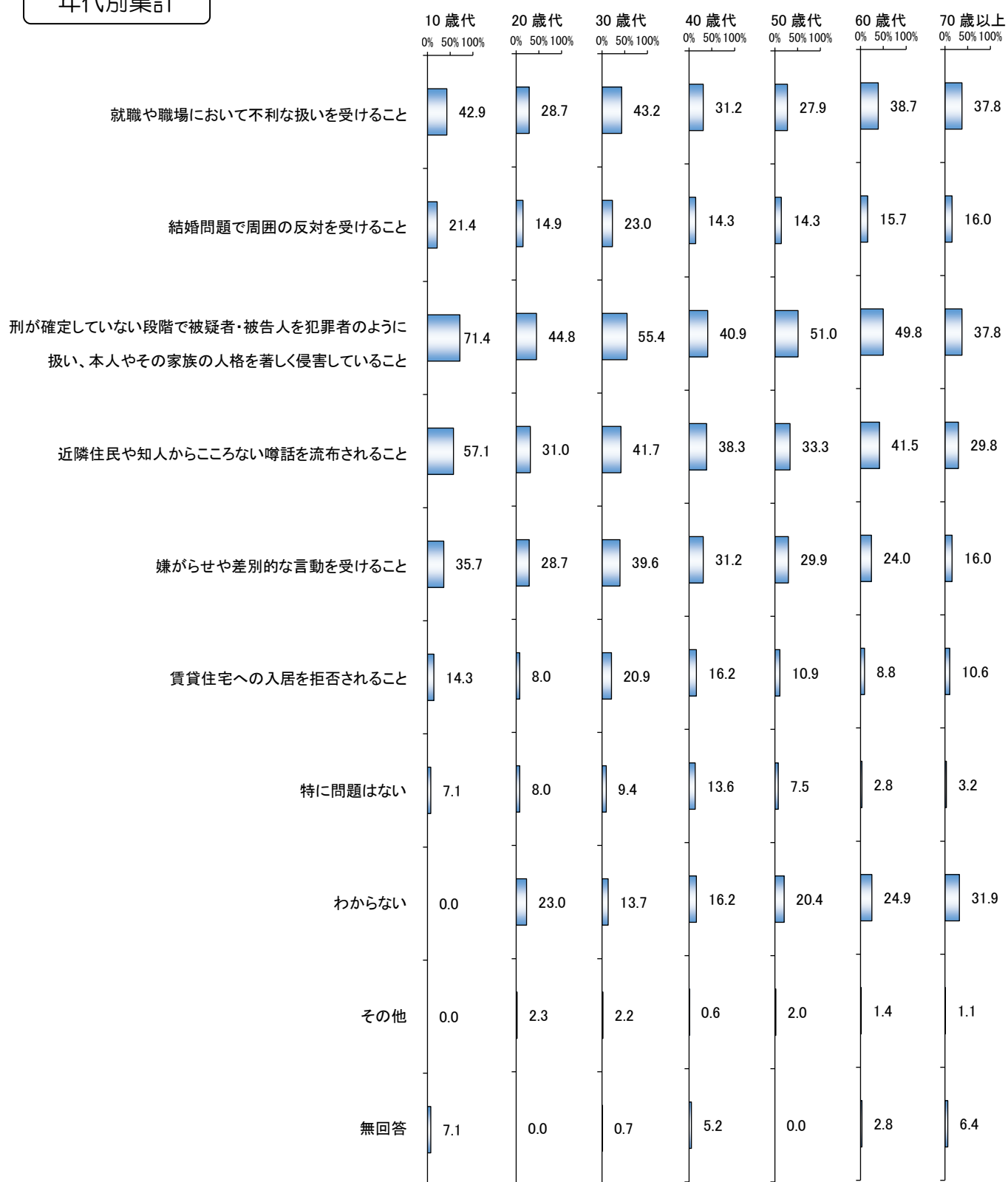


性別で見ると、男女ともに「刑が確定していない段階で被疑者・被告人を犯罪者のように扱い、本人やその家族の人格を著しく侵害していること」の割合が最も高く（男性 47.2%、女性 46.5%）、次いで「近隣住民や知人からこころない噂話を流布されること」（男性 36.6%、女性 38.5%）、「就職や職場において不利な扱いを受けること」（男性 36.4%、女性 37.1%）となっている。

「嫌がらせや差別的な言動を受けること」が最も男女差が大きく、男性（24.7%）よりも女性（30.2%）の方が 5.5 ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位：%)



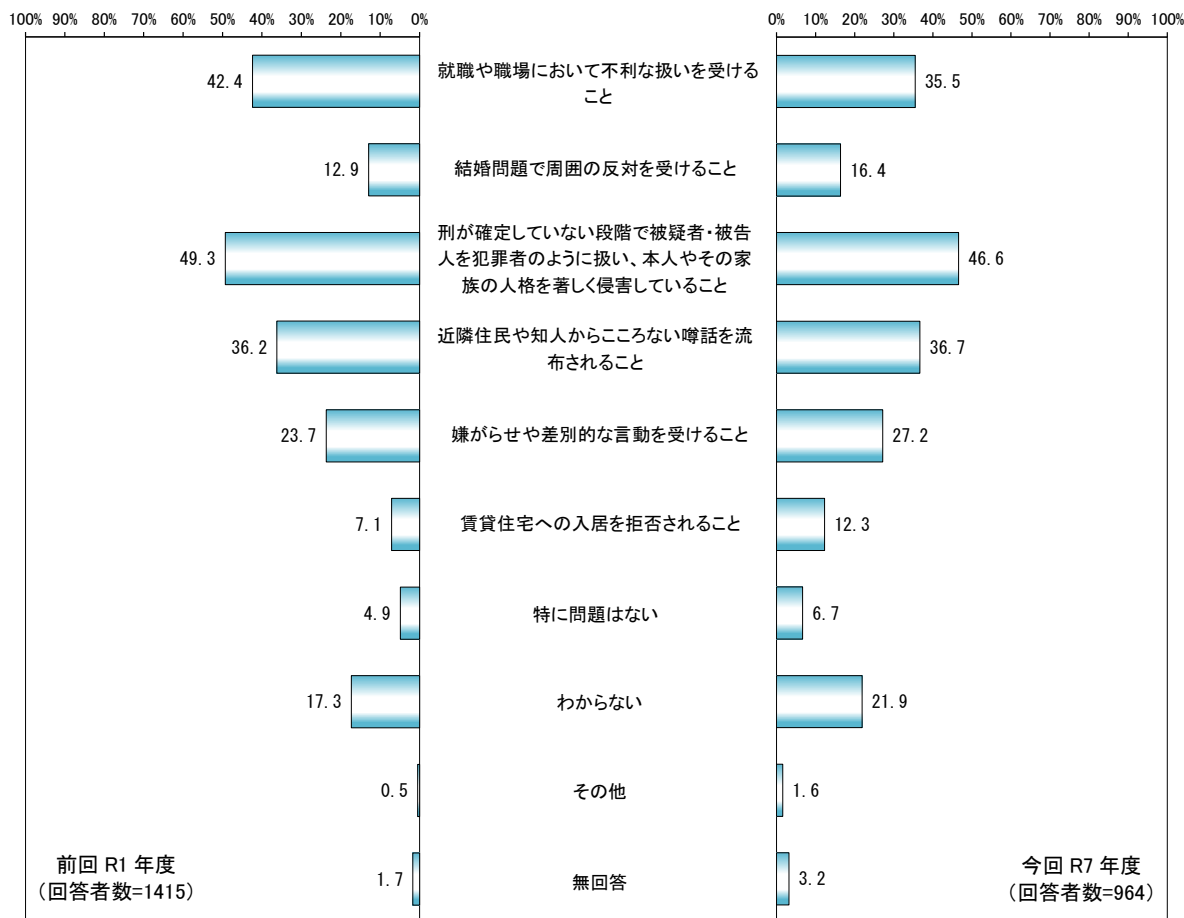
(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別でみると、すべての年代で「刑が確定していない段階で被疑者・被告人を犯罪者のように扱い、本人やその家族の人格を著しく侵害していること」の割合が最も高くなっている。

その他の項目では、10歳代・20歳代、40～60歳代で「近隣住民や知人からこころない噂話を流布されること」、30歳代・70歳以上で「就職や職場において不利な扱いを受けること」の割合が高くなっている。

過去調査との比較

* 前回調査では、本設問は「最大 3 つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



前回調査と同様に、今回の調査においても「刑が確定していない段階で被疑者・被告人を犯罪者のように扱い、本人やその家族の人格を著しく侵害していること」の割合が最も高くなっており、順番は入れ替わったものの、2番目、3番目に割合が高い項目は、前回と同様「近隣住民や知人からこころない噂話を流布されること」、「就職や職場において不利な扱いを受けること」となっている。

前回からの割合の変化を見ると、「賃貸住宅への入居を拒否されること」（5.2ポイント増）、「嫌がらせや差別的な言動を受けること」（3.5ポイント増）などで増加している。

13. インターネット等における人権について

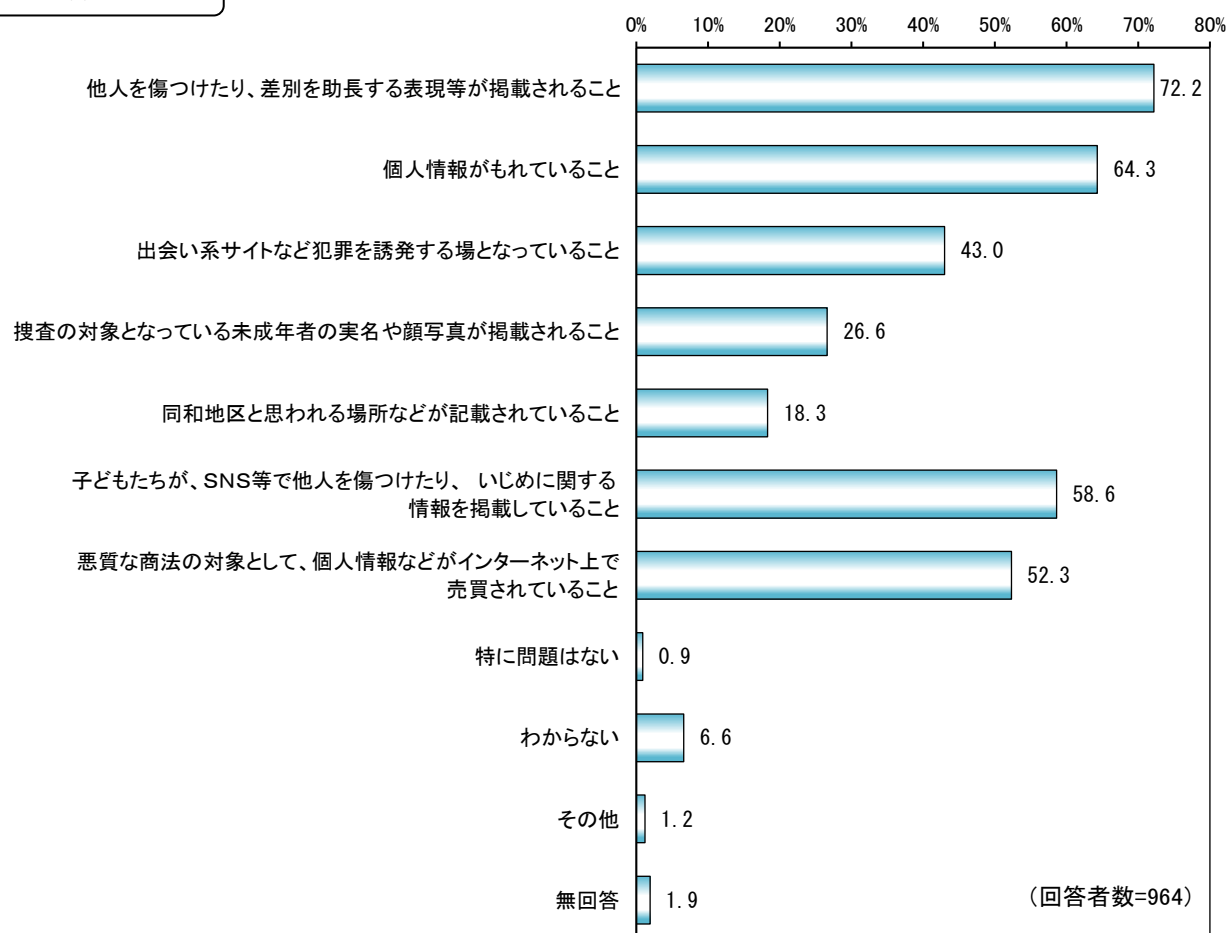
○情報化社会（インターネット等）における人権上の問題点

問 19 あなたは、現在の情報化社会（インターネット等）で、特にどのような人権侵害の問題が起きていると思いますか。次の中から選んでください。（○はいくつでも）

1. 他人を傷つけたり、差別を助長する表現等が掲載されること
2. 個人情報がもれていること
3. 出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること
4. 捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること
5. 同和地区と思われる場所などが記載されていること
6. 子どもたちが、SNS等で他人を傷つけたり、いじめに関する情報を掲載していること
7. 悪質な商法の対象として、個人情報などがインターネット上で売買されていること
8. 特に問題はない
9. わからない
10. その他（ ）

全体集計

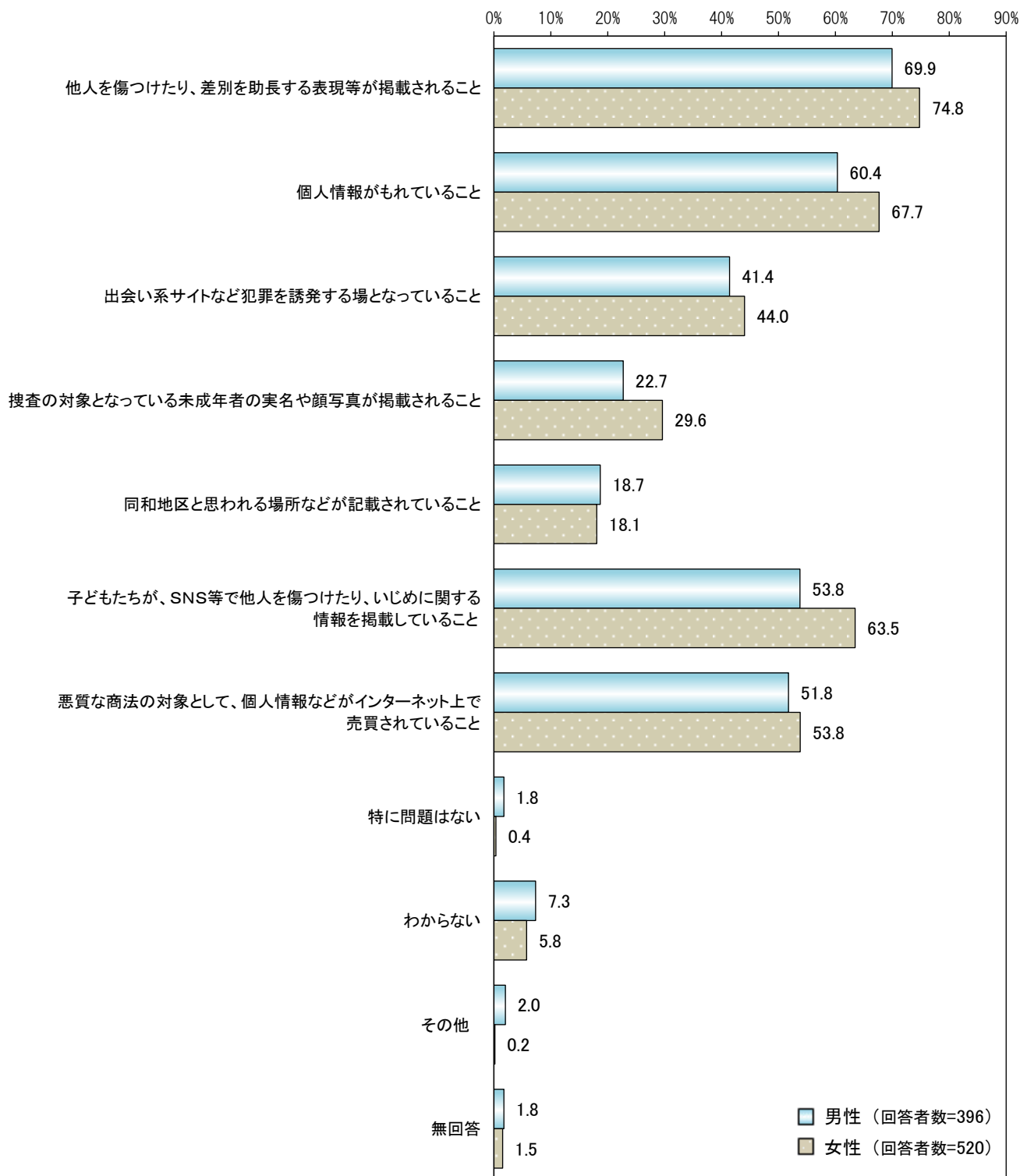
（複数回答、単位：％）



「他人を傷つけたり、差別を助長する表現等が掲載されること」の割合が72.2%と最も高く、次いで「個人情報がもれていること」が64.3%、「子どもたちが、SNS等で他人を傷つけたり、いじめに関する情報を掲載していること」が58.6%となっている。

性別集計

(複数回答、単位：%)

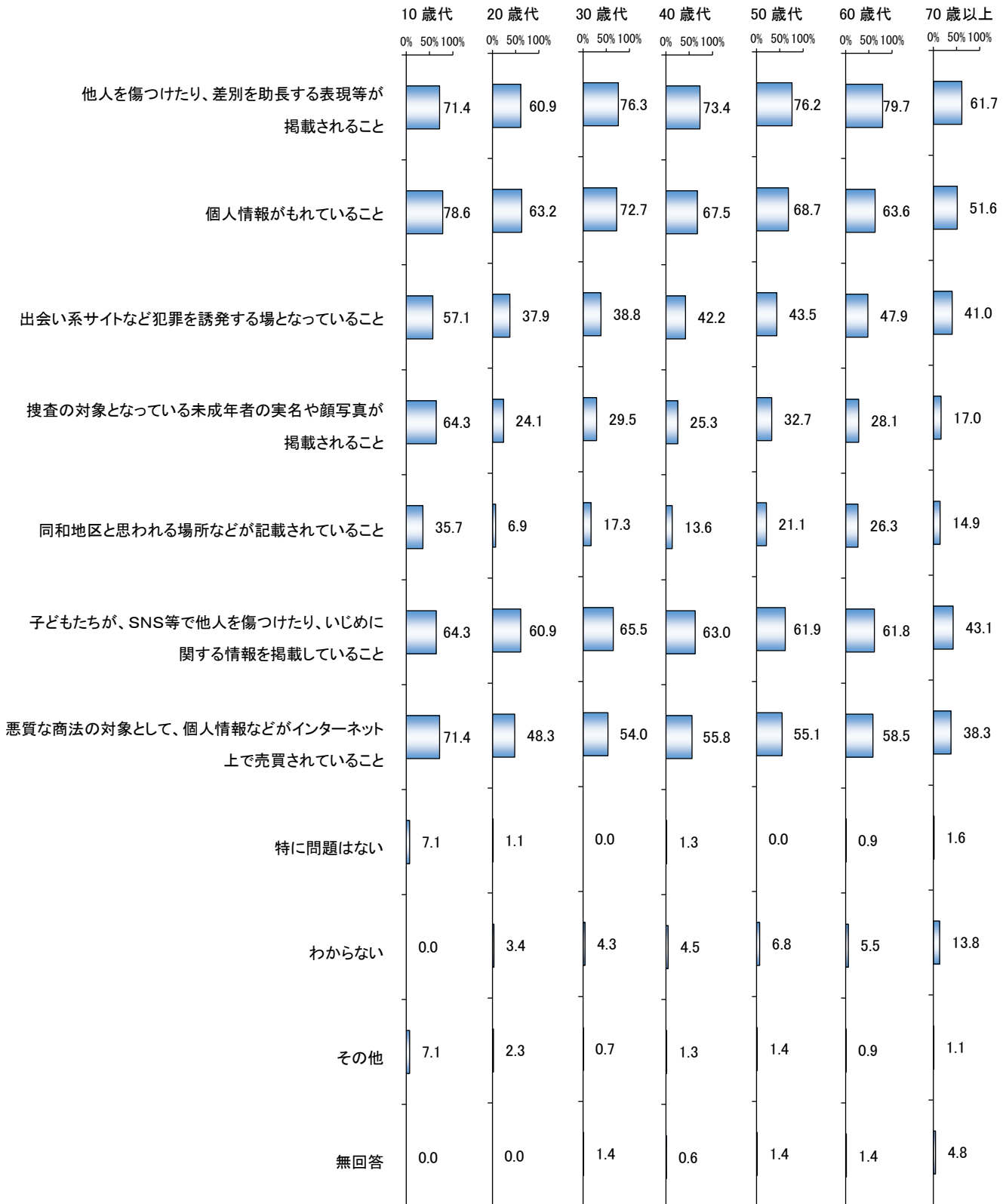


性別でみると、男女ともに「他人を傷つけたり、差別を助長する表現等が掲載されること」の割合が最も高く（男性 69.9%、女性 74.8%）、次いで「個人情報もれていること」（男性 60.4%、女性 67.7%）、「子どもたちが、SNS等で他人を傷つけたり、いじめに関する情報を掲載していること」（男性 53.8%、女性 63.5%）となっている。

「子どもたちが、SNS等で他人を傷つけたり、いじめに関する情報を掲載していること」が最も男女差が大きく、男性（53.8%）よりも女性（63.5%）の方が9.7ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位：%)



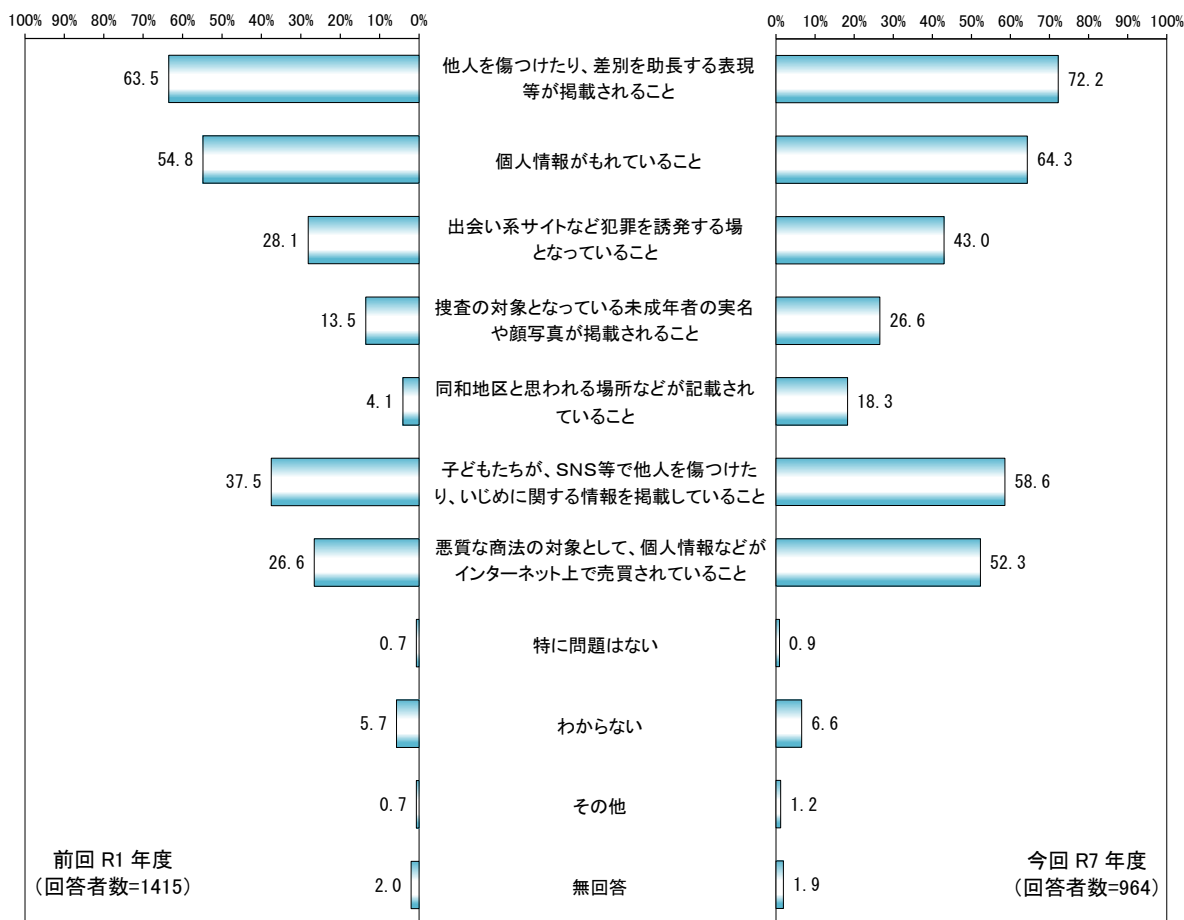
(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別で見ると、10・20歳代は「個人情報もれていること」、30歳以上は「他人を傷つけたり、差別を助長する表現等が掲載されること」の割合が最も高くなっている。

その他の項目では、すべての年代で「子どもたちが、SNS等で他人を傷つけたり、いじめに関する情報を掲載していること」の割合が高くなっている。

過去調査との比較

* 前回調査では、本設問は「最大 3 つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



前回調査と同様に、今回の調査においても「他人を傷つけたり、差別を助長する表現等が掲載されること」の割合が最も高くなっており、2番目、3番目に割合が高い項目についても、前回と同様「個人情報がもれていること」、「子どもたちが、SNS等で他人を傷つけたり、いじめに関する情報を掲載していること」となっている。

前回からの割合の変化を見ると、「悪質な商法の対象として、個人情報などがインターネット上で売買されていること」（25.7ポイント増）、「子どもたちが、SNS等で他人を傷つけたり、いじめに関する情報を掲載していること」（21.1ポイント増）などで大幅に増加している。

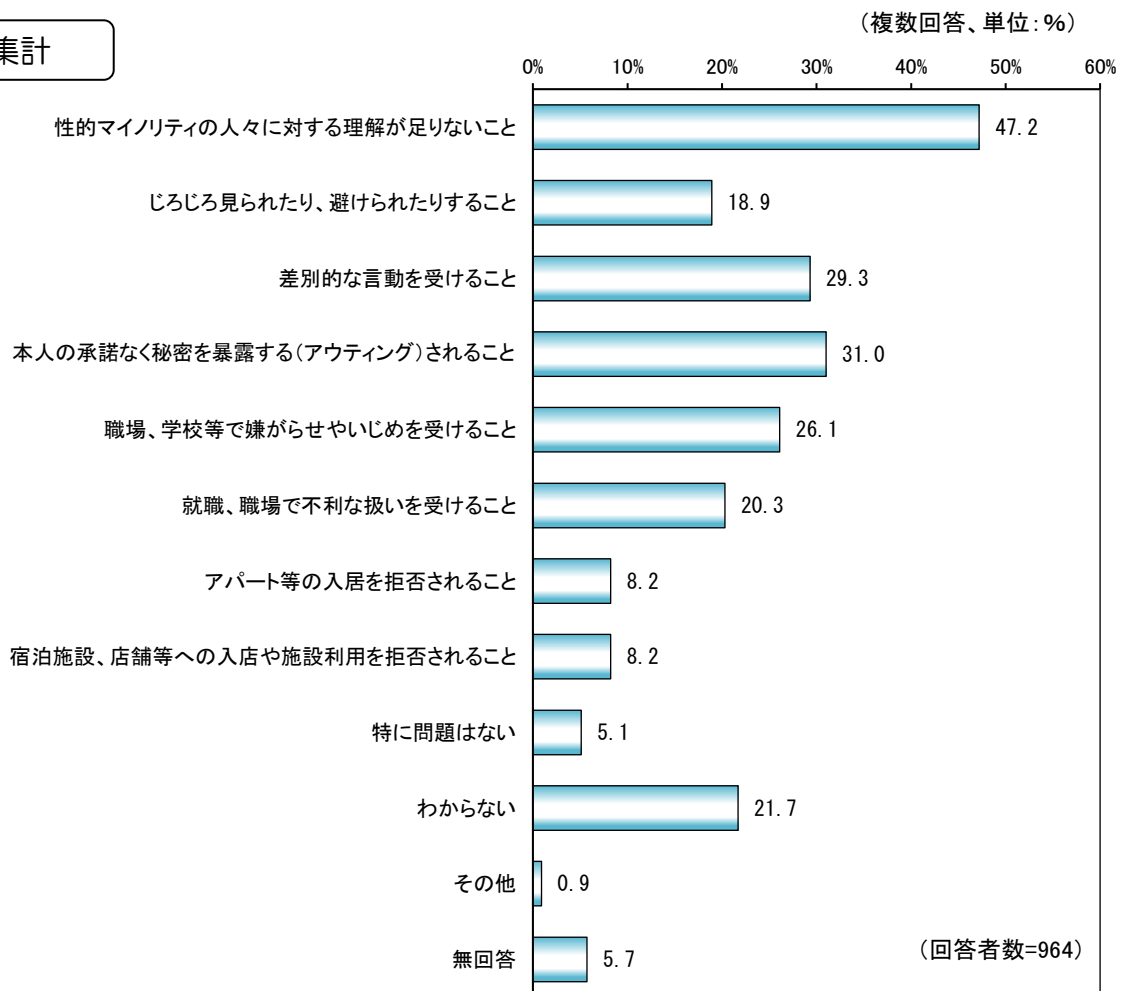
14. 性的マイノリティの人の人権について

○性的マイノリティの人に関する人権上の問題点

問 20 あなたは、性的マイノリティの人に、どのような人権問題が起きていると思いますか。
次の中から選んでください。(○はいくつでも)

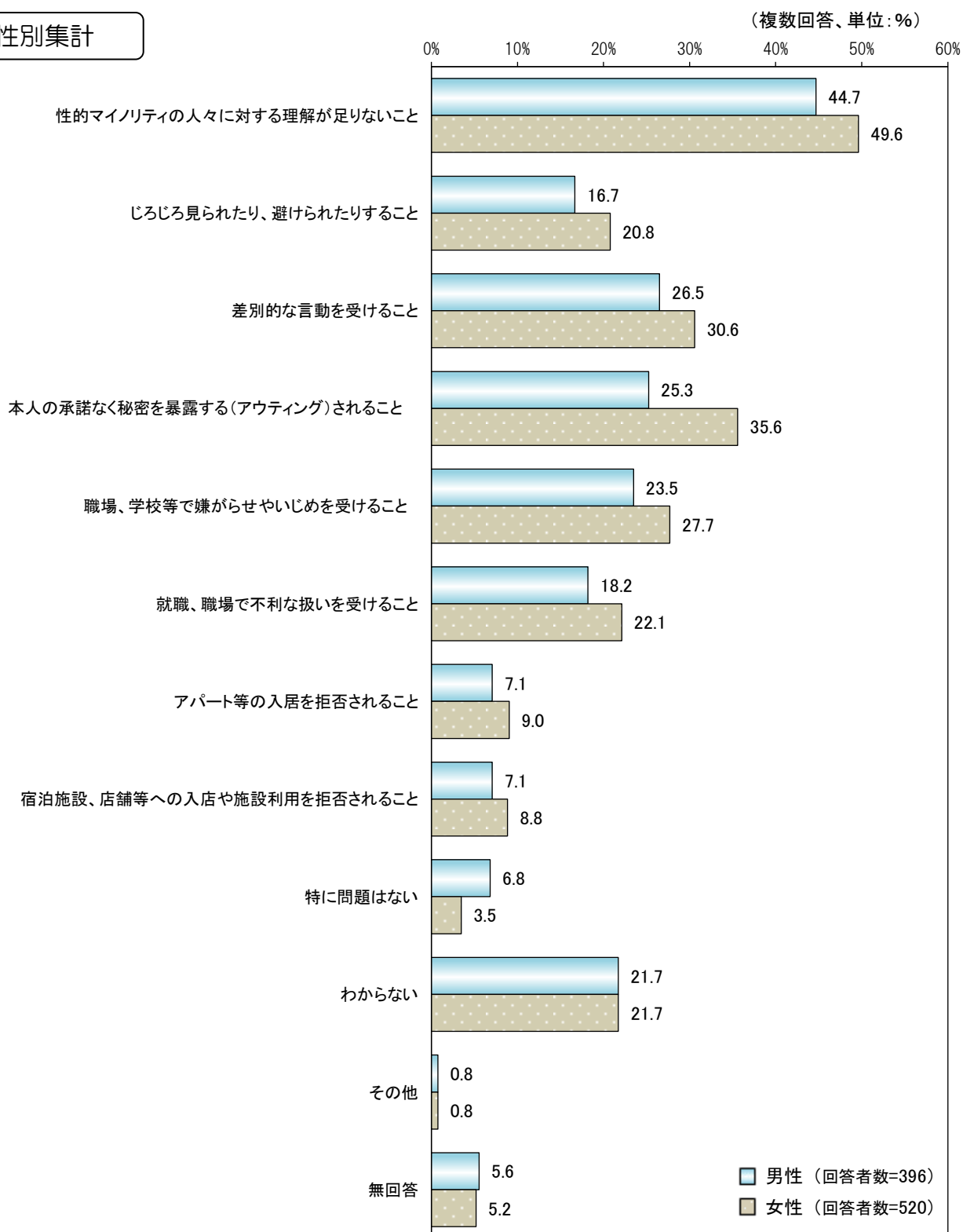
1. 性的マイノリティの人々に対する理解が足りないこと
2. じろじろ見られたり、避けられたりすること
3. 差別的な言動を受けること
4. 本人の承諾なく秘密を暴露する(アウティング)されること
5. 職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること
6. 就職、職場で不利な扱いを受けること
7. アパート等の入居を拒否されること
8. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること
9. 特に問題はない
10. わからない
11. その他()

全体集計



「性的マイノリティの人々に対する理解が足りないこと」の割合が 47.2%と最も高く、次いで「本人の承諾なく秘密を暴露する(アウティング)されること」が 31.0%、「差別的な言動を受けること」が 29.3%となっている。

性別集計

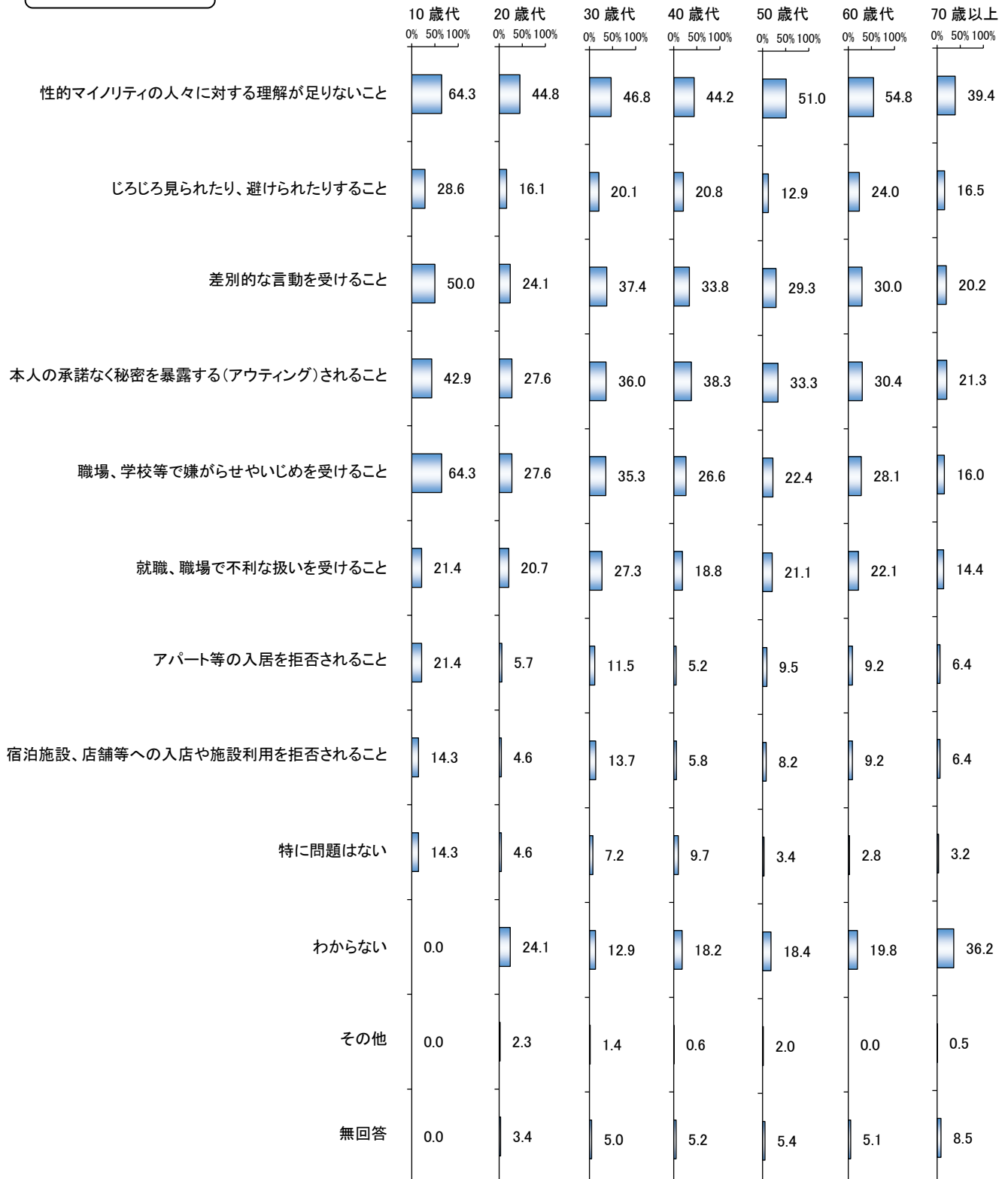


性別でみると、男女ともに「性的マイノリティの人々に対する理解が足りないこと」の割合が最も高く（男性 44.7%、女性 49.6%）、次いで男性は「差別的な言動を受けること」（26.5%）、「本人の承諾なく秘密を暴露する（アウトティング）されること」（25.3%）、女性は「本人の承諾なく秘密を暴露する（アウトティング）されること」（35.6%）、「差別的な言動を受けること」（30.6%）の割合が高くなっている。

「本人の承諾なく秘密を暴露する（アウトティング）されること」が最も男女差が大きく、男性（25.3%）よりも女性（35.6%）の方が 10.3 ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位:%)



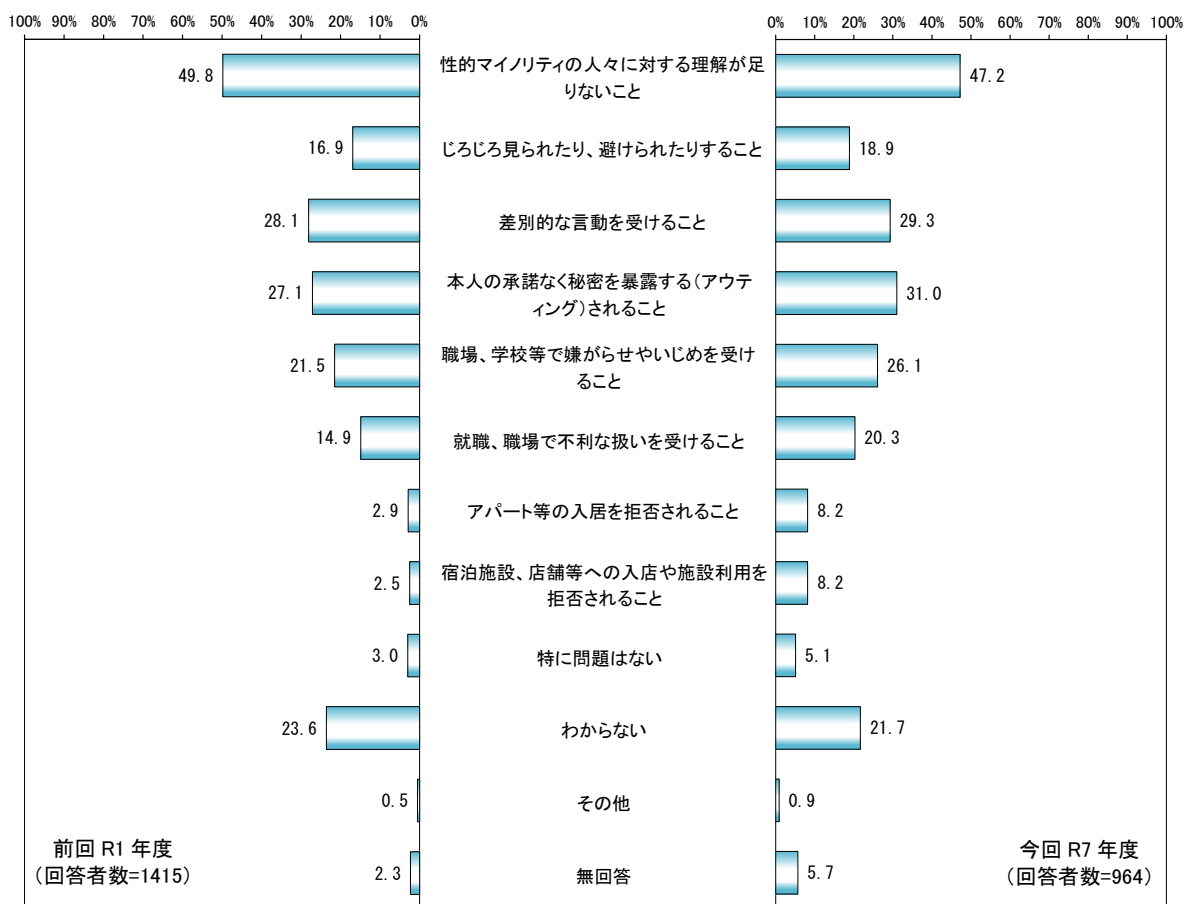
(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別でみると、すべての年代で「性的マイノリティの人々に対する理解が足りないこと」の割合が最も高くなっている。

その他の項目では、20 歳代・40 歳代～60 歳代で「本人の承諾なく秘密を暴露する（アウトティング）されること」、10・20 歳代で「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」、30 歳代で「差別的な言動を受けること」（37.4%）、70 歳以上で「わからない」（36.2%）の割合が多くなっている。

過去調査との比較

* 前回調査では、本設問は「最大 3 つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



前回調査と同様に、今回の調査においても「性的マイノリティの人々に対する理解が足りないこと」の割合が最も高くなっており、2番目、3番目に割合が高い項目についても、順位に変動はあるものの、前回と同様「本人の承諾なく秘密を暴露する（アウティング）されること」、「差別的な言動を受けること」となっている。

前回からの割合の変化を見ると、「就職、職場で不利な扱いを受けること」（5.4ポイント増）、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」（4.6ポイント増）などで増加している。

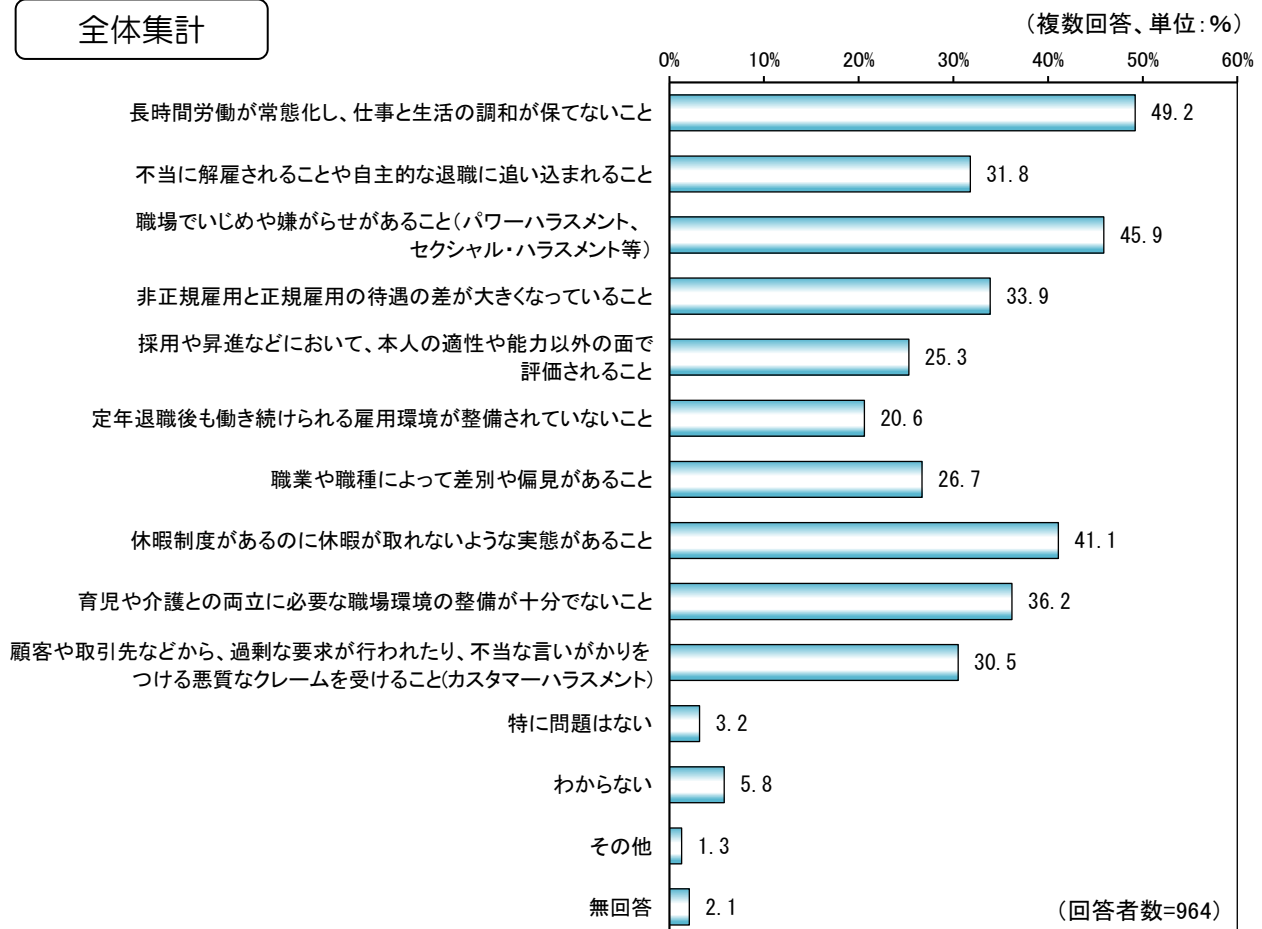
15. 働く人の人権について

○働く人に関する人権上の問題点

問 21 あなたは、働く人に関することがらで、特にどのようなことが問題だと思えますか。
次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. 長時間労働が常態化し、仕事と生活の調和が保てないこと
2. 不当に解雇されることや自主的な退職に追い込まれること
3. 職場でいじめや嫌がらせがあること (パワーハラスメント、セクシャル・ハラスメント等)
4. 非正規雇用と正規雇用の待遇の差が大きくなっていること
5. 採用や昇進などにおいて、本人の適性や能力以外の面で評価されること
6. 定年退職後も働き続けられる雇用環境が整備されていないこと
7. 職業や職種によって差別や偏見があること
8. 休暇制度があるのに休暇が取れないような実態があること
9. 育児や介護との両立に必要な職場環境の整備が十分でないこと
10. 顧客や取引先などから、過剰な要求が行われたり、不当な言いがかりをつける悪質なクレームを受けること (カスタマーハラスメント)
11. 特に問題はない
12. わからない
13. その他 ()

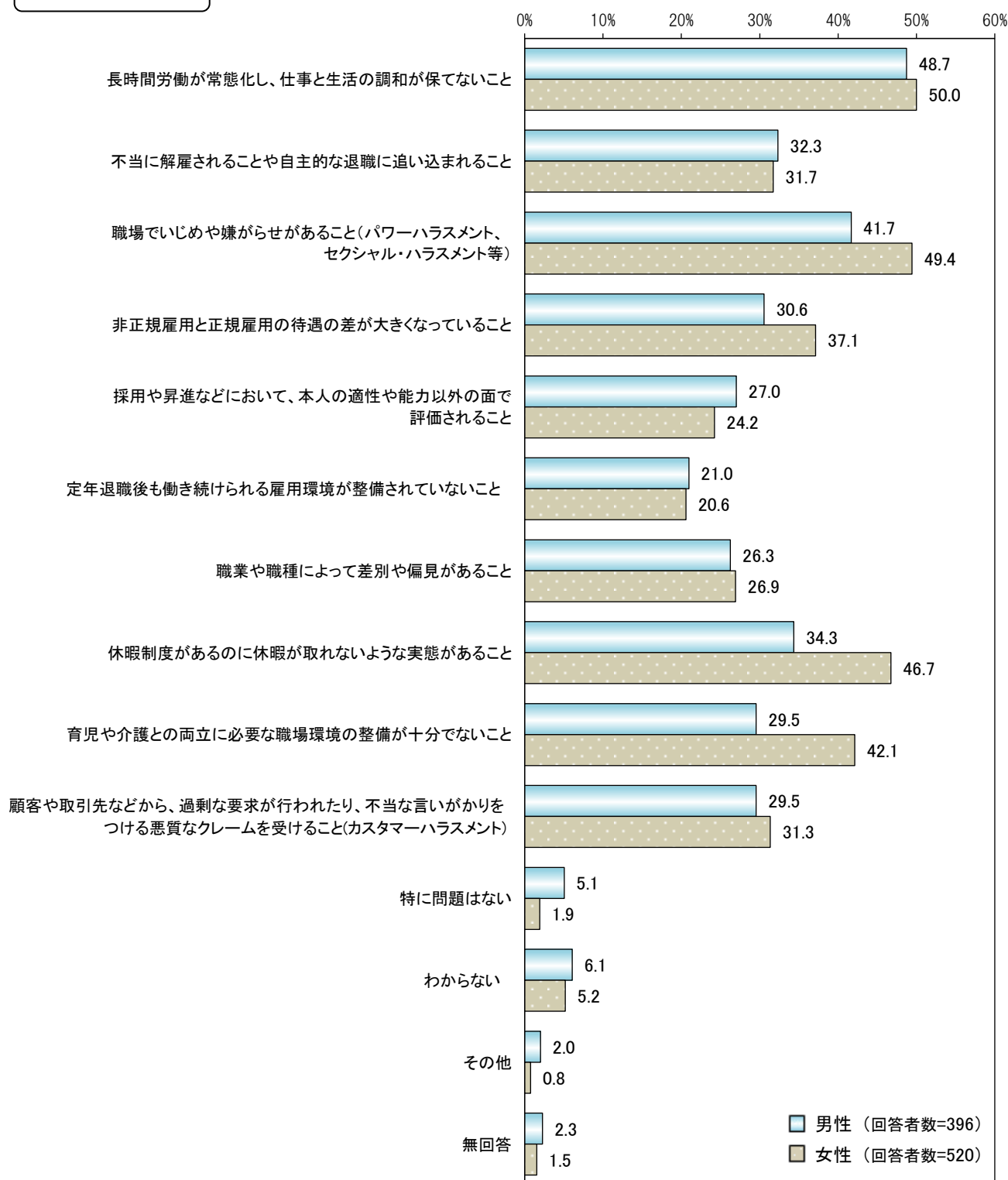
全体集計



「長時間労働が常態化し、仕事と生活の調和が保てないこと」の割合が49.2%と最も高く、次いで「職場でいじめや嫌がらせがあること (パワーハラスメント、セクシャル・ハラスメント等)」が45.9%、「休暇制度があるのに休暇が取れないような実態があること」が41.1%となっている。

性別集計

(複数回答、単位：%)

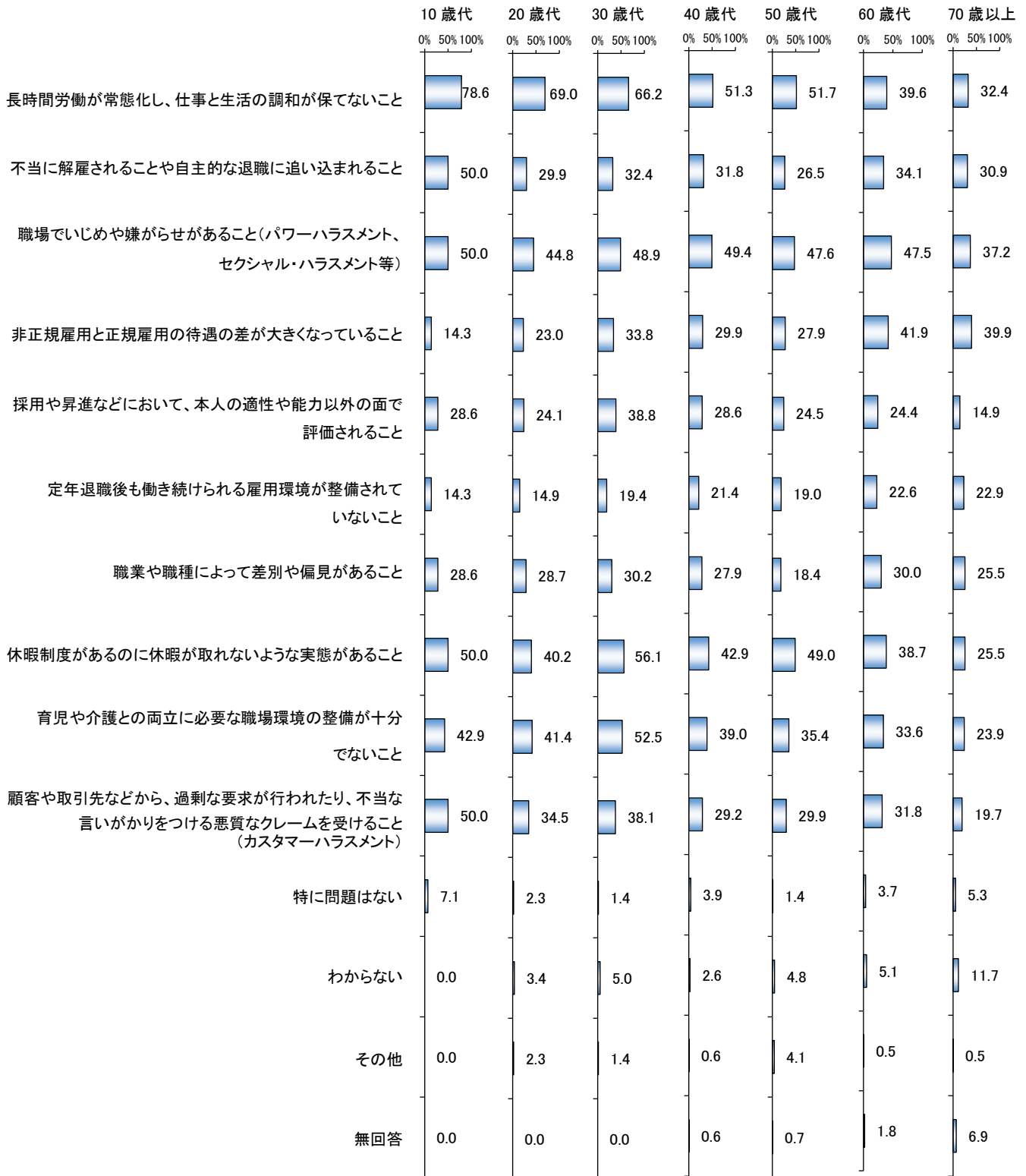


性別でみると、男女ともに「長時間労働が常態化し、仕事と生活の調和が保てないこと」の割合が最も高く（男性は48.7%、女性は50.0%）、次いで「職場でいじめや嫌がらせがあること（パワー・ハラスメント、セクシャル・ハラスメント等）」（男性は41.7%、女性は49.4%）、「休暇制度があるのに休暇が取れないような実態があること」（男性は34.3%、女性は46.7%）となっている。

「育児や介護との両立に必要な職場環境の整備が十分でないこと」が最も男女差が大きく、男性（29.5%）よりも女性（42.1%）の方が12.6ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位：%)



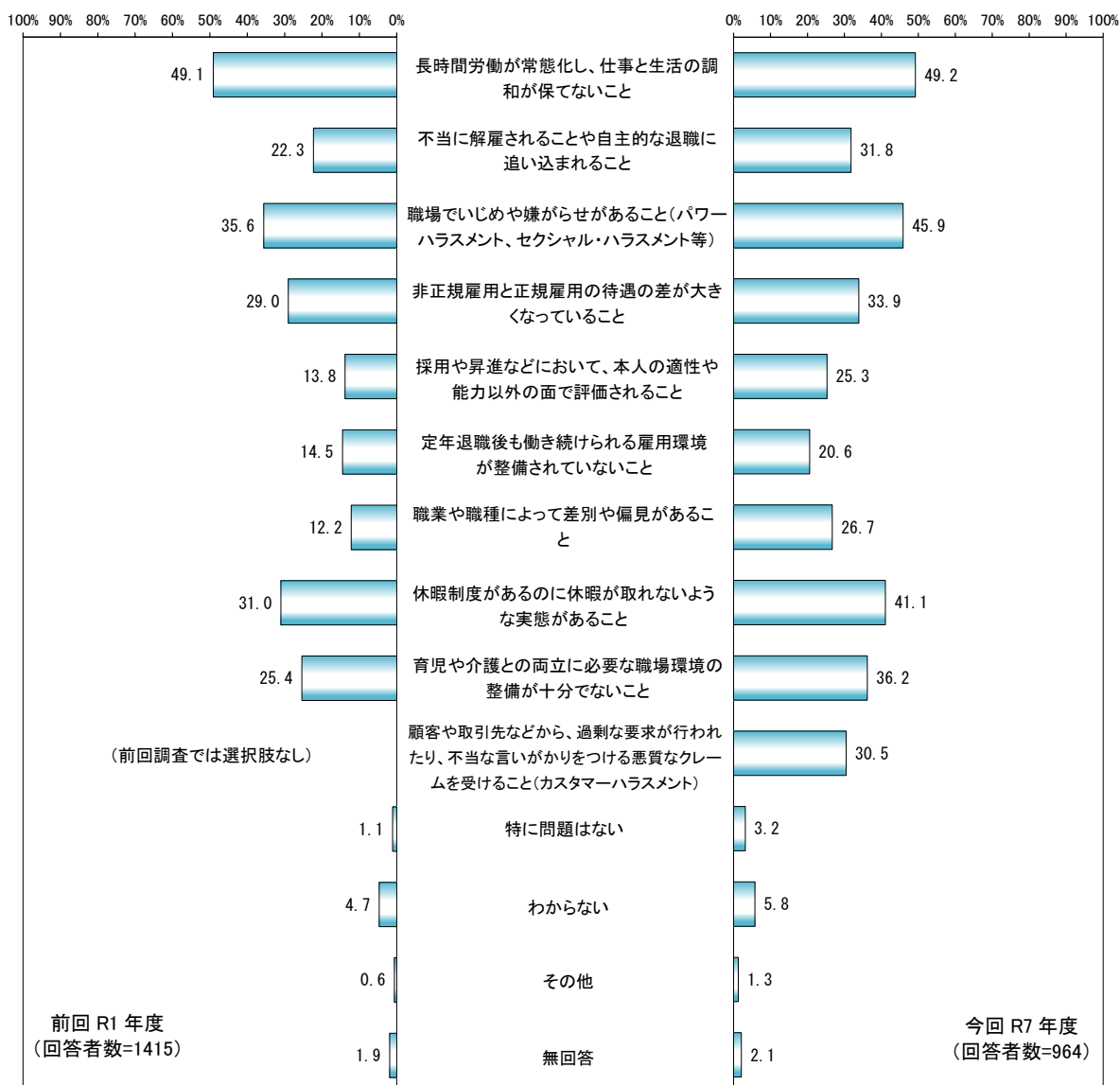
(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別でみると、10～50 歳代は「長時間労働が常態化し、仕事と生活の調和が保てないこと」、60 歳代は「職場でいじめや嫌がらせがあること（パワー・ハラスメント、セクシャル・ハラスメント等）」、70 歳以上は「非正規雇用と正規雇用の待遇の差が大きくなっていること」の割合が最も高くなっている。

その他の項目では、30 歳代・50 歳代で「休暇制度があるのに休暇が取れないような実態があること」の割合が高くなっている。

過去調査との比較

* 前回調査では、本設問は「最大 3 つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



前回調査と同様に、今回の調査においても「長時間労働が常態化し、仕事と生活の調和が保てないこと」の割合が最も高くなっており、2 番目、3 番目に割合が高い項目についても、前回と同様「職場でいじめや嫌がらせがあること（パワーハラスメント、セクシャル・ハラスメント等）」、「休暇制度があるのに休暇が取れないような実態があること」となっている。

前回からの割合の変化を見ると、「職業や職種によって差別や偏見があること」（14.5 ポイント増）、「採用や昇進などにおいて、本人の適性や能力以外の面で評価されること」（11.5 ポイント増）、「育児や介護との両立に必要な職場環境の整備が十分でないこと」（10.8 ポイント増）、「職場でいじめや嫌がらせがあること（パワーハラスメント、セクシャル・ハラスメント等）」（10.3 ポイント増）、「休暇制度があるのに休暇が取れないような実態があること」（10.1 ポイント増）において、10 ポイント以上増加している。

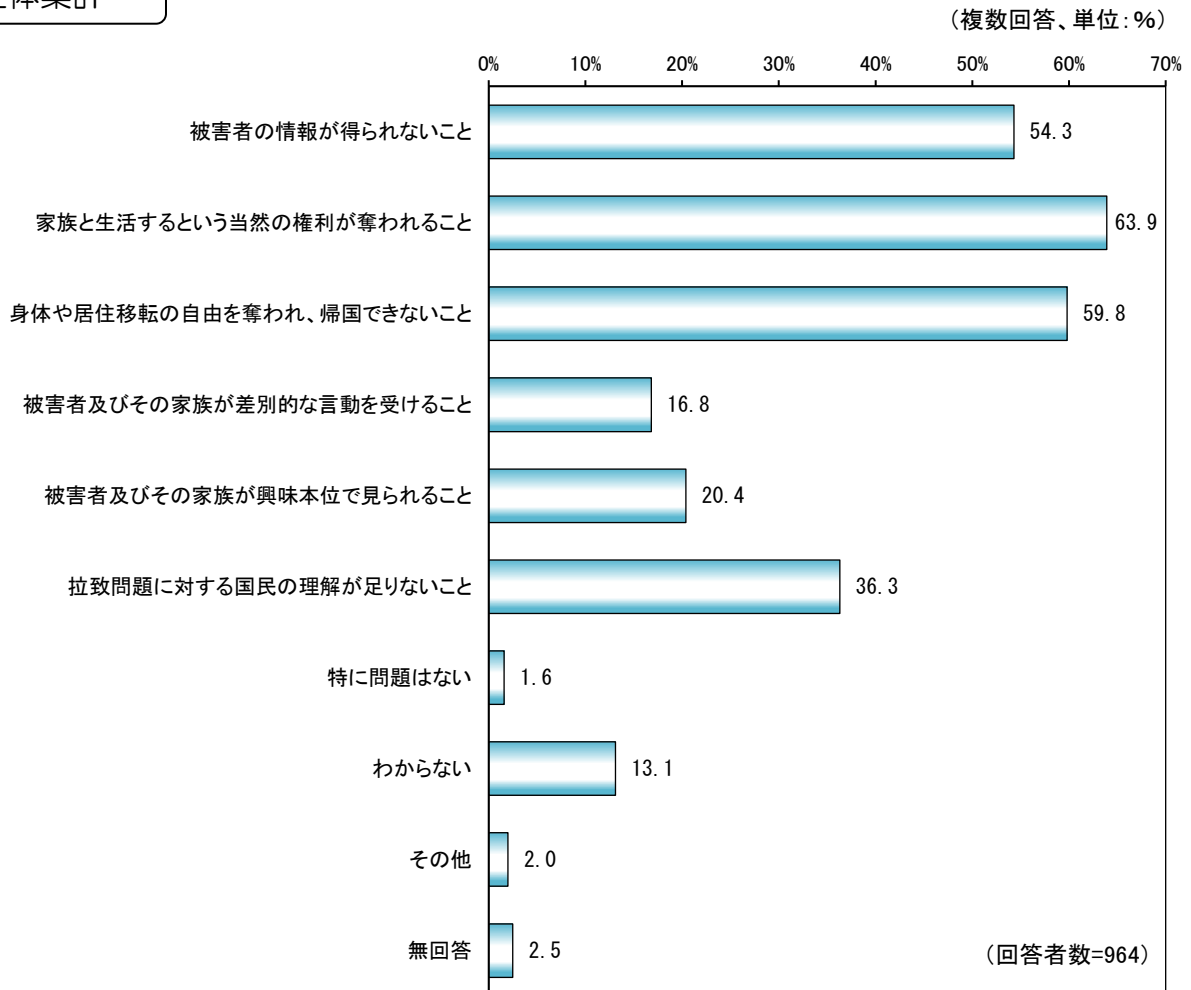
16. 拉致問題について

○拉致問題に関する人権上の問題点

問 22 あなたは、北朝鮮当局による日本人拉致問題について、特にどのようなことが問題だと思いますか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. 被害者の情報が得られないこと
2. 家族と生活するという当然の権利が奪われること
3. 身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと
4. 被害者及びその家族が差別的な言動を受けること
5. 被害者及びその家族が興味本位で見られること
6. 拉致問題に対する国民の理解が足りないこと
7. 特に問題はない
8. わからない
9. その他 ()

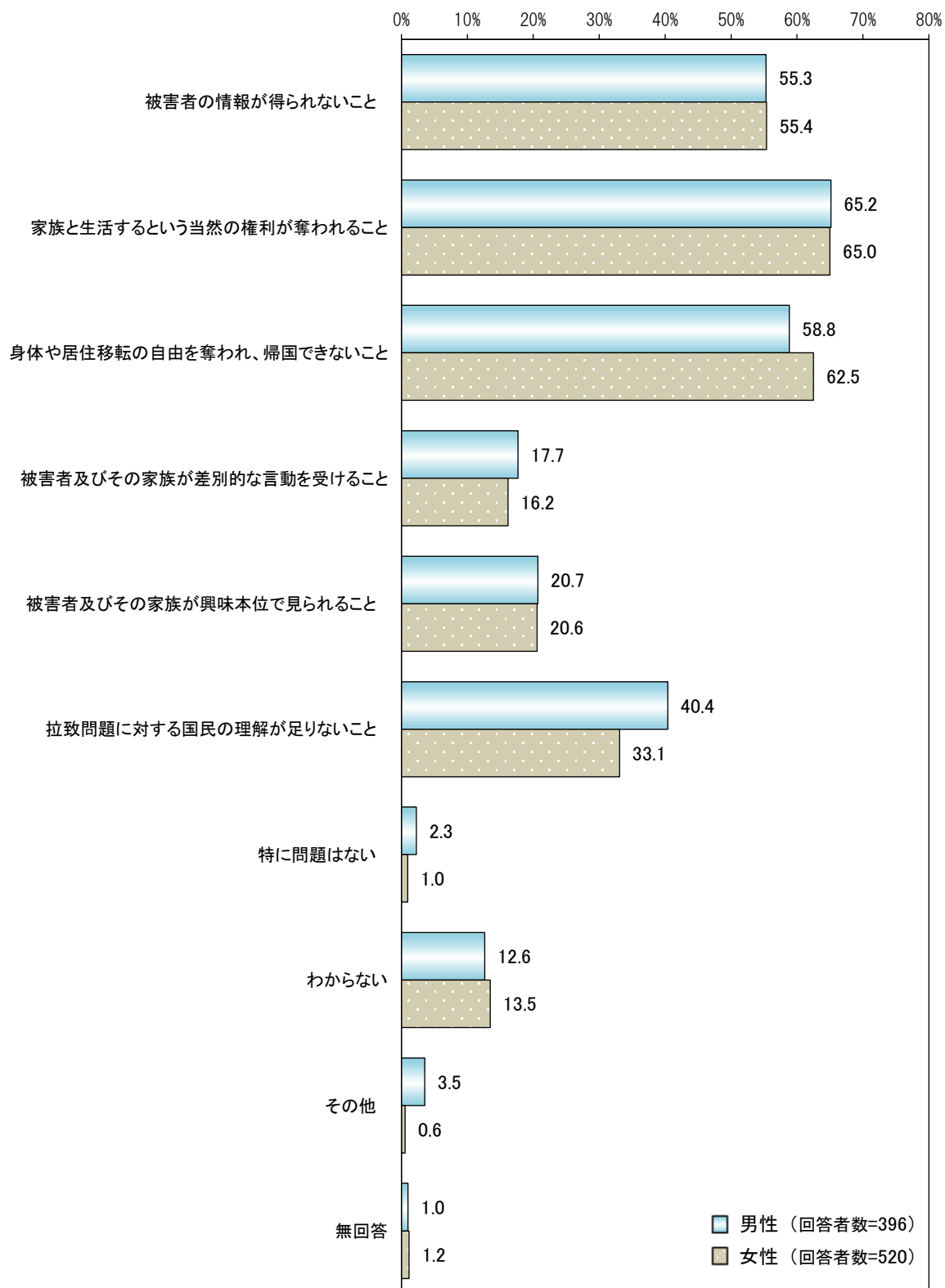
全体集計



「家族と生活するという当然の権利が奪われること」の割合が 63.9%と最も高く、次いで「身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと」が 59.8%、「被害者の情報が得られないこと」が 54.3%となっている。

性別集計

(複数回答、単位：%)

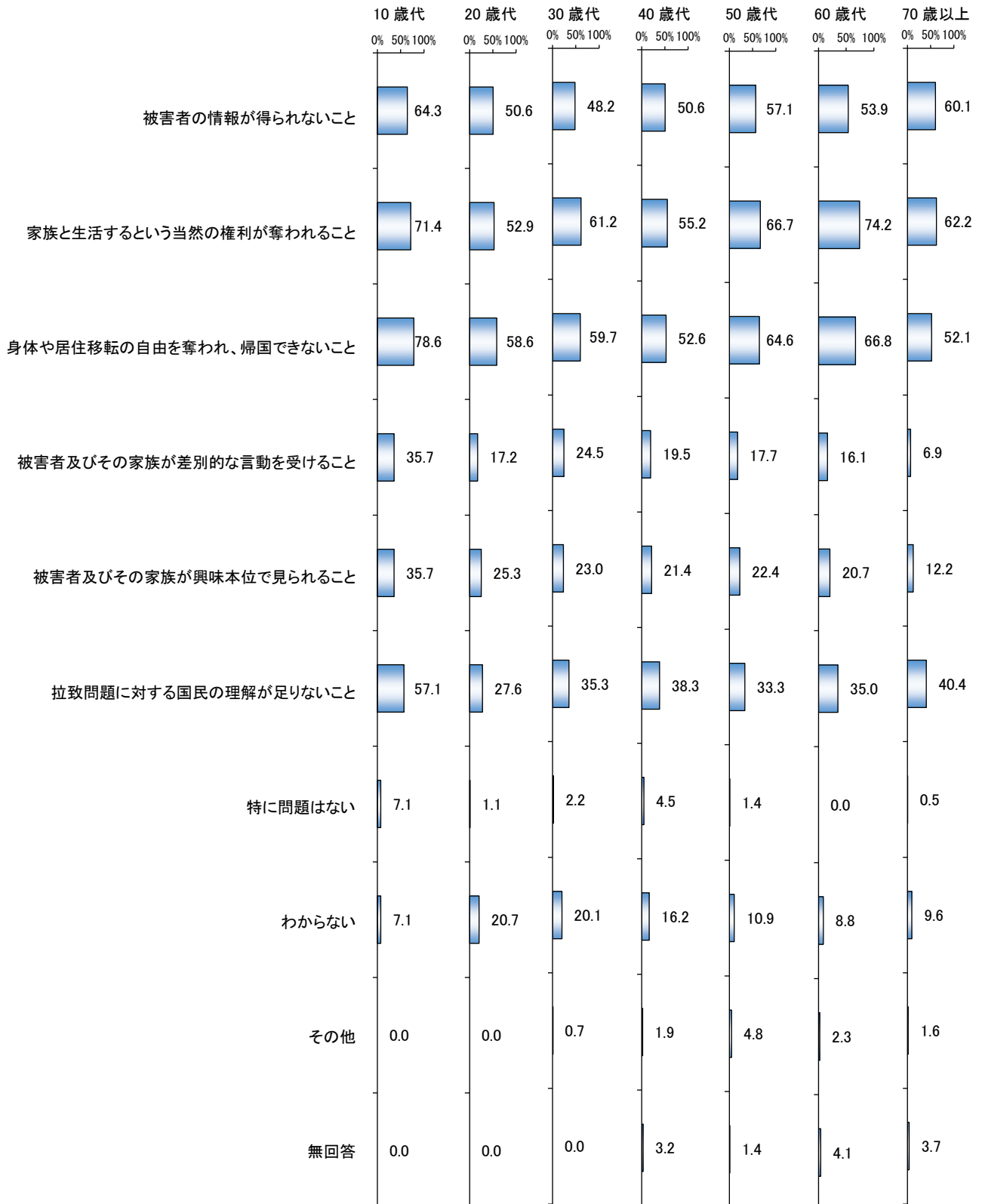


性別でみると、男女ともに「家族と生活するという当然の権利が奪われること」の割合が最も高く（男性は 65.2%、女性は 65.0%）、次いで「身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと」（男性は 58.8%、女性は 62.5%）、「被害者の情報が得られないこと」（男性は 55.3%、女性は 55.4%）となっている。

「拉致問題に対する国民の理解が足りないこと」が最も男女差が大きく、女性（33.1%）よりも男性（40.4%）の方が 7.3 ポイント高くなっている。

年代別集計

(複数回答、単位：%)



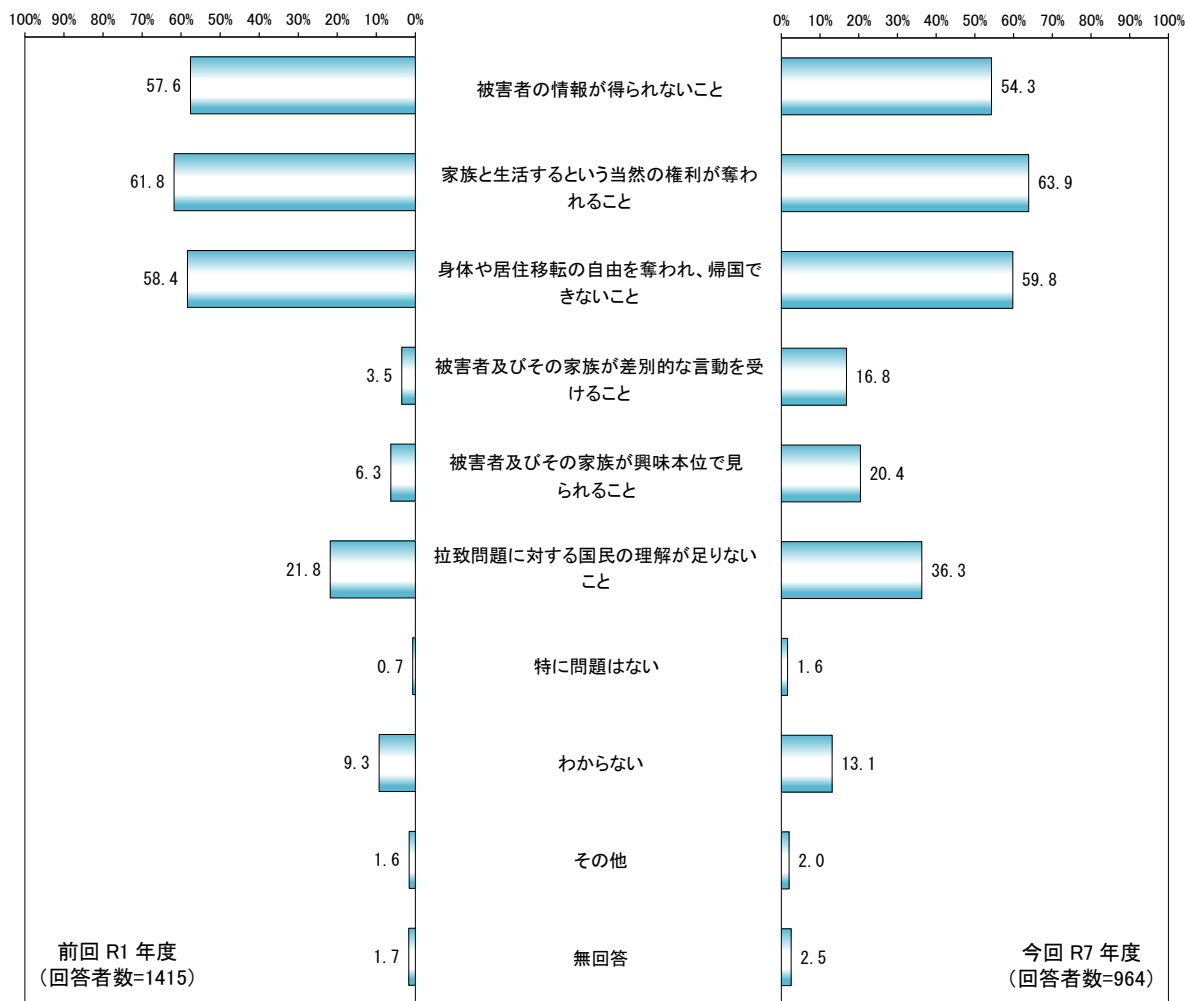
(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別でみると、10・20歳代は「身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと」、30歳以上は「家族と生活するという当然の権利が奪われること」の割合が最も高くなっている。

その他の項目では、すべての年代で「被害者の情報が得られないこと」の割合が高くなっている。

過去調査との比較

* 前回調査では、本設問は「最大 3 つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



前回調査と同様に、今回の調査においても「家族と生活するという当然の権利が奪われること」の割合が最も高くなっており、2 番目、3 番目に割合が高い項目についても、前回と同様「身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと」、「被害者の情報が得られないこと」となっている。

前回からの割合の変化を見ると、「拉致問題に対する国民の理解が足りないこと」（14.5 ポイント増）、「被害者及びその家族が興味本位で見られること」（14.1 ポイント増）、「被害者及びその家族が差別的な言動を受けること」（13.3 ポイント増）において、10 ポイント以上増加している。

17. さまざまな人権問題について

○ホームレス、自死（自殺）、プライバシーの保護に関する人権上の問題点

問 23 あなたは、ホームレスの人権・自死(自殺)に関わる人権・プライバシーの保護に関することがらについて、特にどのようなことが問題だと思いますか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

【問 23-1】 ホームレスの人権に関する問題

1. 周囲の人から嫌がらせや暴力を受けること
2. 差別的な言動をされること
3. 経済的に自立が困難なこと
4. その他 ()

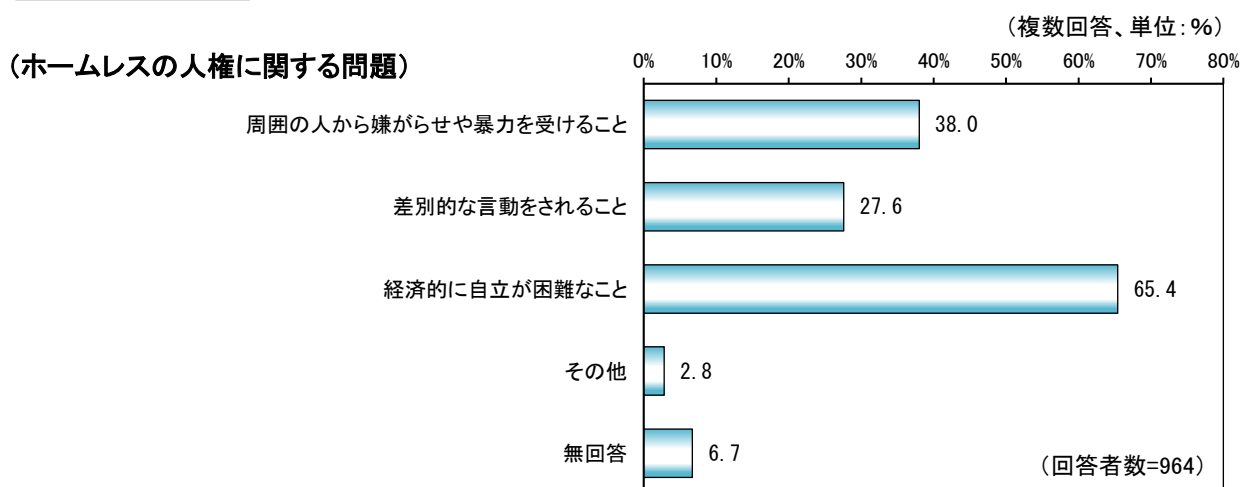
【問 23-2】 自死(自殺)に関わる人権に関する問題

1. 相談できる人や機関が少ないこと
2. 自死(自殺)・自死遺族に対する理解や認識が十分でないこと
3. マスコミによる過剰な取材や報道
4. その他 ()

【問 23-3】 プライバシーの保護に関する問題

1. ダイレクトメールが届いたり、訪問や電話による勧誘を受けること
2. インターネットの掲示板への書き込みや電子メールの書き込み
3. 自分に関する情報が知らないうちに集められ、管理されること
4. その他 ()

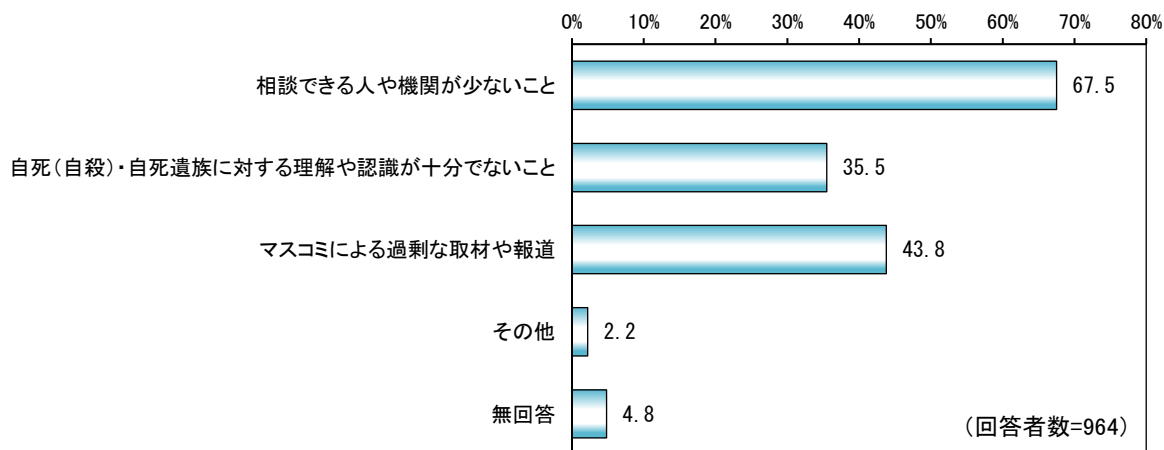
全体集計



「経済的に自立が困難なこと」の割合が 65.4%と最も高く、次いで「周囲の人から嫌がらせや暴力を受けること」が 38.0%、「差別的な言動をされること」が 27.6%となっている。

(自死(自殺)に関わる人権に関する問題)

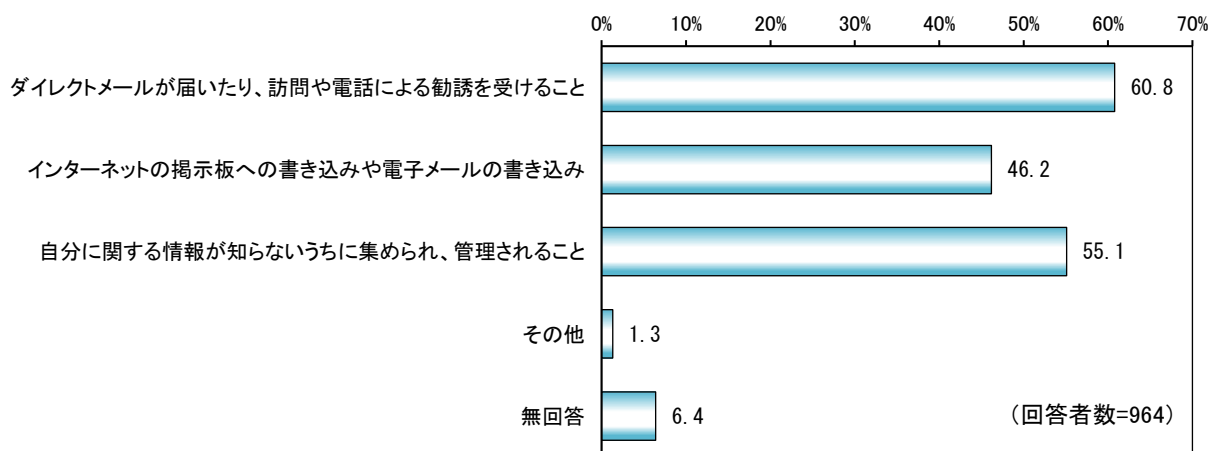
(複数回答、単位：%)



「相談できる人や機関が少ないこと」の割合が 67.5%と最も高く、次いで「マスコミによる過剰な取材や報道」が 43.8%、「自死(自殺)・自死遺族に対する理解や認識が十分でないこと」が 35.5%となっている。

(プライバシーの保護に関する問題)

(複数回答、単位：%)



「ダイレクトメールが届いたり、訪問や電話による勧誘を受けること」の割合が 60.8%と最も高く、次いで「自分に関する情報が知らないうちに集められ、管理されること」が 55.1%、「インターネットの掲示板への書き込みや電子メールの書き込み」が 46.2%となっている。

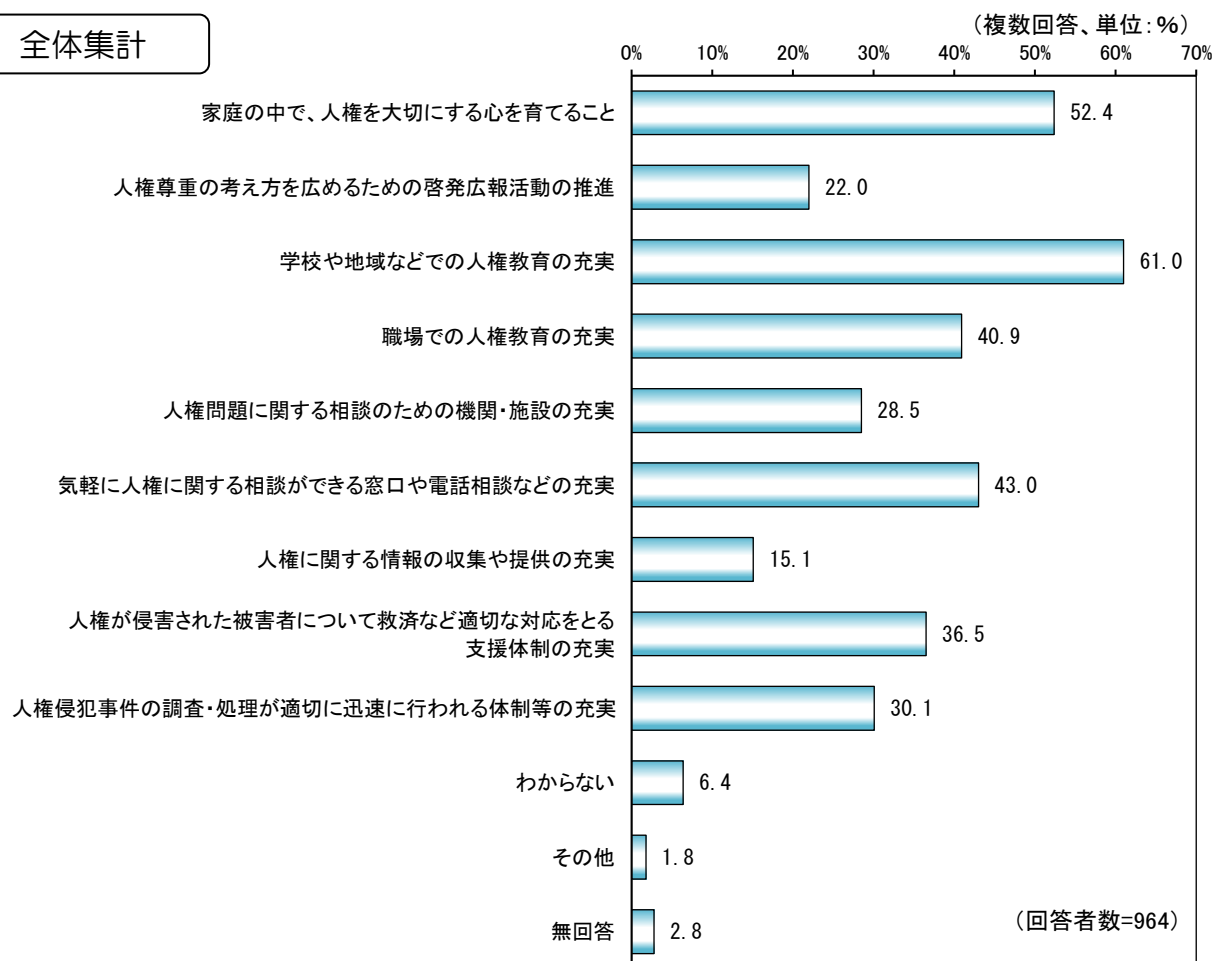
18. 今後の取組について

○人権が尊重される社会を実現するための方策

問 24 「人権」が尊重される社会を実現するためには、今後、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

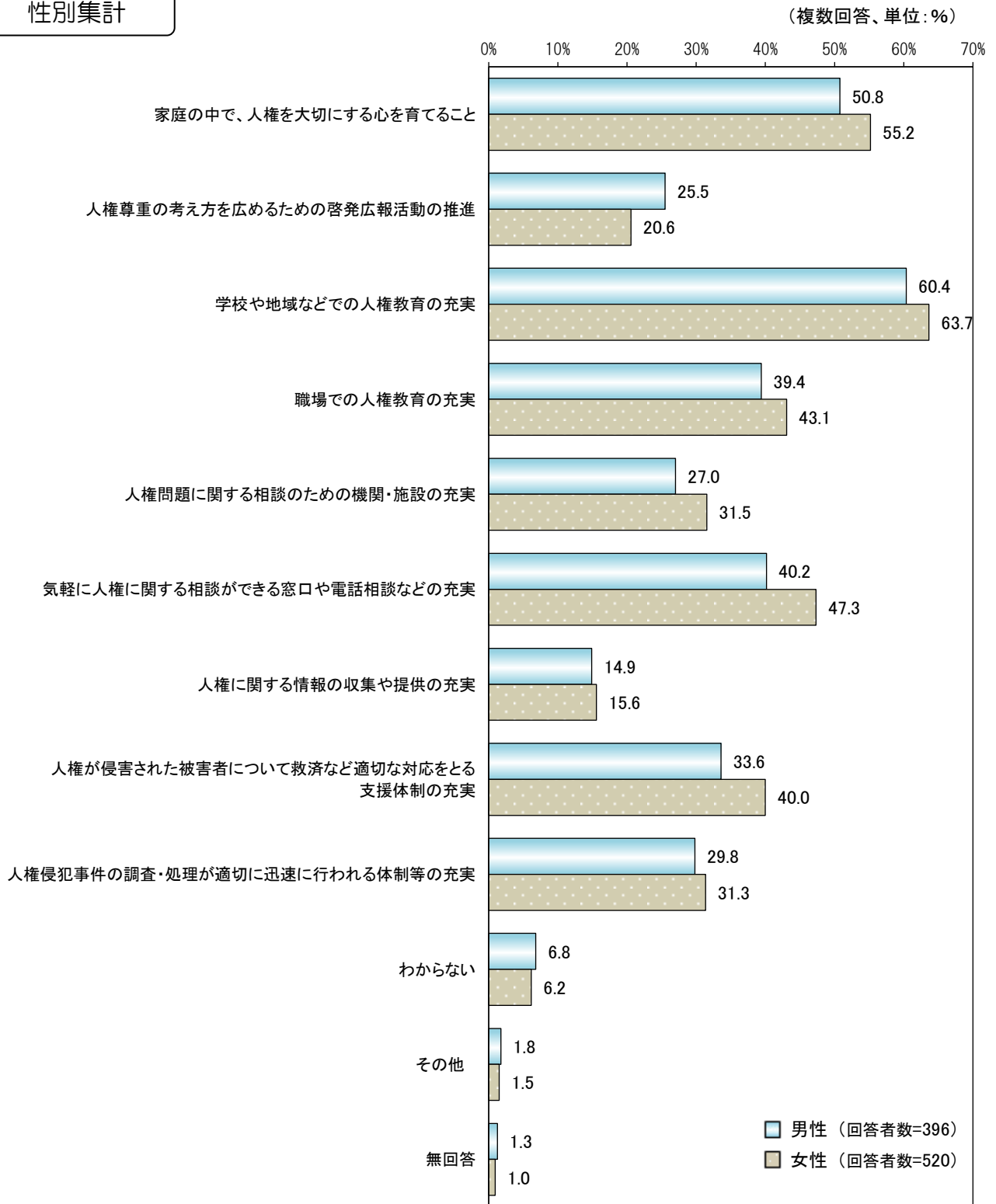
1. 家庭の中で、人権を大切にすることを育てること
2. 人権尊重の考え方を広めるための啓発広報活動の推進
3. 学校や地域などでの人権教育の充実
4. 職場での人権教育の充実
5. 人権問題に関する相談のための機関・施設の充実
6. 気軽に人権に関する相談ができる窓口や電話相談などの充実
7. 人権に関する情報の収集や提供の充実
8. 人権が侵害された被害者について救済など適切な対応をとる支援体制の充実
9. 人権侵害事件の調査・処理が適切に迅速に行われる体制等の充実
10. わからない
11. その他 ()

全体集計



「学校や地域などでの人権教育の充実」が61.0%と最も高く、次いで「家庭の中で、人権を大切にすることを育てること」が52.4%、「気軽に人権に関する相談ができる窓口や電話相談などの充実」が43.0%となっている。

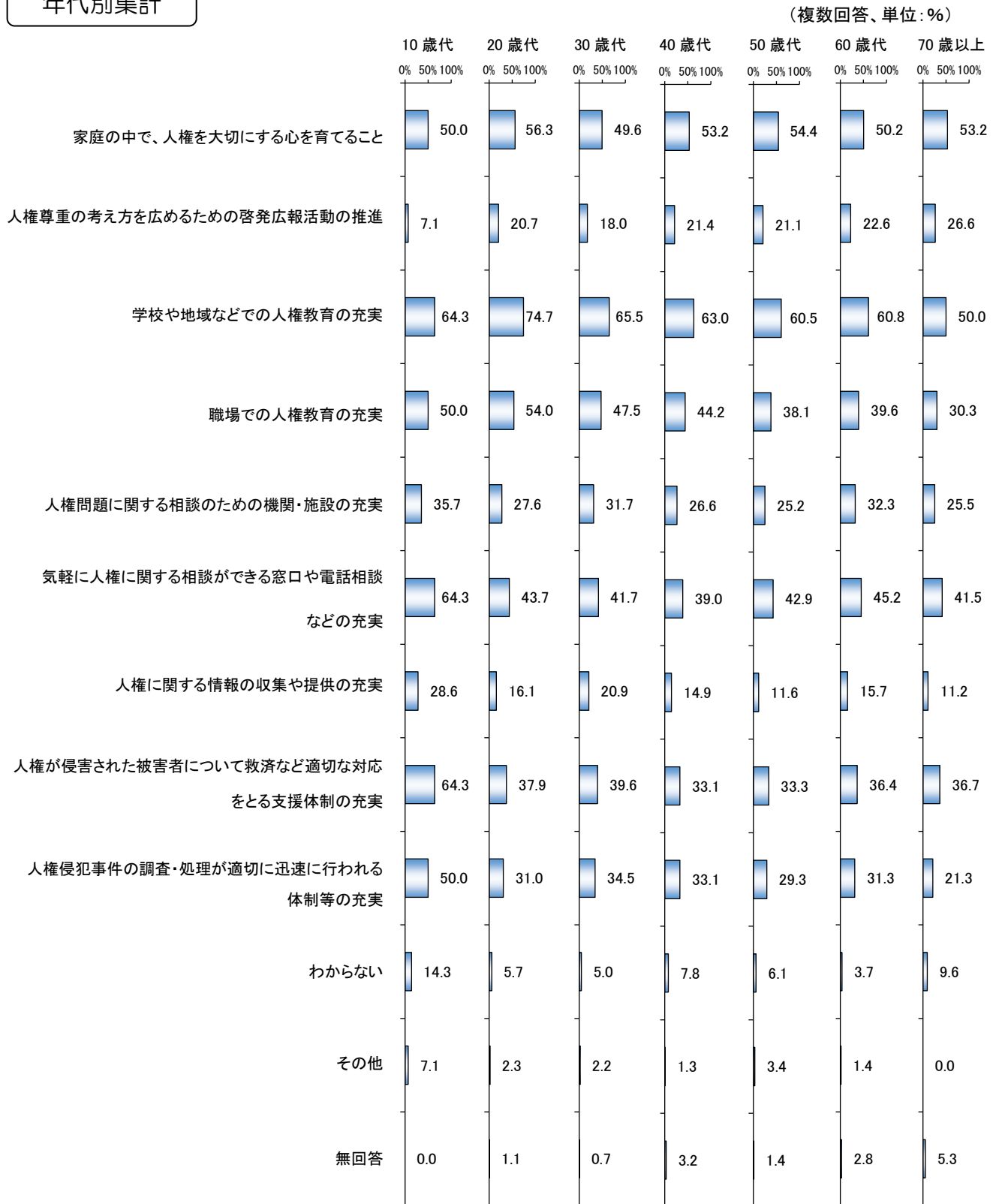
性別集計



性別で見ると、男女ともに「学校や地域などでの人権教育の充実」の割合が最も高く（男性は60.4%、女性は63.7%）、次いで「家庭の中で、人権を大切にすることを育てること」（男性は50.8%、女性は55.2%）、「気軽に人権に関する相談ができる窓口や電話相談などの充実」（男性は40.2%、女性は47.3%）となっている。

「気軽に人権に関する相談ができる窓口や電話相談などの充実」が最も男女差が大きく、男性（40.2%）よりも女性（47.3%）の方が7.1ポイント高くなっている。

年代別集計



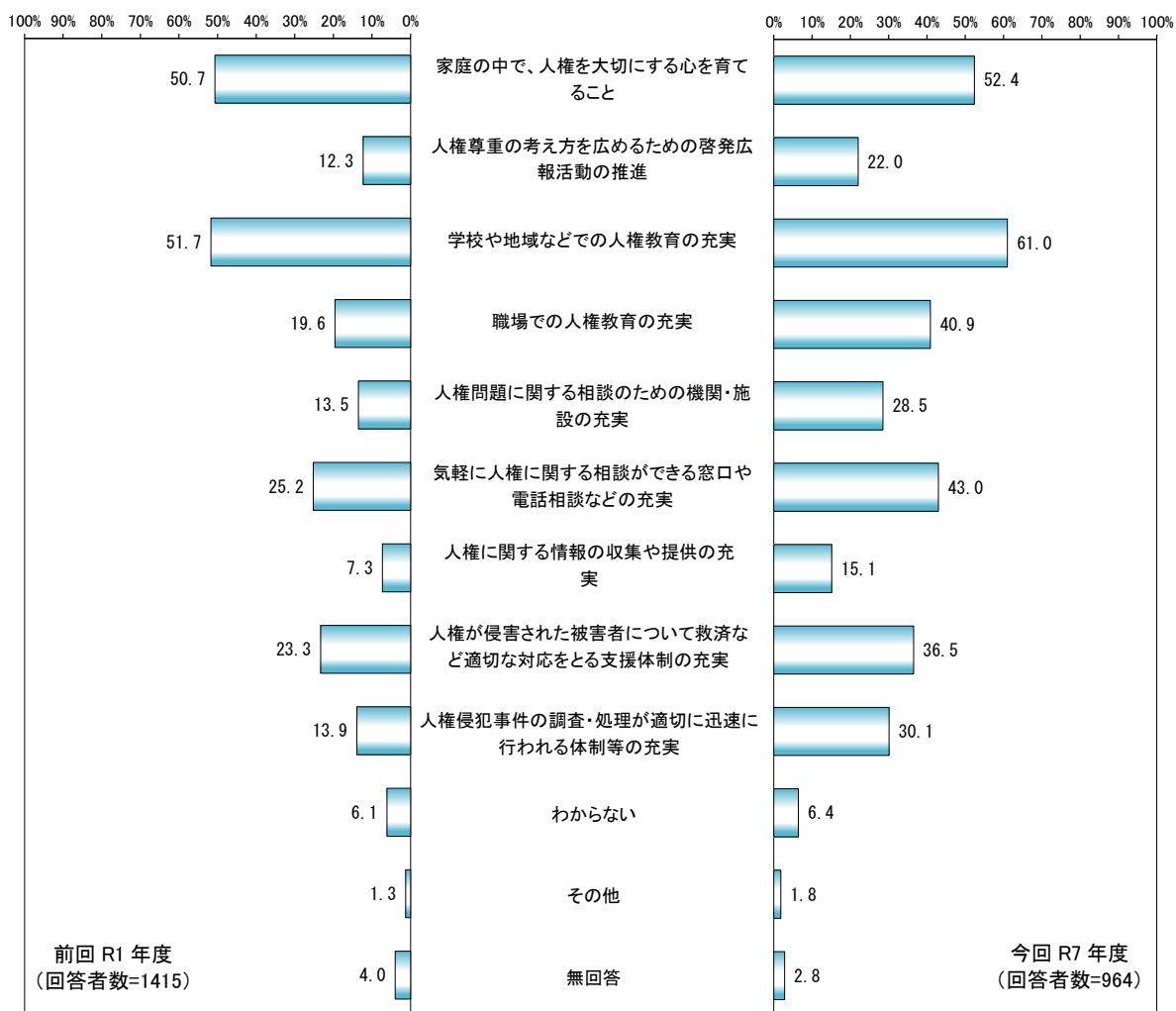
(回答者数=14) (回答者数=87) (回答者数=139) (回答者数=154) (回答者数=147) (回答者数=217) (回答者数=188)

年代別でみると、10 歳代～60 歳代は「学校や地域などでの人権教育の充実」、70 歳以上は「家庭の中で、人権を大切にすることを育てること」の割合が最も高くなっている。「家庭の中で、人権を大切にすることを育てること」は 10 歳代～60 歳代でも割合は高くなっている。

その他の項目では、10 歳代は「気軽に人権に関する相談ができる窓口や電話相談などの充実」、「人権が侵害された被害者について救済など適切な対応をとる支援体制の充実」の割合も最も高くなっている。

過去調査との比較

* 前回調査では、本設問は「最大 3 つまで選択可」として実施したが、今回調査では「複数回答（選択数の制限なし）」として実施している。



前回調査と同様に、今回の調査においても「学校や地域などでの人権教育の充実」の割合が最も高くなっており、2番目、3番目に割合が高い項目についても、前回と同様「家庭の中で、人権を大切にする心を育てること」、「気軽に人権に関する相談ができる窓口や電話相談などの充実」となっている。

前回からの割合の変化を見ると、「職場での人権教育の充実」（21.3ポイント増）、「気軽に人権に関する相談ができる窓口や電話相談などの充実」（17.8ポイント増）、「人権侵犯事件の調査・処理が適切に迅速に行われる体制等の充実」（16.2ポイント増）、「人権問題に関する相談のための機関・施設の充実」（15.0ポイント増）において、大きく増加している。

19. 人権について感じていること（自由意見）

人権問題について、自由記述形式で質問を行ったところ、174件の意見があった。以下では、7テーマ・15項目ごとに意見を整理する。

テーマ① 情報化社会における課題に関すること	21件
SNS等.....	12件
個人情報.....	2件
ハラスメント.....	4件
メディア.....	3件
テーマ② 教育に関すること	18件
いじめ.....	3件
教育.....	15件
テーマ③ 行政・制度に関すること	10件
施策.....	10件
テーマ④ 人権・差別・偏見に関すること	68件
高齢者・障害のある人.....	7件
人権.....	43件
同和.....	13件
男女.....	5件
テーマ⑤ 外国人・マイノリティに関すること	7件
外国人・LGBT.....	7件
テーマ⑥ アンケートに関すること	8件
実施.....	6件
結果.....	2件
テーマ⑦ その他	42件
その他.....	42件

<情報化社会における課題に関すること>【合計21件】

○SNS等（12件）

記入内容	件数
SNS等で個人を多数で誹謗中傷、攻撃する風潮を何とかすべき	3
SNSやインターネット時代に応じて法令等を改正する必要がある	2
SNSやインターネットを使用した人権無視の世の中を許してはいけない	1
SNS等を使った目に見えない犯罪が増加し、不安に思う。どう防ぐかが課題	1
インターネット等による虚偽情報が拡散することに脅威を感じる	1
インターネットの普及でプライバシーの侵害は広がっていると思う	1
それぞれの理解を深め、解決に向け取り組むことが重要	1
身近で具体的な議題をSNSなどに発信したらみんな考えてくれるかも	1
インターネット等の発達で、人と人のつながりや会話等がうすれている	1
計	12

○個人情報（2件）

記入内容	件数
個人情報の漏洩も人権侵害だと思う	1
情報管理について、個人の情報や財産はしっかり守られる必要がある	1
計	2

○ハラスメント（4件）

記入内容	件数
何度もセクハラ的発言や行動を受け、人間が信用できなくなった	1
パワハラが常態化している行政が県民に人権侵害を問うのはいかがか	1
和歌山県全体に働き方改革を行ってほしい	1
部下に指導したことがパワハラといわれる風潮がなくなれば良い	1
計	4

○メディア（3件）

記入内容	件数
マスコミはおもしろおかしく番組を作っている偽善者だと思う	1
テレビ・報道等で被害者側の人権はあまり守られていない	1
情報社会は恐ろしい。良い面悪い面半々	1
計	3

<教育に関すること>【合計 18 件】

○いじめ（3件）

記入内容	件数
学校や職場でいじめをなくしたい。いじめられる身になって考える教育をしてほしい	1
他人事だと思うと無関心やいじめが起こりやすい	1
グループホームでスタッフに嫌がらせを受けたので二度とないようにしてほしい	1
計	3

○教育（15件）

記入内容	件数
学校、職場、などでの教育が必要である	7
学校での道徳教育が必要である	3
小学生のうちから社会的弱者と触れ合うことが必要である	1
個人の自由ばかりを教育した結果が現在のありさまである	1
家庭、地域、学校で常に意識をもって取り組むことが大切である	1
学校や職場などで知る機会があればいいと思った	1
学校で人権教育不足や公務員以外の職場での人権研修が行われていないのが問題	1
計	15

<行政・制度に関すること>【合計 10 件】

○施策 (10 件)

記入内容	件数
人権問題について、市民に正しい知識を習得できる機会を作ってほしい	3
子供時代に寛容な姿勢を身に付けさせるため、行政はもっと改革すべきである	1
職員の採用や人事異動が公平にされているか疑問である	1
市自体が研修だけでなく組織全体を見直す必要がある	1
誰もが安心して暮らせる世の中にしてほしい	1
中高年の引きこもりに対し、行政として社会復帰に対してもっとサポートしてもよい	1
日常の何気ない言動が人権を簡単に傷つけるという危機感を子どもたちが持てるよう行政に取り組んでほしい	1
生活保護者の対象を見直してほしい	1
計	10

<人権・差別・偏見に関すること>【合計 68 件】

○高齢者・障害のある人 (7 件)

記入内容	件数
デジタル化は高齢者には分かりにくく、見捨てられた感じがする	1
日常の機械化に対応するための教室があればいい	1
高齢者施設の職員が入居者からの暴言・セクハラを受けることも人権侵害だと思う	1
高齢者や障がい者は立場が弱く人権が侵害される場合が見受けられるため、職場では人権問題について知識を高めている	1
障がい者への理解がなく特に精神障害者への対応が不安。窓口でもありきたりの対応で相談するところがない	1
障がい者（特に精神・発達障害）の働く場がないので、働ける場がほしい	1
私は障がい者で人から見られることは分かっているが、外に出たい	1
計	7

○人権 (43 件)

記入内容	件数
人権問題は、他人事でなく自分のこととして考えなければならない	4
人権問題について、講演などに参加するなどもっと学習したい	2
一人一人が人権に関する知識を深め、差別や偏見をなくす意識の向上が大切である	2
人権問題意識が強すぎるように感じる。人それぞれ考えがあっていい	2
自分の人権や利益を過剰に守ることで他人の人権を侵害することが多い	2
入院患者の人権が守られていない。病院の身勝手な運営を放置しないでほしい	1
「男性の人権問題」に関する選択肢が無いことが軽視されている証拠と感じた	1
人権問題について考えている大人がすごく減っている	1
人権について、子供にはその時々で良し悪しを言ってきた	1
人間には平等に生きる権利と自由があるため、差別偏見があってはならないと思う	1
人権についてこれから意識して行動したい	1
防犯カメラでの顔認証の不当な仕様で人権が侵害されている	1
現在のネット社会で人権が守られていくのか不安	1
「人権問題」といわれると触れてはいけない、避けたいハードルの高い問題と捉えてしまう	1
国も国民も全部が潤わなければ改善しない問題である	1
子ども、高齢者、障がい者等弱者が守られる社会を願っている	1
人権問題は発生している時にどのように解決するかが求められる	1
人権を商売にしている人は信用できない。もっと社会的、倫理的に議論すべき	1
人類が存在し続ける限り人権問題は永遠に続くであろう	1
柔軟な心、大きな視野、余裕が持てる社会であってほしい	1
人権については分からない	1
人権を区別と混同していることがある。人権は大事だがなんでも平等は逆におかしい	1
他人の人権を尊重することが大切である	1
人権は民主国家の根幹である。行政において協力に取り組んでほしい	1
人権問題の加害者は、40 歳以上の昭和の人々が多いと感じる	1

記入内容	件数
人権といって活動している人で、逆に自ら差別を創り出している人もいると思う	1
災害時の人権に関する意識調査や啓発活動など、市民への認識を広めるべきである	1
何か問題がある時に正しい行動ができる人は少ないと思う	1
幸せに生きるために保障されるべき人権であるが、その保障が難しい世の中である	1
いつの時代になっても人権問題が無くならないのはなぜかと思う	1
人権問題は日常茶飯事に行われていると思う	1
昔に比べれば福祉や介護は素晴らしく進んだと思う	1
「弱者は優遇されて当然」といった独善的な意識の排除や義務の履行も重要である	1
人権と言いつつ義務や秩序を無視して人権を語ると尊敬しあえる社会にはならない	1
拉致問題をどうか早く解決してほしい	1
拉致問題について、難しいのは分かるが政府の真剣さが伝わらない	1
計	43

○同和（13件）

記入内容	件数
同和を問題にしたり学ぶことで逆に差別の気持ちが出てくるのではないか	3
同和の人から妬まれたり嫌がらせを受ける	1
和歌山市の同和行政はゆがんでいるのか	1
同和への過度の優遇がある。権利ばかり訴える人が多い	1
同和など自然に忘れられていくはず。むしろ寝ようとしている子を起すために施策を考えているように思える	1
今の時代に同和問題を取り上げる必要があるのか	1
同和問題は何年も経つのに誰がどのように伝えているのか不思議である	1
教育機会があってもどうすべきかをもっと分かるようにしてほしい	1
差別問題は一人一人の考え方を是正しないとなくなる問題である	1
同和問題の学校教育はいらない。補助金を不正に受け取っているのを厳格に対処してほしい	1
地道に啓発活動を続けることが大切である	1
計	13

○男女（5件）

記入内容	件数
男性の人権についての質問がなかった	3
電車に男性専用車両も作ってほしい	1
男女平等でなければならない	1
計	5

<外国人・マイノリティに関すること>【合計7件】

○外国人・LGBT（7件）

記入内容	件数
日本は昔からLGBTのひとたちには寛容な国だと思っている	1
外国人の理由で専門学校の先生から差別やパワハラをされた	1
外国人の迷惑行為で日本人の人権が侵害されていることを解決してほしい	1
外国人ファーストの政府が問題。もっと日本国民を第一に考えて政策を考えてほしい	1
簡単に外国人に運転免許を取得させないでほしい	1
外国人や性的マイノリティのために日本人の多数の人権が脅かされている	1
外国人とのトラブルを耳にするが、表面化された問題だけでなく反発が起こっている根本部分から解決しようという行政の意識が大切である	1
計	7

<アンケートに関すること>【合計 8 件】

○実施 (6 件)

記入内容	件数
このような機会があり、うれしく思う。機会があればまた協力したい	1
調べればすぐわかる該当差別があるのでメルアドは記載しない	1
たくさんの人の意見を聞く機会が多くなれば良い	1
アンケート対象者が 3,000 人では少なすぎる	1
このようなアンケートに税金を使わないでほしい	1
このようなアンケートは同和問題にマイナスイメージを持ってしまう	1
計	6

○結果 (2 件)

記入内容	件数
アンケートの結果・成果がどのような形で公表されるのか疑問である	1
明確なビジョンがなければ問題は解決しない。やっているだけの政策になる	1
計	2

<その他>【合計 42 件】

○その他 (42 件)

記入内容	件数
すべての人が平等で楽しく生きていけるようになってほしい	3
学校が本気で差別問題に取り組んでいると感じた	1
空腹を我慢する子どものニュースを見るのが一番つらい	1
子供に対して一人の人間として理解し、接すること	1
人を見た目で決めないで理解できる範囲で接しようと思う	1
全てにおいて不十分	1
家庭環境が一番大事	1
公演を聞いたときはなるほどと思うが、常日頃はあまり感じない	1
今の時代そんなこと思ったこともない	1
自由を奪う等の人への無駄なかかわりは良くないことである	1
問題がないものも問題としてしまうのがよくない	1
右翼団体をどうにかしてほしい	1
普段あまり関心を持っていなかった	1
PCから回答しようとしたが、IDとパスワードが一致しないと受け付けられなかった	1
最近では企業内でも労務的に守られている。何かが変わってきていると感じる	1
権利を守るためには自己防衛する必要がある	1
入院や一人暮らしの入居などの保証人制度を行政で行えないか	1
非正規雇用を作ったら福利厚生がなくなり、それによりすべての税が減少する	1
色々な制度を知っていても使いにくいケースもあり、後押ししてくれる環境が大切	1
日本は終わっています。昭和は戦後から良い時代だった	1
本人がいくら努力しても解決できないことを言うのが差別である	1
差別主義者の政治家を解任すべきである	1
様々な境遇の人と接する機会が少ないため、差別への気づきや対応を学ぶ機会が少ないと思う	1
自分には変えられないもどかしさを痛感する	1
今まで差別を受けたことがなく、今回のアンケートも答えられないことが多い	1
いつの時代も差別する人はいるし、しない人は言われなくてもしない	1
行き過ぎた擁護は逆に差別を助長もしくは生むことになると思う	1
今の日本は人がやりたがらない仕事や安い仕事を外国人にさせようとしているが、それこそ差別を生む原因である	1
皆ストレスが溜まって、発散場所がないから人にあたるのではないか	1

記入内容	件数
一番大切な気持ちを守り続けた自分を信じること	1
人それぞれ違うから、意見を言ったり考えたりしてもあまり意味がない	1
すべての回答が自分にとって適切か疑問である	1
すべての人を同じ人間と考えられる市民の意識、風土を高める必要がある	1
その時々で最適な生き方ができる、認められる世の中になれば良い	1
人の感情がある以上、悪意は無くならない	1
家庭と仕事が両立できる社会であってほしい	1
国や性別、世代を超えて誰もが尊重される世の中になるとよい	1
差別がない社会にしたい。お互いに尊重し合える人間社会であってほしい	1
一人一人がありのままに自由楽しく生きられる社会がいい	1
一人一人が人権に対する知識を深めようと努めることが重要	1
計	42

参考資料 意識調査票

和歌山市人権問題に関する意識調査へのご協力をお願い

拝啓、時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

皆様には、日頃から市政にご協力いただきましてありがとうございます。

さて、和歌山市では「人権問題に関する意識調査」を行い、市民の皆様の
ご意見をお伺いし、人権施策を進めるための基礎資料として活用させていただ
きたいと考えております。このアンケートは、住民基本台帳に登録されて
いる18歳以上の市民の中から3,000人の方を無作為に選ばせていた
きました。

ご多忙の折、誠にお手数ではございますが、ご協力くださいますようお願い
申し上げます。

なお、この調査結果はコンピュータにより統計的に処理を行い、調査の目
的以外に使用する事はありません。また、市が責任を持って保管しますの
で、個人の秘密が漏れたり、アンケート回答者にご迷惑をおかけするよう
なことは一切ございません。率直なご意見をお聞かせいただきますようお願い
申し上げます。

敬具

令和7年5月

和歌山市長 尾花正啓

ご記入にあたってのお願い

◆ ご回答は、各質問の説明に従って、あてはまる選択肢の番号を ○ 印で
囲んでください。

◆ 「その他」を選んだ場合は、できるだけ具体的にその内容をお書きくださ
い。

◆ 回答は、あて名のご本人がお答えくださるようお願いいたします。（記入
後、名前を書く必要はありません。）

ご本人での回答が困難な方は、ご家族などのご協力により回答してくださ
い。

◆ ご記入後は、お手数ですが、無記名のまま、同封の返信用封筒（切手は必
要ありません。）に入れ、6月30日（月）までにご投函ください。

《インターネットによる回答もできます》

・お手持ちのパソコンまたはスマートフォンから下記
URLを直接入力するか、または右記QRコードから
アクセスして、ご回答ください。

URL <https://logoform.jp/form/fKMM/884209>

回答する際の、ID とパスワードは別添のとおりです。

※インターネットによる回答をされた方は、郵送による回答は不要です。

◆ この調査に関するお問い合わせは、
和歌山市役所 人権同和施策課（電話 435-1058）までお願いします。



1 人権について

【問1】 あなたの身の回りで人権が守られていると思いますか。

(○は1つだけ)

1. はい
2. いいえ

【問2】 あなたは、「人権」に関心を持っていますか。次の中から選んでください。

(○は1つだけ)

1. かなり持っている
2. ある程度持っている
3. あまり持っていない
4. まったく持っていない
5. 「人権」がどのようなものかわからない

【問3】あなたは、「人権問題」というと、特にどのような問題に関心がありますか。

次の中から選んでください。（〇はいくつでも）

1. 同和問題（部落差別）
2. 女性の人権問題
3. 子どもの人権問題
4. 高齢者の人権問題
5. 障害のある人の人権問題
6. 外国人の人権問題（ヘイトスピーチ*など）
7. アイヌの人々の人権問題
8. 犯罪被害者及びその家族の人権問題
9. 刑事手続きに関わりをもった人（刑務所などを出所した人や被疑者、被告人）の人権問題
10. 働く人の人権問題（職場におけるハラスメント*の問題や長時間労働など）
11. ハンセン病（元）患者とその親族やエイズ患者・HIV*感染者等・難病患者の人権問題
12. インターネット上での人権問題
13. 性的マイノリティの人々（同性愛者、性同一性障害*、自分の性に違和感があるなどの人々）

の人権問題

14. ホームレスの人権問題
15. 拉致問題
16. 自死（自殺）に関わる人権問題
17. プライバシーの保護に関わる人権問題
18. 公権力に関わる人権問題
19. 特にない
20. その他（）

【問4】あなたは、過去約5年の間に、自分が差別や人権侵害を受けたと感じたことがありますか。次の中から選んでください。（〇は1つだけ）

- | | | |
|----------|---|-------------------|
| 1. ある | → | 問4-2、問4-3をお答えください |
| 2. ない | → | 問5にお進みください |
| 3. わからない | → | |

※ ヘイトスピーチ*（特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動。）

※ 職場におけるハラスメント*（仕事上の立場を利用した「いじめ」や「嫌がらせ」。）

※ HIV*（ヒト免疫不全ウイルス、感染によって免疫力が低下し厚生労働省の指定する23の合併症がみられたときエイズ（後天性免疫不全症候群）と診断されます。）

※ 性同一性障害*（生物学的な性（からだの性）と性の自己意識（こころの性）が一致しないことに対して、持続的な不快感や嫌悪感を抱いている状態であること。）

【問4-2】問4で「ある」と答えた方におたずねします。それはどのような場合ですか。次の中から選んでください。（〇はいくつでも）

1. あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口
2. 仲間はずれやいやがらせ、いじめ
3. 暴力や虐待
4. 自分には身に覚えのない理由による不平等または不利益な扱い
5. プライバシーの侵害
6. 個人情報勝手に使われること
7. マイノリティ*を理由とする差別や偏見
8. セクシュアル・ハラスメント*
9. パワーハラスメント*
10. ストーカー行為*
11. 人種、信条、性別、社会的身分などによる政治的、経済的、社会的な差別
12. 公的機関や企業などによる不当な扱い
13. その他（ ）

【問4-3】問4で「ある」と答えた方におたずねします。その時どうされましたか。次の中から選んでください。（〇はいくつでも）

1. 友だち・同僚に相談した
2. 家族・親戚に相談した
3. 職場の上司に相談した
4. 弁護士に相談した
5. 警察に相談した
6. 法務局や人権擁護委員に相談した
7. 地方自治体（県や市）に相談した
8. 民間団体に相談した
9. 自分で解決した
10. 何もしなかった、我慢した
11. 相談する場所を見つけられなかった
12. 相手に直接抗議した
13. その他（ ）

※ マイノリティ* （社会的少数者または社会的少数集団。）

※ セクシュアル・ハラスメント* （相手を不快にさせる性的な言動。）

※ パワーハラスメント* （権力や地位を利用した職場における言葉による暴力や強要。）

※ ストーカー行為* （同一の者に対し、つきまとい、待ち伏せ、押しかけなどを反復して行うこと。）

3 市民相互の人権について

【問7】 現在、あなたは近隣の人たちとの付き合いや人間関係に満足していますか。
次の中から選んでください。（〇は1つだけ）

1. 非常に満足している
2. 満足している
3. 少し不満がある
4. かなり不満がある

4 同和問題（部落差別）について

【問8】 あなたは、同和問題（部落差別）と自分自身との関わりについてどのような意識を持っていますか。次の中から選んでください。（〇は1つだけ）

1. 差別を解消するために、自分もできる限り努力したいと思う
2. 自分は差別をしないでおこうと思う
3. 差別はいけないことだと思うが、できれば関わりあいたくないと思う
4. 自分には関係ないと思う
5. その他（ ）

【問9】 仮に、あなたのお子さんがいて、結婚したいといっている相手が同和地区の出身者だとわかった場合、あなたはどうしますか。次の中から選んでください。（〇は1つだけ）

1. 本人の決定に従う
2. 全く問題にしないと思う
3. 迷いながらも、結局は問題にはしないと思う
4. 迷いながらも、結局は考え直すように言うと思う
5. 家族や親せきに反対があれば、考え直すように言うと思う
6. その他 具体的に（ ）

自由意見について

人権問題について、ご意見などがございましたら、ご自由にお書きください。

長時間、ご協力いただきありがとうございました。

この調査票は、同封の封筒に入れて返送してください。

(切手は不要です)

人権問題に関する意識調査

—報告書—

2026年（令和8年）3月発行

和歌山市

市民環境局 市民部 人権同和施策課

〒640-8511 和歌山市七番丁23番地

電話 073-435-1058